

科目名	ベーシックゼミ					担当者	専任教員						
区分	選択必修	2	単位	授業回数	30	回		授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		担当教員のオフィスアワーまたは、メールアドレスを通じて連絡する。第1回目の授業以前に、メールアドレスについては告知がある。											
専門的 学習成果	①	担当教員の専門および関連する領域について、テーマを設定、調査、探求し、研究成果として作品をつくりあげ、教養を高める。											
	②	建学の精神と地域の特性を理解し、主体性・自主性を伸ばし、社会貢献する知見と技術を身に付け、機会に応じて実践する。											
	③	自身の特徴を理解し、卒業後の方向性について検討し、進路選択を明確にし、自立した社会人・職業人になる。											
汎用的 学習成果	(1)	担当教員の専門および関連する領域について、テーマを設定、調査、探求し、研究成果として作品をつくりあげる過程で、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、職業人として自立し、問題解決に活かすことができる。(専門的学習成果①③に関連)											
	(2)	自身の特徴を理解し、卒業後の方向性について検討し、進路選択を明確にする過程で、論理的思考を高め、自己理解を深め、アイデンティティを確立させる。(専門的学習成果②③に関連)											
	(3)	建学の精神と地域の特性を理解し、主体性・自主性を伸ばし、自らの能力を活かし、周囲と協働し、社会貢献ができる。(専門的学習成果②③に関連)											
授業概要	本学の理念である仏教精神に学びながら、自己と他者とともに慈しみ尊重する和の心をもって社会に貢献する生き方について考え、体験する機会が与えられる。また、社会人としての基本であり、人間が生きる上で最も重要なコミュニケーション能力について、鍛錬し高めていく。更に社会生活をする上での挨拶、慣習、儀礼などについても、最低限の素養を身に付け、教養を深める。ゼミ活動および他ゼミ学生との交流を通じて、協働していく力を養う。各種活動を通じて、進路選択に向けた自立性の確立を目指す。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		研究記録	30	研究記録を1本作成する。									
		発表	20	研究について発表を行う。									
	汎用的 学習成果	平常点	50	授業・研究に取り組む意欲、姿勢、自主性、協働力									
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①学生生活について重要な情報についての連絡を頻繁に行うため、常に、最新の正しい情報を入手するように配慮する。配布した資料については、熟読し、的確な理解をするように心がける。予習復習それぞれ週1時間程度必要になる。 ②研究については進捗状況を随時確認し、コメントする。作品完成の際についても、口頭または書面にてコメントを行う。発表については、口頭によるコメントでフィードバックを行う。平常点にかかる観点については、随時コメントを行う。												

回数	授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
	授業内容	ガイダンス/履修計画確認	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	16回	授業内容	履修計画確認・取得単位数確認	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
1回	学習成果	ベーシックゼミの意義について理解し、目的意識をもって授業に取り組むことができる。自らのキャリア構築に必要な履修計画を検討する。	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	17回	授業内容	履修計画確認・取得単位数再確認	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
	予習復習の内容	授業の時間を精査し、年間の授業計画をより厳密に作成する。			学習成果	キャリアの方向性と履修科目の整合性および単位数を精査検証する。		
2回	授業内容	スケジュール/履修計画再確認	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	18回	授業内容	履修計画確認・取得単位数再確認	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
	学習成果	ベーシックゼミの年別スケジュールに合わせた自らの行動計画について検討する。履修計画については再度の検討を行う。			学習成果	履修計画の変更・修正の訂正の反応の確認ならびに、予定取得単位数の妥当性について検討する。		
3回	予習復習の内容	研究プランについての構想づくりに着手する。		19回	予習復習の内容	自身の単位取得可能性について、実績を踏まえ検討する。		
	授業内容	建学の精神再確認	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。		授業内容	研究テーマに沿った、幅広い調査	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
4回	学習成果	建学の精神に立ち返り、自らの進むべき道、行うべきことについて内省する。		20回	学習成果	研究テーマにかかる文献等について、幅広い情報の収集を行い、整理する。		
	予習復習の内容	建学の精神に通った行動であったか検証してみる。			予習復習の内容	文献、資料の分量の程度を調べ、自身が調査できる範囲について特定する。		
5回	授業内容	キャリア構築進捗確認/研究テーマの選択開始	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	21回	授業内容	研究テーマに沿った、先行文献調査	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
	学習成果	キャリア構築の進捗について精査する。研究テーマについて選択を始める。			学習成果	研究テーマにかかる文献のうち、最も高い信頼度と深く探求している文献を調べ、内容を精査する。		
6回	予習復習の内容	大きな図書館に赴き、様々な領域について、種類、書籍の分量などを調査する。		22回	予習復習の内容	研究テーマについて、異なる学問領域からの発言や、異議申立てなどを調べる。		
	授業内容	キャリア構築進捗相談/研究テーマの選択	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。		授業内容	研究テーマに沿った、学術論文調査	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
7回	学習成果	キャリア構築の進捗について課題等について担当教員と検討する。研究テーマについて絞り込みを始める。		23回	予習復習の内容	キャリアについて教職員・専門家と相談する機会を積極的に設ける。		
	予習復習の内容	研究テーマについて調査を始める。			授業内容	研究テーマに沿った、学術論文調査	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
8回	授業内容	研究テーマの多角的調査	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	24回	予習復習の内容	研究テーマについて教職員・専門家と相談する機会を積極的に設ける。		
	学習成果	研究テーマについて多角的調査を始める。			授業内容	研究テーマに沿った、学術論文調査	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
9回	予習復習の内容	類似テーマ、真逆テーマなど、多角的な調査を、司書など専門家に相談して進める。		25回	予習復習の内容	研究テーマについて調査を始める。		
	授業内容	研究テーマの再検討	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。		授業内容	研究テーマに沿った、学術論文調査	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
10回	学習成果	研究テーマの妥当性について検討する。		26回	予習復習の内容	研究テーマの「問い」が先行研究について明らかにされているものかどうか精査する。		
	予習復習の内容	研究テーマとしての独自性が担保されるか、司書など専門家に相談する。			授業内容	研究記録、第一校提出	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
11回	授業内容	研究テーマの明確化	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	27回	学習成果	第一校を提出し、担当教員と協議・相談する。		
	予習復習の内容	研究テーマを明確化する。			予習復習の内容	第一校を訂正し、第二校を作成する。		
12回	予習復習の内容	研究範囲を特定し、周辺領域との差異が明確になっているか、図書館などで調べる。		28回	授業内容	研究記録、第二校提出	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
	授業内容	研究テーマの叙述化	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。		学習成果	第二校を提出し、担当教員と協議・相談する。		
13回	学習成果	研究テーマについて文章化し、論理性・整合性について精査する。		29回	予習復習の内容	第一校を訂正し、第三校を作成する。		
	予習復習の内容	研究範囲を、簡潔な文章表現で示せるよう、推敲を繰り返す。			授業内容	研究記録、校了	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
14回	授業内容	研究テーマの叙述化の味	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	30回	予習復習の内容	研究記録を模倣し、文体に慣れる。		
	学習成果	研究テーマの「問い」に焦点を当て、研究する価値の妥当性について検証する。			授業内容	研究記録のコンテンツのシナリオ構成	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
15回	予習復習の内容	「問い」が以降、半年かけて探求する価値のあるものか、再度検討する。		31回	予習復習の内容	研究記録のコンテンツの要素を整理し、その配列と論理性について検証する。		
	授業内容	資料の振り分け	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。		授業内容	研究記録のコンテンツの要素を整理し、その配列と論理性について検証する。	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
16回	学習成果	これまでの活動履歴を振り返り、活動計画を見直す。		32回	予習復習の内容	研究記録のコンテンツの要素を整理し、その配列と論理性について検証する。		
	予習復習の内容	研究テーマの叙述化の校正	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。		授業内容	研究記録のコンテンツの要素を整理し、その配列と論理性について検証する。	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
17回	学習成果	叙述化した研究テーマを精査し、校正する。		33回	予習復習の内容	文章としての歪み、重複、冗長性について検証する。		
	予習復習の内容	文章としての歪み、重複、冗長性について検証する。			授業内容	研究記録の口頭発表	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
18回	授業内容	研究テーマの叙述化の校正	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	34回	予習復習の内容	口頭発表を踏まえ、研究記録再度見直し、推敲する。		
	学習成果	叙述化した研究テーマを精査し、校正する。			授業内容	研究記録の口頭発表	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
19回	予習復習の内容	研究テーマの叙述化の味	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	35回	予習復習の内容	口頭発表を行い、かつ、他者の発表から多様な研究の在り方について認識を持つ。		
	授業内容	研究テーマの叙述化の味	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。		予習復習の内容	口頭発表を踏まえ、研究記録再度見直し、推敲する。		
20回	学習成果	研究テーマの「問い」に焦点を当て、研究する価値の妥当性について検証する。		36回	授業内容	研究記録の口頭発表	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
	予習復習の内容	「問い」が以降、半年かけて探求する価値のあるものか、再度検討する。			学習成果	研究記録を提出し、ゼミ担当教員より、コメントを受ける。		
21回	授業内容	資料の振り分け	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	37回	予習復習の内容	研究記録作成までに得た、流石の情報を整理し、今後の自己研鑽に役立てる準備をする。		
	学習成果	これまでのキャリア構築の進捗を振り返り、自身の活動計画に反映する。			授業内容	2年間の活動/卒業に向けた各種情報案内	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	
22回	予習復習の内容	研究テーマの叙述化の味	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	38回	予習復習の内容	卒業までの計画、および、それ以降のキャリアアップランについて異議を新たに構想する。		
	授業内容	研究テーマの叙述化の味	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。		学習成果	2年間の学生生活を振り返り、今後の展望について計画を立てる。	計画内容に沿って、積極性、真摯さを評価する。	

科目名	キャリアデザインⅢ				担当者	専任教員						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30 <th>時間</th>	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		各教員のオフィスアワー及び電子メール、Google Classroom										
専門的 学習成果	①	現代社会の発展を展望しつつ、課題を発見し自らに引き付けて解決していくために前向きに取り組むことができる。										
	②	社会の現在と将来について洞察し、自らのキャリアを能動的に築いていくことができる。										
	③	社会人・職業人として適応するための学習を通じて、自らの職業観を涵養していくことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の発展を展望しつつ、課題を発見し自らに引き付けて解決する志向を高めることで、社会的・職業的自立に必要な知見および態度を獲得し、職業人としての自立に活かすことができる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	社会の現在と将来について洞察し、自らのキャリアを動的に構築することの重要性を学習することで、論理的思考を高め、自己理解を深め、社会人・職業人として協働することができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	社会人・職業人として適応するための学習により、自らの職業観を確立する過程を通じて、地域の発展に寄与する意義を再認識し、より積極的な貢献者となる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	社会を構成する主体的な一員となり、職業人として自立していくことを視野に、社会で自らを活かせるキャリアの将来について検討・洞察するための知見と技能を開発・発展させていく(Career Development)。キャリア構築に必要な最新の情報が随時提供され、それらを取捨選択し、学習から得られた知見を自身に適用・応用させる。学生各人にとって重要な社会人・職業人として必須の知識や技術の改善・向上に取り組む、自らの可能性を広げていく。キャリア開発総合学科の必修科目である。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	授業報告書	60	14回実施する。								
		最終レポート	10	15回目に実施する。								
		SPI試験	10	適宜、実施する。								
		平常点	10	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習の成果は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①③で評価を行う。 (2)は、専門的学習成果②③で評価を行う。 (3)は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	ディスコ		『進路ガイドブック』				ディスコ					
	実務教育出版教材編集部		[SPI基礎からはじめる問題集]				実務教育出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①社会人・職業人に求められる一般常識レベルの維持・向上に努めること。学習過程において、不明な点は明らかにした上で授業に臨むこと。(予習:週2時間程度、復習:週2時間程度) ②課題に対しては、随時フィードバックを行う。										

			授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス			レポート①授業報告書
	学習成果	授業計画を理解し、卒業後のキャリアデザインを描くことができる。			
	予習復習の内容	各種メディアから、キャリアデザインの最新情報を調査する。			レポート②授業報告書
	授業内容	筆記試験対策(1)			
2回	学習成果	採用活動における筆記試験の意味を理解し、自分なりの対策を計画できる。			レポート③授業報告書
	予習復習の内容	筆記試験の対策を実践する。			
3回	授業内容	ニーズ別学習(1)履歴書作成、面接練習など			レポート④授業報告書
	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。			
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。			レポート⑤授業報告書
	授業内容	筆記試験対策(2)			
4回	学習成果	採用活動でSPIが用いられる意味を理解し、対策することができる。			レポート⑥授業報告書
	予習復習の内容	SPI対策を実践する。			
5回	授業内容	就職活動における服装など			レポート⑦授業報告書
	学習成果	就職活動にふさわしい身だしなみについて理解できる。			
	予習復習の内容	社会人としての基本的なマナーやエチケットを確認しておく。			レポート⑧授業報告書
	授業内容	ニーズ別学習(2)履歴書作成、面接練習、労働法解説など			
6回	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。			レポート⑨授業報告書
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。			
7回	授業内容	ニーズ別学習(3)履歴書作成、面接練習(リモートを含む)、筆記試験対策など			レポート⑩授業報告書
	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。			
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。			レポート⑪授業報告書
	授業内容	筆記試験対策(3)			
8回	学習成果	筆記試験に備えて実際に取り組める。			レポート⑫授業報告書
	予習復習の内容	筆記試験の種類を意識して、準備を実践する。			
9回	授業内容	ニーズ別学習(4)志望動機書作成、履歴書作成、面接練習、ビジネス文書作成など			レポート⑬授業報告書
	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。			
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。			レポート⑭授業報告書
	授業内容	卒業生との懇談会			
10回	学習成果	本学科OB/OGの進路開拓の経験聞き、自分の進路開拓に役立てることができる。			レポート⑮授業報告書
	予習復習の内容	懇談会の内容を自分自身に当てはめて考察する。			
11回	授業内容	採用担当者との懇談会			レポート⑯授業報告書
	学習成果	採用者が求める人物像や能力を知り、自分の進路開拓に役立てることができる。			
	予習復習の内容	懇談会の内容を自分自身に当てはめて考察する。			レポート⑰授業報告書
	授業内容	ニーズ別学習(5)新卒応援ハローワークによる講演、面接練習、労働法解説など			
12回	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。			レポート⑱授業報告書
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。			
13回	授業内容	ニーズ別学習(6)履歴書作成、面接練習、ビジネス文書作成など			レポート⑲授業報告書
	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。			
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。			レポート⑳授業報告書
	授業内容	ニーズ別学習(7)新卒応援ハローワークによる講演、面接練習など			
14回	学習成果	各人が選択した課題や練習に取り組み、実践できるようになる。			レポート㉑授業報告書
	予習復習の内容	自分が取り組むべき課題を認識する。授業の内容を実践する。			
15回	授業内容	振り返り			レポート㉒授業報告書
	学習成果	自分のこれまでの活動を振り返り、今後のキャリアデザインに反映できる。			
	予習復習の内容	社会人・職業人に求められる姿を明確に意識し、追求に努める。			

科目名	オフィススタディ				担当者	富田幸重						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回数	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーについては初回の授業で連絡する。授業内容に関する質問は毎回、授業前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ビジネス実務について深く理解し、実践できる。										
	②	マナー・接遇について深く理解し、実践できる。										
	③	場面や状況に応じた的確な判断と人間関係に配慮した表現を習得し、適切な行動ができる。										
	④	ビジネス社会の現状や自己のキャリア形成についての課題を把握し、適切な指針を提示することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的なビジネス能力を学ぶことを通して、社会的職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力が養われ、他者を理解し自己表現ができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	ビジネス社会の課題や自己のキャリア形成について自ら考えることができ、その解決に向けた提案をすることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	社会人として自分に求められているものは何か。キャリア形成において必要なものは何か。企業におけるコンプライアンス・プログラムとはどのようなことを言うのか。それを踏まえながら、ビジネス実務の遂行について深い理解を持ち、業務全般に関して、的確な知識・技能を発揮できる。さらには、ビジネス社会や時事問題に興味関心を持ち、社会の一員となるべく、就職活動にも積極的に行動するよう学びを積み重ねることにより、魅力的な自己表現力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	テーマに沿ったレポートの評価 (体裁・内容・根拠・独創性にて評価する。)								
		筆記試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価する。								
平常点	10	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習として、日常的に新聞、マナーテキスト本及び関連した資料などを利用し、授業内容の理解を深めておくこと (計30時間)。事後学習としては、授業の内容を復習し、就職における情報収集や、専門的知識を身につけ、自主的に学びを発展させるようにすること (計30時間)。 ②提出された課題・レポート・試験は、全体的な解説・講評・アドバイスをもってフィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 日本の会社と業界地図	講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
	学習成果	日本の様々な業界を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
	授業内容	業種・業界の知識 様々な業種と近年の動き 産業と経済知識	
2回	学習成果	日本における様々な業界の近年の動向を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	就職活動における業界研究に役立つようにする。	
3回	授業内容	会社組織① 会社の存在意義と特徴 売り上げ・利益	
	学習成果	株式制度、売り上げと利益の仕組みを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会社の組織について理解を深める。	
	授業内容	会社組織② ガバナンスとコンプライアンス 労働法 雇用契約	
4回	学習成果	企業倫理・コンプライアンス・ガバナンスの重要性、近年の具体事例を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、希望する企業・職種のコンプライアンス・プログラムを調べておく。	
5回	授業内容	会社組織③ 人事・労務に関する用語 ビジネス用語	
	学習成果	ビジネスでよく使用するビジネス用語を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	新聞・経済に関する雑誌を読み、ビジネス用語を復習し確認する。	
	授業内容	マスメディアを利用した情報収集・分析① 新聞記事の活用	
6回	学習成果	新聞記事を読むポイントを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	興味のある新聞記事を読み、理解を深める。	
7回	授業内容	マスメディアを利用した情報収集・分析② 統計データの読み方・まとめ方	
	学習成果	数値情報のための表やグラフを作成できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、表とグラフ・統計データの特徴・重要性の理解を深める。	
	授業内容	オフィススタディ① 求められる能力 様々な事例研究 (営業・事務・接客など)	レポート課題の提出 テーマ及び詳細は授業内で指示 10回目までに提出 講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用
8回	学習成果	様々な事例研究を通して、仕事上求められる能力を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、求められる能力の理解を深める。	
9回	授業内容	オフィススタディ② 効率的・合理的な仕事の進め方 事例研究	
	学習成果	効率よく仕事を進めるための目的と手段を理解し、説明ができる。	
	予習復習の内容	PDCA サイクル、定期業務と非定期業務、マニュアル化の目的と効果を確認しておく。	
	授業内容	オフィススタディ③ 社会保障と税金 企業会計・税務の知識	
10回	学習成果	社会保障制度、税制度を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	社会保険と税金の仕組みを事前に調べておく。	
11回	授業内容	マナー・接遇① ビジネス会話 いろいろな状況への対応 顧客へのアプローチ	講義時に配付する資料・ワークシートへの取り組み・活用 筆記試験 (全15回分の内容を問う) 第15回後半に実施
	学習成果	場や状況を判断し、効果的な話し方を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	様々な団体・企業毎の、客への言葉づかいを調べてみる。	
	授業内容	マナー・接遇② 実際の業務 慶弔時の知識と対応の仕方	
12回	学習成果	実際の業務を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、慶弔時の理解を深める。	
13回	授業内容	マナー・接遇③ 日本文化 (伝統行事・歴史) 礼法の知識 席次	
	学習成果	日本文化及び、応接室・車・列車の席次を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	興味のある日本文化について調べてみる。	
	授業内容	マナー・接遇④ ホスピタリティサービス 事例から学び取るホスピタリティサービスのポイント	
14回	学習成果	ホスピタリティとは何かを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	ホスピタリティ・スキルを確認しておく。	
15回	授業内容	マナー・接遇⑤ CS (顧客満足度) 事例研究	
	学習成果	CSを考えることにより、働く目的や自身の成長実感に繋がることを理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	記憶に残るサービスとはどのようなものか考えてみる。	

科目名	IT パスポート試験対策講座Ⅱ				担当者	伊 岩 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	IT パスポート試験に合格できる。										
	②	IT パスポート試験の範囲である、ストラテジ系の概要を説明できる。										
	③	IT パスポート試験の範囲である、マネジメント系の概要を説明できる。										
	④	IT パスポート試験の範囲である、テクノロジー系の概要を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	IT パスポート試験に合格し、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	ストラテジ系を通じて、企業活動や経営戦略などビジネスインダストリに関する技術を習得し、IT 社会に役立つ行動ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	マネジメント系を通じて、情報システムの開発や運用に関する技術を習得し、将来の情報システムの在り方を探求することができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(4)	テクノロジー系を通じて、コンピュータシステムに関する知識を習得し、問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	1年次の情報科学、情報処理理論、エントリ試験対策Ⅰに続く講座である。この講座は、ITパスポート国家試験に完全合格することを目標とした対策講座である。この講座期間中に合格した学生には、さらに上のスキルを目指してもらうために、基本情報処理技術者試験の対策も個別に行う。また、2020年から小学校教育に導入されるプログラミング教育に関して、指導者の立場からアドバイスできる人材を育成する。また、AI技術に関して、今後の社会に対する倫理などについても講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストは毎回実施し、各2%ずつ正解率(0点、1点、2点)に沿って評価を行う。								
汎用的 学習成果	平常点	10	授業の態度・感心・意欲を評価する。									
		(1) は専門的学習評価①で評価を行う。 (2) は専門的学習評価②で評価を行う。 (3) は専門的学習評価③で評価を行う。 (4) は専門的学習評価④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	岡崎裕史		IT パスポート合格教本					技術評論社				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に配布した資料を読んでおくこと。(予習:週2時間程度)板書した内容は、必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を理解すること。(復習:週2時間程度) ②単元ごとに小テストを行い、その内容を授業内で解答解説するので、自らの理解を深めること。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ストラテジ系①企業活動		小テスト(企業活動に関する過去問題)
	学習成果	企業活動に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
	授業内容	ストラテジ系②関連業務		小テスト(関連業務に関する過去問題)
2回	学習成果	関連業務に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
3回	授業内容	ストラテジ系③経営戦略		小テスト(経営戦略に関する過去問題)
	学習成果	経営戦略に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
	授業内容	ストラテジ系④ビジネスインダストリ		小テスト(ビジネスインダストリに関する過去問題)
4回	学習成果	ビジネスインダストリに関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
5回	授業内容	ストラテジ系⑤情報関連法規		小テスト(情報関連法規に関する過去問題)
	学習成果	情報関連法規に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
	授業内容	マネジメント系①システム開発		小テスト(システム開発に関する過去問題)
6回	学習成果	システム開発に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
7回	授業内容	マネジメント系②プロジェクト管理		小テスト(プロジェクト管理に関する過去問題)
	学習成果	プロジェクト管理に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
	授業内容	マネジメント系③スケジュール管理		小テスト(スケジュール管理に関する過去問題)
8回	学習成果	スケジュール管理に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
9回	授業内容	マネジメント系④サービスマネジメント		小テスト(サービスマネジメントに関する過去問題)
	学習成果	サービスマネジメントに関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
	授業内容	マネジメント系⑤システム監査		小テスト(システム監査に関する過去問題)
10回	学習成果	システム監査に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
11回	授業内容	テクノロジー系①情報理論		小テスト(情報理論に関する過去問題)
	学習成果	情報理論に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
	授業内容	テクノロジー系②データ構造		小テスト(データ構造に関する過去問題)
12回	学習成果	データ構造に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
13回	授業内容	テクノロジー系③アルゴリズム		小テスト(アルゴリズムに関する過去問題)
	学習成果	アルゴリズムに関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
	授業内容	テクノロジー系④セキュリティ		小テスト(セキュリティに関する過去問題)
14回	学習成果	セキュリティに関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		
15回	授業内容	テクノロジー系⑤AI技術		小テスト(AI技術に関する過去問題)
	学習成果	AI技術に関する過去問題を理解できる。		
	予習復習の内容	事前に過去問題を解いておく。分からない部分は授業で確認する。		

科目名	韓国語会話実践Ⅱ				担当者	中 村 知 史						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 費問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	韓国語会話実践Ⅰで学んだ技術を基にハンゲルの「聞く」「話す」の応用ができる。										
	②	韓国語の構成（願望・羅列・逆説・勧誘・尊敬）を理解して会話ができる。										
	③	韓国語の文型を読解することができる。										
	④	韓国語で自分の意思表現ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	外国語を学ぶ学習スキルとそれに伴う教養を身に付け、多文化グローバルな社会を生きる力を付けることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(2)	自分の母国語とは違う外国語を学ぶことによって、国際的な感覚を身に付けることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(3)	隣国の言語や文化を理解し、自分達の言語の特徴や良さを理解することができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
	(4)	積極的な自己発信ができ、また他者を理解する力を付け、多様な人と共に生きることができる。（専門的学習成果①～④に関連）										
授業概要		韓国語会話実践Ⅱでは、「韓国語会話実践Ⅰ」で学んだ韓国語の技術を基にして、会話能力即ち「聞く」「話す」ことに重点を置いて行う。日常生活で良く使われている表現を中心に、相手に通じる韓国語の習得を目指す。そのために授業中には二人ずつ組んで会話の練習をする。また、韓国文化にも触れるため韓国ドラマや映画等も取り入れて行う。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学期内まで学習した内容に基づき、記述式の問題を課し、成績評価を行う。								
		レポート										
		平常点	50	授業参加態度や課題提出等を総合して評価を行う。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	文慶詰他		『かんたん！韓国語』							朝日出版社		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①声を出して練習すること。 宿題や課題を真面目に提出すること。 ②毎回一時間程度で終わる課題を課す。課題は添削して返す。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	「～する」用言の過去表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の「～する」用言の過去表現が分かる	
	予習復習の内容	「～する」用言の過去形を作り、その関連の課題をする	
	授業内容	「～する」用言の過去文とその実践	毎回小テストをする
2回	学習成果	韓国語の「～する」用言の過去文の会話ができる	
	予習復習の内容	「～する」用言の過去文の例文を作り、その関連の課題をする	
3回	授業内容	動詞・形容詞の過去表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の過去表現文型が分かる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞の過去表現文型を作り、その関連の課題をする	
	授業内容	動詞・形容詞の過去文とその実践	毎回小テストをする
4回	学習成果	韓国語の動詞・形容詞の過去文の会話ができる	
	予習復習の内容	動詞・形容詞の過去文の例文を作り、その関連の課題をする	
5回	授業内容	願望を表わす表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の願望を表す表現が分かる	
	予習復習の内容	願望を表す表現法を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	願望表現の実践会話とその練習	毎回小テストをする
6回	学習成果	韓国語の願望を表す表現の会話ができる	
	予習復習の内容	願望を表す表現の例文を作り、その関連の課題をする	
7回	授業内容	羅列と逆接の表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の羅列と逆接の表現が分かる	
	予習復習の内容	羅列と逆接の表現法を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	羅列と逆接表現の実践会話と練習	毎回小テストをする
8回	学習成果	韓国語の羅列と逆接の表現の会話ができる	
	予習復習の内容	羅列と逆接の表現の例文を作り、その関連の課題をする	
9回	授業内容	目的と勧誘表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の目的と勧誘を表す表現が分かる	
	予習復習の内容	目的と勧誘表現を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	目的と勧誘表現の実践会話と練習	毎回小テストをする
10回	学習成果	韓国語の目的と勧誘を表す会話ができる	
	予習復習の内容	目的と勧誘表現の例文を作り、その関連の課題をする	
11回	授業内容	尊敬形式の表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の尊敬を表す表現が分かる	
	予習復習の内容	尊敬形式の表現を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	尊敬形式の実践会話と練習	毎回小テストをする
12回	学習成果	韓国語の尊敬形式の表現の会話ができる	
	予習復習の内容	尊敬形式の表現の例文を作り、その関連の課題をする	
13回	授業内容	意志を表わす表現	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の意思を表す表現が分かる	
	予習復習の内容	意思を表す文型を覚え、その関連の課題をする	
	授業内容	意志表現の実践会話と練習	毎回小テストをする
14回	学習成果	韓国語の意志を表す表現の会話ができる	
	予習復習の内容	意志を表す表現の例文を作り、その関連の課題をする	
15回	授業内容	計画を表わす文と実践会話	毎回小テストをする
	学習成果	韓国語の計画を表す表現の会話ができる	
	予習復習の内容	計画を表す表現の例文を作り、その関連の課題をする	

科目名	ドラマで学ぶ英語の世界 ～シェイクスピアから鬼滅の刃まで～				担当者	水野 篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール										
専門的 学習成果	①	言語としての英語の全体像の概略について説明できる。										
	②	現代英語における言語におけるリスニング力を向上させる。										
	③	現代英語コミュニケーションに求められる単語、文法力を向上させる。										
	④	英語によるドラマの視聴を通じて英語圏の文化、世界観について洞察できる。										
汎用的 学習成果	(1)	英語に関する歴史・発展の知識を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	英語の単語力の向上を通じて、場面に応じた単語選択を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	英語の文法力の向上を通じて、場面に応じた表現の違いの認識を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(4)	英語のリスニング力の向上を通じて、シチュエーションに応じた使い分けについての理解を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	グローバル化の進展とユビキタス社会の発展に伴い、人類共通言語の一つとしての英語の重要性はこれまでに高く高まっている。簡単なオーラルコミュニケーションから難解な英語論文でさえ、AIによる自動翻訳によってある程度意味を知ることができる。しかし、異なる言語の背景となる文化的相違の理解や、我々の考え方や、感性を規定する枠組みの一つである言語の性質を知るとは自らの経験によって身につけていく。本授業では、ドラマ等を通じて英語という非母国語に触れ、多言語、多文化の理解を深めるものである。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回実施し、各回6.6%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①オンラインを介した資料配布、小テスト、実力査定アンケートを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持ち込んでください。 ②小テストは原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。受講者全体の中に占める自身のポジションを確認し、かつ、誤った記憶や理解を正し、資格取得へ向上する姿勢を身に付けることを期待しています。 ③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待される。難易度は高くはないが、繰り返しの発声練習が必要とされることが想定されるため、相応の空間を確保できる環境を整えるように準備してください。 ④紙または電子形式による辞書を携帯すること。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	現代英語が成立するまで。ドラマ①視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	現代英語成歴史を俯瞰し、かつ英語ドラマ(アメリカ)を視聴し、言葉のスピード感に慣れる。		
	予習復習の内容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
	授業内容	現代アメリカ英語のリスニング。ドラマ②視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
2回	学習成果	英語ドラマを視聴し、言葉のイントネーションに慣れる。		
	予習復習の内容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
	授業内容	現代アメリカ英語のリスニング。ドラマ③視聴 「鬼滅の刃」を予定	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語に吹き替えられた日本のドラマを視聴し、翻訳された言語に慣れる。		
3回	予習復習の内容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
	授業内容	現代英語の基礎となった近代イギリス英語(発音)。ドラマ④視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
4回	学習成果	英語成立の歴史と、英単語類のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語(単語)。ドラマ⑤視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語類のニュアンスの違いについて理解を深める。		
5回	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語(定型詩)。ドラマ⑥視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
6回	学習成果	英語成立の歴史と、英単語類のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語(抑揚)。ドラマ⑦視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語類のニュアンスの違いについて理解を深める。		
7回	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
	授業内容	中世イギリス英語の現代アメリカへの適用。ドラマ⑧視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
8回	学習成果	イギリス英語とアメリカ英語の違いをリスニングから直感的に理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英単語を理解・記憶する。		
	授業内容	中世イギリス英語の現代アメリカへの融合。ドラマ⑨視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	イギリス英語とアメリカ英語の違いをリスニングから直感的に理解する。		
9回	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語文章の文法を理解し構造を記憶する。		
	授業内容	現代アメリカ英語の二者間の会話(プライベート)。ドラマ⑩視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
10回	学習成果	アメリカ英語による親密な二者間のコミュニケーションを理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶する。		
	授業内容	現代アメリカ英語の二者間の会話(社交)。ドラマ⑪視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	アメリカ英語による二者間のコミュニケーションを理解する。		
11回	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶する。		
	授業内容	現代アメリカ英語のスピーチ。ドラマ⑫視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
12回	学習成果	アメリカ英語によるスピーチの形式と内容を理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語スピーチの理解・記憶に努める。		
	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑬視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを字幕なしで少し理解する。		
13回	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		
	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑭視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
14回	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを日本語字幕なしである程度理解する。		
	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		
	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑮視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを日本語字幕なしで、視聴できる。		
15回	予習復習の内容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		

科目名	情報環境論				担当者	岩 淵 正 則						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	情報セキュリティマネジメントの基礎理論を説明できる。										
	②	コンピュータシステムの暗号化とインターネットセキュリティを説明できる。										
	③	コンピュータを構成する論理回路を説明できる。										
	④	中央処理装置（CPU）の機能を説明できる。										
	⑤	メモリアーキテクチャの構成について、説明できる。										
	⑥	エンベデッドシステムの構成について、説明できる。										
	⑦	人工知能（AI）の仕組みについて、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	情報セキュリティに関する概要を学ぶことを通じて、情報処理技術者としての職業自立につなげることができる。（専門的学習成果⑥に関連）										
	(2)	暗号化の基礎理論やインターネットセキュリティを通して、習得した知識や技術を活用し問題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(3)	CPUの構成とメモリアーキテクチャを学ぶことを通じて、現在のメモリ環境に関して、批判的に思考することができる。（専門的学習成果④⑤に関連）										
	(4)	人工知能（AI）の仕組みを学ぶことを通じて、未来のハードウェア構成を探索することができる。（専門的学習成果⑦に関連）										
授業概要	ITを利用する者としての登竜門である情報セキュリティマネジメント試験のテクノロジー分野を中心に講義する。更に、ただITを利用できる人材ではなくITを活用して業務を改善するなど、情報化を推進できる人材が求められる。そのためには、最新の情報処理技術動向や人工知能（AI）の仕組みについて理解する必要がある。さらに、2020年から小学校教育に導入されたプログラミング教育の基礎知識として十分に説明できる内容を講義する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	これまでの学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
		小テスト	30	小テストを毎回実施し、各2％ずつ正解率（0点、1点、2点）に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。 (4) は専門的学習成果⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	岡嶋裕史		『情報セキュリティマネジメント合格教本』					技術評論社				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に配布した資料を読んでおくこと。（予習：週2時間程度）板書した内容は必ずノートに記入すること。板書内容の例題や問題を必ず理解すること。（復習：週2時間程度） ②小テストを返却し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	情報セキュリティの基本概念	
	学習成果	情報セキュリティのCIAについて説明できる。	
	予習復習の内容	情報セキュリティの基本概念について調べておく。	
	授業内容	サイバー攻撃と情報セキュリティ対策	
2回	学習成果	サイバー攻撃の特徴についての説明ができる。	
	予習復習の内容	サイバー攻撃の特徴について調べておく。	
3回	授業内容	暗号化	
	学習成果	暗号化を説明できる。	
	予習復習の内容	暗号化について調べておく。	
	授業内容	デジタル署名	
4回	学習成果	デジタル署名を説明できる。	
	予習復習の内容	デジタル署名の特徴について調べておく。	
5回	授業内容	インターネットセキュリティ	
	学習成果	インターネットセキュリティの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	インターネットセキュリティについて調べておく。	
	授業内容	基本論理回路	
6回	学習成果	基本論理回路の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	基本論理回路について調べておく。	
7回	授業内容	応用論理回路	
	学習成果	応用論理回路の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	応用論理回路について調べておく。	
	授業内容	フリップフロップ回路	
8回	学習成果	フリップフロップ回路の種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	フリップフロップ回路について調べておく。	
9回	授業内容	CPU	
	学習成果	CPUの動作について説明ができる。	
	予習復習の内容	CPUの動作について調べておく。	
	授業内容	メモリアーキテクチャ	
10回	学習成果	メモリアーキテクチャの特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	メモリアーキテクチャについて調べておく。	
11回	授業内容	インタフェース	
	学習成果	インタフェースの種類と特徴について説明できる。	
	予習復習の内容	インタフェースについて調べておく。	
	授業内容	エンベデッドシステム	
12回	学習成果	エンベデッドシステムのしくみについて説明できる。	
	予習復習の内容	エンベデッドシステムについて調べておく。	
13回	授業内容	ディープラーニング	
	学習成果	ディープラーニングについて説明できる。	
	予習復習の内容	ディープラーニングの仕組みについて調べておく。	
	授業内容	人工知能（AI）	
14回	学習成果	人工知能（AI）について説明できる。	
	予習復習の内容	人工知能（AI）について調べておく。	
15回	授業内容	量子コンピュータ	
	学習成果	量子コンピュータについて説明できる。	
	予習復習の内容	量子コンピュータについて調べておく。	



科目名	データベース演習				担当者	大 澤 栄 子							
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期	
				授業時間数	60 <th>時間</th>								時間
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中、授業前後、メール（1回目授業で説明）で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	データベースの基本概念と構造の理解：リレーショナルデータベースの仕組みを理解し、テーブルやレコードなどの基本構造を説明できる。											
	②	SQLによるデータ抽出・操作スキルの習得：SELECT文を用いたデータの検索、挿入、更新、削除（CRUD操作）を適切に実行できる。											
	③	複雑なデータ検索と集計処理の実装：WHERE句による条件絞り込みや関数を用いた集計、並べ替えを行い、必要な情報を正確に抽出できる。											
	④	複数テーブルの結合とデータ活用の理解：JOIN（結合）を用いて複数のテーブルを関連付け、実務に近い形式でデータを扱うテーブル設計ができる。											
	⑤	目的に応じたデータベースが構築でき、必要な抽出集計などを設置できる。											
汎用的 学習成果	(1)	論理的思考力と問題解決能力の向上：目的のデータを得るための手順を論理的に組み立てる過程を通じ、筋道を立てて考えられる。（専門的学習成果②③に関連）											
	(2)	データリテラシーと情報の活用能力：膨大な情報から必要なものを抽出し、分析・整理する経験を通じて、情報を正しく扱える。（専門的学習成果②③に関連）											
	(3)	抽象化能力と構造的把握力の養成：複雑な事象をテーブルという形式に整理する設計の考え方を学び、物事を構造的に捉えられる。（専門的学習成果①④に関連）											
	(4)	正確な意思伝達と構文理解力の向上：厳密なルール（構文）に従って命令を記述する訓練により、正確でミスのない指示・表現力を養う。（専門的学習成果②④に関連）											
授業概要	現代のビジネスにおいて、データは意思決定の根幹を成す。本講義では、IT社会の基盤であるデータベースの仕組みと、操作言語「SQL」を基礎から学ぶ。エンジニア志望に限らず、非専門職にとっても本スキルの習得は不可欠である。SQLを扱えれば、システム部門に頼らず自ら必要な情報を抽出し、客観的根拠に基づく企画や改善が可能になるからだ。営業分析や事務効率化など、あらゆる職種で「データから価値を引き出す力」は強力な武器となる。実習を通じ、データ抽出や集計、テーブル結合の技法を体系的に習得する。あわせて情報を構造的に捉える抽象化能力と論理的思考力を養い、実社会の課題をデータで解決できる素養を身に付ける。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		提出物	50	小レポートまたは練習問題を計10回実施し、各回5%を配点する。									
		演習課題	25	14、15回目授業で提示する最終課題が、適切に分析設計されニーズが実現されているかを評価し25%を配点する。									
平常点	25	演習や実習への取り組み・意欲・態度により評価する。											
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習効果②③で評価を行う。 (2)は専門的学習効果②④で評価を行う。 (3)は専門的学習効果①④で評価を行う。 (4)は専門的学習効果②で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	リブワークス	『SQL1 年生 データベースのしくみ』				株式会社翔泳社							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
	中山 清喬、飯田 理恵子	『スッキリわかるSQL入門 第4版』				株式会社インプレス							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		① Excelのデータベース機能を理解していることが望ましい。 欠席した場合、授業は前回の継続となるので次の受講までに必ず欠席した内容を補習しておくこと。 また、事前にテキストを読み不明点を明確にしておくことや、得られる演習結果の確認などの授業準備、復習、提出課題作成などに30時間程度の時間外学習が必要である。 ②提出物について、授業時間内または次の時間に結果のフィードバックを行う。											

			授業計画				学習成果の評価	
1・2回	授業内容	ガイダンスと環境構築				学習成果の評価		
	学習成果	演習の目的を理解し、SQLを実行できる環境を構築できる。				教科書ふくめ、履修する環境が準備できているか		
3・4回	予習復習の内容	教科書「はじめに」を読みデータベースの役割をイメージする。 環境が正常に動作するか最終確認する。						
	授業内容	SQLとデータベースの基本				小レポート		
5・6回	学習成果	リレーショナルデータベースの構造を理解し、その利点を説明できる。						
	予習復習の内容	第1章を読み、テーブルやレコード、カラムの用語を把握する。 既存の表形式データ（Excel等）との違いを整理する。						
7・8回	授業内容	データを取り出す基本（SELECT）				小レポート		
	学習成果	ELECT文を用いて、指定した列のデータを取得できる。						
9・10回	予習復習の内容	第2章SELECT文の解説を読み、基本構文を書き出してみる。 作成したSQLを再度実行し、異なる列の抽出を試みる。						
	授業内容	条件に合うデータの検索（WHERE）				練習問題①		
11・12回	学習成果	WHERE句と演算子を使い、条件に合う行を抽出できる。						
	予習復習の内容	第2章の条件絞り込みの項を読み、比較演算子の種類を確認する。 複数の条件（AND/OR）を組み合わせた抽出練習を行う。						
13・14回	授業内容	データの並べ替えと基礎計算				練習問題②		
	学習成果	ORDER BY句でデータを並べ替え、列同士の計算結果を出力できる。						
15・16回	予習復習の内容	第3章の並べ替えと演算の項を読み、降順・昇順の指定法を学ぶ。 数値データに対し、消費税計算などの演算を伴う抽出を復習する。						
	授業内容	集計関数を用いたデータ集計				練習問題③		
17・18回	学習成果	COUNTやSUM等の関数を使い、データの統計値を算出できる。						
	予習復習の内容	第3章の集約関数の項を読み、各関数の役割（合計・平均等）を把握する。 練習問題のデータに対し、異なる集約関数を適用して結果を比較する。						
19・20回	授業内容	グループ化によるデータ分析				練習問題④		
	学習成果	GROUP BY句を用いて項目ごとにデータを集計・分析できる。						
21・22回	予習復習の内容	第3章のグループ化の項を読み、WHERE句との実行順序の違いを調べる。 カテゴリごとの売上合計など、実務的な集計SQLを反復練習する。						
	授業内容	データの追加と更新				練習問題⑤		
23・24回	学習成果	INSERT文で新データを登録し、UPDATE文で既存データを書き換えられる。						
	予習復習の内容	第4章のデータ登録・更新の項を読み、文法を確認する。 更新時の条件指定を誤った際のリスクを検討し、安全な更新手順を復習する。						
25・26回	授業内容	データの削除とテーブル管理				小レポート		
	学習成果	DELETE文で不要なデータを削除できる。						
27・28回	予習復習の内容	第4章のデータ削除の項を読み、主キーの重要性を再確認する。 テーブルの作成・削除コマンドを確認し、データ管理の基本を整理する。						
	授業内容	データベース設計の基礎				練習問題⑥		
29・30回	学習成果	「正規化」の概念を理解し、テーブル分割の必要性を説明できる。						
	予習復習の内容	第5章のデータベース設計の項を読み、データの重複の問題点を知る。 身近な伝票やリストを、複数のテーブルに分ける構成案を考えてみる。						
25・26回	授業内容	テーブルの結合（内部結合）				練習問題⑥		
	学習成果	INNER JOINを用いて、複数テーブルの関連データを統合できる。						
27・28回	予習復習の内容	第5章の結合の項を読み、結合キー（主キーと外部キー）の関係を学ぶ。 2つのテーブルを結合し、必要な情報を揃えて出力する練習を行う。						
	授業内容	テーブルの結合（外部結合）				小レポート		
29・30回	学習成果	LEFT JOIN等を使い、データ不足時でも漏れなく情報を抽出できる。						
	予習復習の内容	外部結合と内部結合の結果の違いについて、本書の図解を確認する。 結合に失敗するケース（キーの不一致など）の原因を分析する。						
25・26回	授業内容	データベース設計の演習				練習問題⑥		
	学習成果	現実の業務課題に対し、適切なテーブル構造を自ら設計できる。						
27・28回	予習復習の内容	第5章の総まとめを読み、システム開発の流れをイメージする。 設計したテーブル同士の関係図（ER図）を簡潔に描く練習をする。						
	授業内容	総合演習（1）：データ抽出実践				総合演習問題（1）		
29・30回	学習成果	複雑な条件に対し、適切なSQLを組み立てて正確なデータを抽出できる。						
	予習復習の内容	第1章から第5章までの構文を網羅的に復習しておく。 演習で作成したSQLを整理し、自分なりのテンプレートを作成する。						
25・26回	授業内容	総合演習（2）：データ活用と評価				総合演習問題（2）		
	学習成果	分析目的に応じて最適なSQLを考案し、客観的な結論を導き出せる。						
27・28回	予習復習の内容	どのようなデータがあれば業務改善に役立つか、具体例を考えておく。 本講義で学んだスキルが、将来のキャリアでどう活かせるか総括する。						

科目名	プログラミング演習				担当者	大澤 栄子 (実務家教員)							
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回		授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中、授業前後、メール（1回目授業で説明）で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	マクロ/VBAの概要を理解し、開発環境の基本操作ができる。											
	②	変数と制御構造を活用した変数と制御構造を活用したモジュールを作成できる。											
	③	適切な手法を選択したデバッグができる。											
	④	ニーズを分析し入力から出力までのデータ活用が設計できる。											
汎用的 学習成果	(1)	ワークシートおよびモジュールの設計を通して、論理的思考、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①④に関連)											
	(2)	ワークシートおよびモジュールの開発を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる(専門的学習成果②③に関連)											
	(3)	資格取得に向けた演習を通して、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し実践できる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
授業概要	Excelに組み込めるプログラミング言語「VBA (Visual Basic for Application)」を用い、Excelによる日常業務をさらに効率よく遂行する為のスキルを身につける。また、ワークシートを基本とする簡単なシステムを開発することにより、ニーズの分析、設計、デバッグ、テスト、運用など一連の開発手法の基礎を教員のシステム開発の現場のエピソードも交えながら習得する。さらに、VBAエキスパート試験への道筋を示し、合格への挑戦意欲と実践力も養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		確認問題	30	6回実施し、各回5%を配点する。									
		演習課題	40	27回目授業で提示する最終課題が、適切に分析設計されニーズが実現されているかを評価する。									
平常点	30	演習や授業への取り組み・意欲・態度により評価する。											
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名						
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『よくわかる Microsoft Excel マクロ/VBA Office 2021/2019/2016/Microsoft 365対応』					FOM 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名						
	富士通エフ・オー・エム株式会社	『よくわかる Excel 2021 応用』					FOM 出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①「基礎プログラミング演習」を履修しているか、ExcelのMOS試験レベルのスキルがあることが望ましい。欠席した場合、授業は前回の継続なので受講までに必ず補習しておくこと。この場合の補習以外に、テキストを読み、不明点を明確にしておくことと得られる演習結果の確認などの授業準備、提出課題作成等に30時間程度の時間外学習が必要である。 ②課題について、授業時間内または次の時間に結果のフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	ガイダンス、マクロ/VBAの概要、基本的なマクロの作成		4回目授業後半で「記録マクロ」に関する確認問題演習を実施
	学習成果	本授業の内容およびマクロ/VBAの概要を理解し、記録マクロの基本操作ができる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。ガイダンスの内容をふまえて学習計画を立てる。		
3・4回	授業内容	複数の処理のマクロ化、マクロの保存と削除		
	学習成果	複数処理のマクロの作成ができる。マクロの保存と削除ができる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りマクロの理解を深める。		
5・6回	授業内容	VBEの基本操作、マクロの編集		10回目授業後半で「モジュールとプロシージャ」に関する確認問題演習を実施
	学習成果	VBEの基本操作を理解し、記録マクロの編集ができる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りVBE基本理解を深める。		
7・8回	授業内容	モジュールとプロシージャの概要		
	学習成果	モジュールとプロシージャの概要、プロシージャの構成要素が理解できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、モジュールとプロシージャの理解を深める。		
9・10回	授業内容	プロシージャの作成と登録		
	学習成果	基本的なメソッド、プロパティを理解し、それらを活用したプロシージャが作成できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返りメソッド、プロパティの理解を深める。		
11・12回	授業内容	変数と制御構造の概要、分岐構造 (If～Then)		14回目授業で変数、分岐構造に関する確認問題演習を実施
	学習成果	変数の使い方、If～Thenステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り変数、If～Thenの理解を深める。		
13・14回	授業内容	分岐構造 (Select～Case)、変数と分岐構造のまとめ演習		
	学習成果	Select～Caseステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り分岐構造全般の理解を深める。		
15・16回	授業内容	繰り返し構造 (For～Next)		16回目授業でFor～Nextに関する確認問題演習を実施
	学習成果	For～Nextステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り分岐構造全般の理解を深める。		
17・18回	授業内容	繰り返し構造 (Do～Loop)		18回目授業Do～Loopに関する確認問題演習を実施
	学習成果	Do～Loopステートメントが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り繰り返し構造全般の理解を深める。		
19・20回	授業内容	デバッグ、販売管理システムの概要		26回目授業でシステム化に関する確認問題演習を実施
	学習成果	エラーの種類を理解し適切なデバッグができる。Excelを用いた業務のシステム化が理解できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、デバッグ手法、システム化の理解を深める。		
21・22回	授業内容	販売管理システム作成 (対話形式のプログラム、データ抽出の自動化、印刷の簡便化)		
	学習成果	対話形式、データ抽出、印刷に関する関数、メソッド、プロパティが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。対話形式、データ抽出、印刷に関する関数、メソッド、プロパティの理解を深める。		
23・24回	授業内容	販売管理システム作成 (ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化)		
	学習成果	ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化に関する関数、メソッド、プロパティが理解でき、それらを活用したプロシージャが作成できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。ユーザ定義関数、モジュールのインポート、データ入力の簡便化に関する関数、メソッド、プロパティの理解を深める。		
25・26回	授業内容	販売管理システム作成 (アプリケーションの仕上げ)		
	学習成果	アプリケーションの仕上げとして必要な内容と設定が理解でき、操作できる。		
	予習復習の内容	テキストを事前に読み不明点を明確にしておく。演習内容を振り返り、システム化の理解を深める。		
27・28回	授業内容	VBAによる開発演習課題 (1)		最終課題としてワークシートおよびプロシージャを開発し提出する。
	学習成果	課題を分析し適切なシート、プロシージャが作成できる		
	予習復習の内容	これまでを振り返り、課題の分析とプログラミング設計を進める。		
29・30回	授業内容	VBAによる開発演習課題 (2)、まとめ		
	学習成果	課題を解決するExcelブックが作成できる。		
	予習復習の内容	これまでを振り返り、Excelによるシステム化の理解を深める。		

科目名	ソーシャル e スポーツ					担当者	桑 原 吉 成					
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	yoshipen@inakano.wor Discordの授業用サーバー、授業中、授業前後、オフィスアワー(1回目授業で説明)で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	e スポーツの概略について理解でき、e スポーツの一般的な概念を説明できる。										
	②	世界や日本でプロの競技シーンで行われている主な e スポーツ・タイトルを实践し、競技としての e スポーツを理解し実践できる。										
	③	ソーシャルの観点から e スポーツの活用方法について考察し、教育や社会福祉分野、まちづくりなど様々な分野で活用し実践できる。										
	④	常に進化する e スポーツで使用される機材やネットワークを理解することで、ハードウェア及びソフトウェアの選定やイベントの運営ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	e スポーツに関する学修を通して、e スポーツ業界での職業的自立をはじめ、他分野や他業種に e スポーツを取り入れて課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	e スポーツの演習、イベントの企画運営を通して、論理的思考、自己表現、他者理解ができ、協働して動くことができる。(専門的学習成果②④に関連)										
	(3)	e スポーツを通してデジタル機器やネットワーク環境を活用するのに必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	若者を中心に「e スポーツ」という言葉が浸透しつつあるが、日本においてはまだ黎明期であり、海外の歴史や事例から「e スポーツとは何か？」を紐解き、e スポーツの概念と日本の e スポーツ事情について整理する。e スポーツが身体や心理に与える効果や影響について学び、e スポーツ業界はもとより教育分野での活用や社会的課題解決の観点で活用できる対応力を養う。演習では世界で主流となっている「MOBA(マルチオンライントラブルアリーナ)」や「タクティカルシューター」、また日本でよく行われている e スポーツの代表的なゲームタイトルをプレイし、知識や技能だけでなく、戦略戦術、意思決定、コミュニケーションスキルの重要性について理解する。e スポーツのコミュニティイベントを企画運営することにより実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
		定期試験										
		レポート	20	1 回実施する。テーマに沿ったレポートの評価(体裁・文脈・内容・根拠・独創性)を行う。								
	専門的 学習成果	実技試験	30	2 回実施(各15%) ゲームシステム(ルールやチーム構成、ロールなど)を理解してコミュニケーションが取られていることを重視して評価します。								
		小テスト	20	2 回実施する(各10%)。								
	平常点	30	演習や授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	磯貝浩久、西園秀嗣、ほか	『e スポーツの科学』					ベースボール・マガジン社					
	ローランド・リー(訳) 小浜 杏	『ライズ・オブ・e スポーツ ゲームの情熱から生まれた巨大ビジネス』					白揚社					
	黒川文雄	『プログラマー、業界のしくみからお金の話まで e スポーツのすべてがわかる本』					日本実業出版社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①教科書や配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前に参考書・参考文献をはじめ、日頃から e スポーツに関するニュースやイベントなどの情報に興味を持って触れておくこと。演習で行う e スポーツタイトルについては、事前学修として公式 web サイトや攻略サイトや動画などを視聴し理解を深めておくこと。事後学修として授業内容の振り返りを行い、e スポーツの大会やイベントなどを視聴するなど理解を深めること。 ②レポートに関するフィードバックは、担当者が読んだあと、評価ポイントのフィードバックを行う。 実技試験に関するフィードバックは、授業時間内または次の時間にフィードバックを行う。											

	授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価		
	授業内容	講義：e スポーツとは何か？	7 回目授業後半に小テストを実施します。 ・e スポーツの概略 ・e スポーツの歴史	16 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」⑥～ゲーム修練の動き	18 回目の授業で実技テストを実施します。		
1 回	学習成果	事前にシラバス及び e スポーツに関連する資料などを読み e スポーツのイメージをつかむ。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。			授業内容	ゲーム演習「MOBA」⑥～ゲーム修練の動き			
	予習復習の内容	ゲーム演習「MOBA」⑥～MOBA の概要、チュートリアル			予習復習の内容	ゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームを理解する。			
2 回	授業内容	MOBA(Multi Online Battle Arena)の基本的なゲームシステムを理解できる。キーボードとマウスによる基本的な操作を習得できる。			10 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	講義：e スポーツ(ゲーム)とユニバーサルデザイン	レポート提出課題「e スポーツの未来」課題「e スポーツの未来」社会的課題解決の観点から考察する。25 回目授業までに提出。25 回授業時にフィードバックする	
	予習復習の内容	ガイダンスで説明したゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームの概要を理解する。			予習復習の内容	e スポーツゲームの性質や障害の有無に開眼する価値があることを理解し、説明できる。			
3 回	授業内容	講義：ゲームと e スポーツの発展の歴史			7 回目授業後半に小テストを実施します。 ・e スポーツの概略 ・e スポーツの歴史	授業内容	ゲーム演習「MOBA」(まとめ)	18 回目の授業で実技テストを実施します。	
	学習成果	e スポーツの歴史を理解し、世界と日本の e スポーツの違いについて説明できる。			予習復習の内容	チームゲームで必要な情報伝達の理解を深め、コミュニケーションをとりチームとしてプレイできる。			
4 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」③～ロール(役割)の理解と戦術の組み立て			18 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	講義：e スポーツの高齢者福祉への活用について	レポート提出課題「e スポーツの未来」社会的課題解決の観点から考察する。25 回目授業までに提出。25 回授業時にフィードバックする	
	学習成果	ゲームの流れを把握し、キャラクター毎の役割や立ち回りを理解して、MOBAをプレイできる。			予習復習の内容	ゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームを理解する。			
5 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」③～ゲーム修練の知識と立ち回り			7 回目授業後半に小テストを実施します。 ・e スポーツで使われる機材について説明できる。開度を確認し使用することができる。	18 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」①～チュートリアル	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。			予習復習の内容	e スポーツに必要な機材・ネットワーク環境			
6 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」③～ゲーム修練の知識と立ち回り			7 回目授業後半に小テストを実施します。 ・機材とネットワーク環境 ・ゲームの開度と開度行動の対策	18 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」②～ロールとゲームシステム	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	チームを組んでコミュニケーションをとりながら修練の動き方について理解し、プレイできる。			予習復習の内容	ゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームを理解する。			
7 回	授業内容	講義：e スポーツ(ゲーム)の開発と問題行動への対策			7 回目授業後半に小テストを実施します。 ・機材とネットワーク環境 ・ゲームの開度と問題行動の対策	18 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」③～ルールとゲームシステム	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。			予習復習の内容	e スポーツにおける問題行動とその対策などについて理解し、説明できる。			
8 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」③～ゲーム全体の大局的な戦略(マクロ)の基礎知識			7 回目授業後半に小テストを実施します。 ・日本の e スポーツ事情 ・身体や心理への影響	18 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」④～基本操作テクニック	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	ゲーム全体の大局的にみれば戦略や戦術(マクロ)について理解し、コミュニケーションをとりチームとしてプレイできる。			予習復習の内容	演習で行うゲームタイトルの攻略サイトや大会動画を見て、ゲーム概要の理解を深める。基本的な操作ができるように練習する。			
9 回	授業内容	講義：日本の e スポーツ事情に関する法律と産業構造			13 回目授業後半に小テストを実施します。 ・日本の e スポーツ事情 ・トレーニング理論 ・身体や心理への影響	18 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」⑤～基本操作テクニック	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	現在の日本の e スポーツ事情について理解し、説明できる。			予習復習の内容	事前に日本で e スポーツに関連した企業や団体について調べしておく。学習内容を振り返り理解を深める。			
10 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」⑤～集団戦の立ち回りとコミュニケーション			13 回目授業後半に小テストを実施します。 ・日本の e スポーツ事情 ・トレーニング理論 ・身体や心理への影響	18 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」⑥～キャラクターの種類と役割	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	ゲームを整備後の立ち回り、またチームゲームにおいて必要な情報伝達の理解を深め、コミュニケーションをとりチームとしてプレイできる。			予習復習の内容	ゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームを理解する。			
11 回	授業内容	講義：e スポーツのトレーニング理論とコンディショニング			13 回目授業後半に小テストを実施します。 ・日本の e スポーツ事情 ・トレーニング理論 ・身体や心理への影響	18 回目授業で実技試験としてカスタムマッチを実施	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」⑦～キャラクターの種類と役割	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	科学的なアプローチからフィジカルとインテリジェンスのトレーニング理論について理解し、説明できる。			予習復習の内容	ゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームを理解する。			
12 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」⑥～キャラクターの理解(プレイバ、スバル)			18 回目授業で実技テストを実施します。	27 回	授業内容	講義：プロ e スポーツのエコシステムと事情	29 回目の授業で小テスト(総合)を実施します。
	学習成果	自分が動かすキャラクター(チャンピオン)について理解して、戦術・戦術、立ち回りに合わせてプレイできる。			予習復習の内容	自分が参加したことがあるイベントについて主催者側の視点で振り返りしておくこと。学習内容を振り返り、オポポシの立場の立て方について理解を深める。			
13 回	授業内容	講義：e スポーツがもたらす健康への効果と影響			13 回目授業後半に小テストを実施します。 ・日本の e スポーツ事情 ・トレーニング理論 ・身体や心理への影響	28 回	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」⑧～基本的な戦術・戦況について理解してプレイできる。	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	ゲームがもたらす身体や心への効果と影響について理解を深め、説明できる。			予習復習の内容	ゲームタイトルの公式サイトや関連する攻略サイトや大会動画を見て、ゲームを理解する。			
14 回	授業内容	ゲーム演習「MOBA」⑦～情報収集とコミュニケーション			18 回目の授業で実技テストを実施します。	29 回	授業内容	講義：e スポーツの教育的価値と活用について	29 回目の授業で小テスト(総合)を実施します。
	学習成果	相手の動きなどの情報を探りながらチーム内コミュニケーション(根拠)について理解し、チームでプレイできる。			予習復習の内容	これまでの授業の内容を振り返り、今後の e スポーツの未来・展望について考察し論じることができる。			
15 回	授業内容	講義：e スポーツの教育的価値と活用について			レポート提出課題「e スポーツの未来」社会的課題解決の観点から考察する。25 回目授業までに提出。25 回授業時にフィードバックする	30 回	授業内容	ゲーム演習Ⅱ「タクティカル・シューター」(まとめ)	30 回目の授業で実技テストを実施します。
	学習成果	教育現場における e スポーツ・ゲームを活用について知識を深め、意見について説明できる。			予習復習の内容	steam 教育やゲーミフィケーションについて調べおくこと。学習内容を振り返り、e スポーツがもたらす教育的効果について考察すること。			

科目名	Webプログラミング				担当者	大澤 栄子					
区分	選択	2	単位	授業回数 15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法				授業中・授業前後、メール（初回授業で説明）で行う。							
専門的 学習成果	①	Web ページの基本的な仕組みを理解している。									
	②	変数、制御構造、配列などプログラミングの基本文法を理解し、簡単なプログラムが作成できる。									
	③	Web ページを動的にコントロールする技術要素を理解し、活用できる。									
	④	実践的な Web アプリケーションの開発手法を理解し、開発できる。									
汎用的 学習成果	(1)	Web プログラミング作成を通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を取得し実践できる。(専門的学習成果①②③④に関連)									
	(2)	Web プログラミング作成を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果③④に関連)									
	(3)	Web プログラミング作成を通して、論理的思考、自己表現を身につけ協働できる。(専門的学習成果④に関連)									
授業概要	JavaScript は Web ブラウザ内で動くプログラム言語である。Web アプリや Web サービスの中で、ユーザが直接操作する部分を作るために使われている。授業では、年月を指定できる「万年カレンダー」を例題に、JavaScript の文法はもちろん、Web アプリケーションの開発手法や開発環境の基本についても学んでいく。また、Web サイトの仕組みやプログラミングの基本を復習するとともに、アプリケーション開発をととして、問題解決能力を習得する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準							
	専門的 学習成果	定期試験									
		レポート									
		演習課題	50	13回目授業までに10個の課題を提示し、作成したプログラムが正しく動くかを評価する。各課題につき5%を配点する。							
		最終課題	25	14回目授業で提示する最終課題が、適切に分析設計され仕様が実現されているかを評価する。							
	平常点	25	授業や課題への取り組み・意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名					
	大川晃一・小澤慎太郎	『30時間アカデミック JavaScript 入門』				実教出版株式会社					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名					
	狩野祐東	『確かな力が身につく JavaScript「超」入門 第2版』				SBクリエイティブ株式会社					
	及川卓也	『スラスラ読める JavaScript ふりがなプログラミング増補改訂版』				株式会社インプレス					
	桜庭洋之、望月幸太郎	『スラスラわかる JavaScript 新版』				株式会社翔泳社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	金子平祐・Grodet Aymeric・Bahadur MD Rakib・新居雅之	『JavaScript 基礎ドリル穴埋め式』				株式会社オーム					
	①仕組みの理解と、プログラミング経験が重要になってくる。(予復習：週2時間程度) よって事前に教科書に目とおし、不明点を洗い出しておくこと。また、授業で作成した例題プログラムは、正常に動くように授業外の時間を有する場合がある。課題の提出も求めるので、授業以外にプログラミングにあたる時間が必要となる。(計30時間程度) ②授業内で発生した課題に対しては、その場で解説と補足を行う。授業外で発生した課題に対しては、授業前後の時間、または、Office アワーで対応する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	授業の概要、成績評価について、教室の利用方法、Web ページの基礎	
	学習成果	授業の目的と動的 Web サイトの開発環境・手法を理解する。	
	予復習の内容	Web ページの基本について確認する。	
2回	授業内容	JavaScript の仕組みと基本文法	
	学習成果	Script を HTML に埋め込み、変数・定数による演算、文字列操作ができる。	
	予復習の内容	JavaScript の仕組み、変数、定数、演算、文字列操作について確認する。	
3回	授業内容	制御構造 - 条件分岐	
	学習成果	if 文、if 文の入れ子、論理演算を使った複数条件分岐、switch 文が活用できる。	
	予復習の内容	if 文、if 文の入れ子、論理演算を使った複数条件分岐、switch 文について確認する。	
4回	授業内容	制御構造 - 繰り返し	
	学習成果	while 文、for 文による繰り返し構文が作成できる。	
	予復習の内容	while 文、for 文による繰り返し構文について確認する。	
5回	授業内容	配列、関数	
	学習成果	配列の表示、要素の更新、ループ活用による配列表示、連想配列が利用できる。関数の利用法が理解できる。	
	予復習の内容	配列、連想配列、関数について確認する。	
6回	授業内容	DOM 操作 - イベントとタイマー処理	
	学習成果	クリックイベントの設定、タイマー処理が実装できる。	
	予復習の内容	DOM、クリックイベント、タイマーについて確認する。	
7回	授業内容	DOM 操作 - コンテンツ内容	
	学習成果	DOM 操作を利用して動的なページが作成できる。	
	予復習の内容	DOM、動的ページについて確認する。	
8回	授業内容	Web アプリの作成 - 表示機能設定	
	学習成果	Web アプリ開発環境設定、カレンダー表示、月変更ボタンが作成できる。	
	予復習の内容	Web アプリ開発環境、カレンダー表示、月変更ボタンについて確認する。	
9回	授業内容	Web アプリの作成 - カレンダー機能設定	
	学習成果	祝休日設定、日付選択処理、装飾 CSS、設定メニューが作成できる。	
	予復習の内容	カレンダー機能について確認する。	
10回	授業内容	Web アプリの作成 - 保存機能	
	学習成果	Web ストレージによる保存機能が理解できる。	
	予復習の内容	Web ストレージ、JavaScript で使える DB、IndexDB について確認する。	
11回	授業内容	IndexDB の利用	
	学習成果	IndexDB によるデータ追加更新削除、データ検索ができる。	
	予復習の内容	IndexDB によるデータ追加更新削除、データ検索について確認する。	
12回	授業内容	JavaScript ライブラリの利用	
	学習成果	JavaScript の代表的なライブラリ、フレームワークとの違いが理解できる。	
	予復習の内容	JavaScript ライブラリについて確認する。	
13回	授業内容	jQuery の利用	
	学習成果	jQuery の利用方法、jQuery UI の利用方法が理解できる。	
	予復習の内容	jQuery、jQuery UI について確認する。	
14回	授業内容	Web アプリの開発演習 (1)	
	学習成果	与えられた課題を分析し、必要な処理が設計できる。	
	予復習の内容	これまでを振り返り課題の分析と処理の設計を進める。	
15回	授業内容	Web アプリの開発演習 (2)	
	学習成果	Web アプリの開発演習 (1) の設計をもとに、プログラム開発ができる。	
	予復習の内容	これまでを振り返り設計にもとづくプログラム開発を進める。	
		最終課題 仕様要求に基づく Web アプリを設計開発する。	

科目名	Web サイト管理演習				担当者	木 村 浩 之						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的 学習成果	①	コンテンツ・マネジメント・システム（CMS）の基本的な知識とスキルを用い、Web サイト管理について説明できる。										
	②	CMS を操作し、基本的なサイト管理が行える。										
	③	CMS を利用した、簡単な Web サイトの作成ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	CMS の仕組みと作成方法を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	CMS を学ぶことで、オウンドメディアでの情報発信などに役立てる事ができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	目的を明確に設計する事で、問題解決に向けた提案ができる。(専門的学習成果②～③に関連)										
授業概要	CMS は、ショッピングサイトやオウンドメディア（自分で保有するメディア）など、ビジネスの現場でも個人の情報発信においても広く使われ、今やビジネスでは必須のツールとなっている。この授業では、その CMS の基本的な知識と運用法に加え、自ら簡単なページの設計ができることを目的としている。またこれまでに習得した IT スキルを用いて、企画から制作、サーバー管理から運用まで、全体の設計を習得していく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	80	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
		平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①～③で評価を行う。 (2)は専門的評価①～③で評価を行う。 (3)は専門的評価②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	泰道ゆりか	『ゼロから学ぶはじめての Wordpress』				SB クリエイティブ						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週2時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、アプリケーションの基礎知識-1	実習課題1（WEBサイトの提出）
	学習成果	使用するアプリケーションの準備を行う。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、使用するツールの用語などを確認する。	
2回	授業内容	アプリケーションの基礎知識-2	
	学習成果	CMS の操作の基本を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、基本操作を確認する。	
3回	授業内容	Wordpress 開設の準備	
	学習成果	サーバーとドメインの仕組みについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
4回	授業内容	Wordpress のインストールと準備	
	学習成果	Wordpress の初期設定について理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
5回	授業内容	Web サイトの制作～テーマの設定	
	学習成果	Wordpress のテーマの設定について理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
6回	授業内容	Web サイトの制作～投稿ページの設定	
	学習成果	投稿ページの制作を通して、投稿ページの仕組みについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
7回	授業内容	Web サイトの制作～固定ページの設定	
	学習成果	トップページ・メニューページの制作を通して、固定ページの仕組みについて理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
8回	授業内容	Web サイトの制作～プラグインの追加	
	学習成果	プラグインによる機能の追加と注意点を理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
9回	授業内容	ネットショップの制作-1	
	学習成果	EC サイトの特性とカート機能について理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
10回	授業内容	ネットショップの制作-2	
	学習成果	EC サイトの特性とカート機能について理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
11回	授業内容	Web サイトの集客	実習課題2（WEBサイトの提出）
	学習成果	運用と SEO について理解する。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解が足りない箇所などは確認すること。	
12回	授業内容	総合演習	
	学習成果	CMS を用いた Web サイト企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。	
13回	授業内容	総合演習	
	学習成果	CMS を用いた Web サイト企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。	
14回	授業内容	総合演習	
	学習成果	CMS を用いた Web サイト企画し作成する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイトを完成させる。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。	
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイト制作の理解を深める。	

科目名	Web プランニング				担当者	村 上 航 士 ・ 木 村 浩 之						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。メールでの質問などに関しては、初回授業で説明する。											
専門的 学習成果	①	デザイン思考を身につけ、問題解決に役立てることができる										
	②	UI/UX について理解し、それに基づいた画面設計を考えることができる										
	③	ユーザー心理を読み解くことができる										
	④	課題を発見し、デザインの思考で問題解決の方法を提示できる										
汎用的 学習成果	(1)	UI/UX を学ぶことを通して、社会的・職業的自立につながる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	情報を分析していくことで、問題点の洗い出しができる。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	デザインを用いて、問題解決に向けた提案ができる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	この授業では、Web サイトの企画から制作・運用に至るまでの知識と考え方を学習していく中で、問題を発見しを解決していく方法を習得していく。また近年、ビジネスの現場で取り上げられている「デザイン思考」を中心に、情報を整理から解決までの道筋を、論理立ててつくり出せることを目的としている。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		課題	70	授業内の提出物と最終課題の制作物によって評価する。								
		平常点	30	授業への取り組み・意欲・態度により総合的に評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的評価①で評価を行う。 (2)は専門的評価②③で評価を行う。 (3)は専門的評価①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	伊東庄平、益子貴寛、久保知己、宮田優希、伊藤由暁	『Web デザインの基本 きちんと入門』							SB クリエイティブ			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	坂本伸二	『デザイン入門教室』							SB クリエイティブ			
	川合俊介、大本あかね	『ノンデザイナーでもわかる UX + 理論で作る Web デザイン』							マイナビ出版			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業内容は継続する内容となる。欠席した場合、次回の授業は習得理解が困難になる場合があるので、必ず補修しておくこと。 授業準備としてテキスト等に目を通し、習得内容を把握しておくこと。 授業後は不明点の解消などに、週4時間程度の時間外学習を求める。 ②提出課題は、速やかに評価した後、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、Web デザインの基本とデザイン思考	実習課題1 (レポートの提出)	
	学習成果	Web デザインのワークフローとデザイン思考について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
2回	授業内容	レイアウトの原則		
	学習成果	レイアウトにおける基本原則について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
3回	授業内容	配色		
	学習成果	配色におけるイメージコントロールについて理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
4回	授業内容	写真と図版		実習課題2 (WEB サイトの提出)
	学習成果	Web サイトにおける写真の役割と効果について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
5回	授業内容	タイポグラフィ		
	学習成果	書体の基礎知識や書体による印象の違いを理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
6回	授業内容	デザイン思考		
	学習成果	デザイン思考についてさらに深く理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
7回	授業内容	デザイン思考～ケーススタディ		
	学習成果	デザイン思考についてさらに深く理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
8回	授業内容	デザイン思考～実践		
	学習成果	デザイン思考についてさらに深く理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
9回	授業内容	HTML5 と CSS3		
	学習成果	HTML5 と CSS3 について振り返り、レイアウト設計の理解を深める。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
10回	授業内容	インタラクションデザインと UI		
	学習成果	インタラクションデザインの基本原則を理解し、目的に合わせた UI を設計できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
11回	授業内容	運用とマーケティング-1		
	学習成果	Web サイトの運用とマーケティングの方法について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
12回	授業内容	運用とマーケティング-2	実習課題3 (WEB サイトの提出)	
	学習成果	Web サイトの運用とマーケティングの方法について理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
13回	授業内容	総合演習		
	学習成果	運用まで含めた、Web サイトの企画書を作成する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
14回	授業内容	総合演習		
	学習成果	運用まで含めた、Web サイトの企画書を作成する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テキストを読み返し、語句について調べておくこと。		
15回	授業内容	まとめ		
	学習成果	これまでの学習内容をまとめ、総括する。		
	予習復習の内容	これまでの内容を振り返り、WEB サイト制作の理解を深める。		

科目名	図書館制度・経営論				担当者	水野篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。										
専門的 学習成果	①	図書館制度・政策・法制度の全体像を説明できる。										
	②	利用者志向と社会的役割から図書館経営を分析できる。										
	③	分類理論と情報組織化を体験的に理解できる。										
	④	AI・IT・著作権を踏まえた現代的図書館運営を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	現状を調査し課題を整理して考察できる。										
	(2)	多様な立場を踏まえて意見をまとめられる。										
	(3)	情報を批判的に読み取り判断できる。										
	(4)	発表や議論を通して考えを的確に伝えられる。										
授業概要	本授業は、図書館制度・政策・経営の基礎を理解し、現代社会における図書館の役割を多角的に考察することを目的とする。図書館法をはじめとする関連法制度や政策の枠組みを踏まえつつ、実際の図書館経営状況の調査・発表を通して、理論と現実の接続を図る。あわせて、分類とは何かを問い、ロン式分類の考え方を体験的に学ぶことで、情報組織化の意義を理解する。また、図書館ITシステム、AIの活用、現代的著作権や個人情報保護の課題、利用者志向・ソーシャルマーケティングの視点を取り入れ、図書館を社会的サービスとして捉える力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	15	毎回、小テストを実施する。[15回、各10問]								
		小レポート	85	毎回、小レポートが課される。[15回]								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	永田治樹編著	『JLA 図書館情報学テキストシリーズ III 2巻 図書館制度・経営論』				日本図書館協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 本授業では、図書館制度や経営理論を知識として学ぶだけでなく、実際の図書館の状況を調査し、利用者や地域社会の視点から図書館の役割を考えることを重視する。日常的に利用する図書館やニュース、社会課題に関心をもち、「図書館は誰のために、何を提供しているのか」という問いを意識しながら授業に臨んでほしい。 ② 授業では、法制度・政策・経営理論を基礎に、調査・発表、分類体験、図書館ITシステム、AIや現代的著作権の課題について段階的に学習する。事前学習として、指定された資料やテキストを確認し、用語や制度の概要を把握してから授業に参加すること（予習：週1時間程度）。事後学習としては、授業内容や発表を振り返り、自身の考えを整理すること（復習：週2～3時間程度）。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館制度・経営論の学習目的と全体像を確認する。	小テスト 小レポート
	学習成果	図書館制度と経営の関係を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み学習の流れを整理する。	
	2回	授業内容	近代公共図書館制度と図書館法を学習する。
	学習成果	図書館制度の基本構造を理解できる。	
	予習復習の内容	関連法制度を整理する。	
3回	授業内容	図書館政策と自治体施策を学習する。	小テスト 小レポート
	学習成果	公共図書館政策の役割を説明できる。	
	予習復習の内容	国と自治体の関係を整理する。	
	4回	授業内容	実際の公共図書館の経営状況を調査する。
学習成果	図書館の運営実態を把握できる。		
	予習復習の内容	調査結果を整理する。	
	5回	授業内容	調査した図書館の経営状況を発表する。
学習成果	調査結果を分かりやすく説明できる。		
	予習復習の内容	他者の意見を踏まえ考察する。	
	6回	授業内容	図書館経営の使命と組織を学習する。
学習成果	図書館の目的と組織構造を理解できる。		
	予習復習の内容	経営視点を整理する。	
	7回	授業内容	分類とは何か、情報組織化の考え方を学習する。
学習成果	分類の役割と意義を説明できる。		
	予習復習の内容	分類理論を整理する。	
	8回	授業内容	ロン式分類の考え方と構造を学習する。
学習成果	ロン式分類の特徴を理解できる。		
	予習復習の内容	実例を用いて整理する。	
	9回	授業内容	ロン式分類を用いた体験的演習を行う。
学習成果	分類作業を体験的に理解できる。		
	予習復習の内容	結果を振り返り整理する。	
	10回	授業内容	図書館ITシステムと情報提供の仕組みを学習する。
学習成果	図書館ITの役割を説明できる。		
	予習復習の内容	現代的課題を整理する。	
	11回	授業内容	AI活用と現代的著作権の課題を学習する。
学習成果	AIと著作権の関係を理解できる。		
	予習復習の内容	倫理的視点を整理する。	
	12回	授業内容	海外の公共図書館制度と政策を学習する。
学習成果	諸外国の図書館政策を説明できる。		
	予習復習の内容	日本との違いを整理する。	
	13回	授業内容	海外図書館の先進事例を調査・検討する。
学習成果	海外事例の特徴を把握できる。		
	予習復習の内容	国内事例と比較する。	
	14回	授業内容	図書館マーケティングと利用者志向を学習する。
学習成果	顧客志向の図書館経営を説明できる。		
	予習復習の内容	ソーシャルマーケティングを整理する。	
	15回	授業内容	図書館の社会的役割と今後を総合的に考察する。
学習成果	現代社会における図書館の意義を説明できる。		
	予習復習の内容	全体を振り返り理解をまとめる。	

科目名	情報サービス論				担当者	庄 子 隆 弘							
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期	
				授業時間数	30								時間
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	情報サービスの種類や特徴を挙げて、説明できる。											
	②	情報サービスを司書、図書館員の視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。											
	③	レファレンスサービスの理論と実際について説明できる。											
	④	情報サービスを経営的視点で捉えたときに必要な知識、スキルを挙げることができる。											
	⑤	情報サービスに関わるテクノロジーやツールを挙げて、説明できる。											
	⑥	情報サービスに関する現代の課題や解決案を議論できる。											
汎用的 学習成果	(1)	情報サービスの基礎的な学習スキルを身につけることで、司書、図書館員として職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①～③⑤に関連)											
	(2)	情報サービスを通じたコミュニケーションによって、複雑化する現代社会における課題の解決や、主体的行動をとることができる。(専門的学習成果②～④に関連)											
	(3)	情報サービスの特性を学び、活用方法を議論することで、地域社会の課題解決や発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果①③⑥に関連)											
授業概要	図書館はただ単に本を借りる場所ではない。人びとが必要としている情報をいかに提供することができるかは、図書館員の専門性が問われる資質である。本授業では、その基本的な理論を学ぶと共に、情報検索の実践的テクニックやレファレンス(参考調査)と呼ばれる情報サービスのプロセスや手法を実例を交えて解説する。また、多様な情報源に対応するための研修、積極的に利用してもらうための発信型サービスや利用者教育などを解説する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		小テスト	20	2回実施し、各回10%を配点する。3～5回分の講義内容について理解の程度を評価する。									
	筆記試験	80	第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回の講義内容の理解について評価する。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③⑥で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
	山口真也、千錫烈、望月道浩		『情報サービス論』				ミネルヴァ書房						
	田村俊作		『情報サービス論』				東京書籍						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に前回授業の資料を読みポイントを把握した上で(計15時間)授業に臨み、実際に短大図書館や近隣の公共図書館で情報サービスを利用し、学んだことを体験することで、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、小テスト、筆記試験の準備を行い(計15時間)、理解の定着に努めること。 ②フィードバックとして、小テスト、筆記試験は返却し解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス：前期授業概要と授業計画の説明。情報サービスとは何か	小テスト(情報サービスの概要について)を第3回に実施。
	学習成果	授業の概要を理解、到達目標を説明することができる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読んでおく。授業計画と目標を理解し、全体を把握する。	
	授業内容	情報社会と図書館の情報サービス	
3回	学習成果	情報社会と図書館の情報サービスの関連を提示し説明できる。	
	予習復習の内容	情報サービスと図書館の関係性を理解する。	
4回	授業内容	情報サービスの種類。館種別の特徴	
	学習成果	情報サービスの種類、館種別の特徴を挙げて、説明できる。	小テスト(レファレンスについて)を第8回に実施。
予習復習の内容	館種毎の情報サービスの特徴を理解する。		
5回	授業内容	個別支援型サービス①レファレンスサービスの定義、種類、機能	
	学習成果	レファレンスサービスの定義、種類、機能を挙げて、説明できる。	
6回	予習復習の内容	レファレンスサービスの基礎的な理論を理解する。	
	授業内容	個別支援型サービス②レファレンスプロセス	
7回	学習成果	レファレンスプロセスを系統立てて説明できる。	
	予習復習の内容	調べたい情報を1つ準備しておく。	
8回	授業内容	個別支援型サービス③レファレンスインタビュー	
	学習成果	レファレンスインタビューにおける質問とその分析の実際を挙げることができる。	
9回	予習復習の内容	レファレンスインタビューの方法と注意点を理解する。	
	授業内容	個別支援型サービス④レファレンスコレクション	
10回	学習成果	レファレンスコレクションの特徴を挙げて、説明できる。	
	予習復習の内容	図書館でレファレンスブックを1冊手にとってみる。	
11回	授業内容	個別支援型サービス⑤レファレンス事例の活用	
	学習成果	ウェブや冊子のレファレンス事例を比較して論じることができる。	
12回	予習復習の内容	「レファレンス共同データベース」のウェブサイトを見ておく。	
	授業内容	情報検索の理論と方法、実践	筆記試験(全15回分の内容を問う)第15回後半に実施。
学習成果	情報検索の理論と方法を元に、効率的に検索することができる。		
13回	予習復習の内容	1つ以上の事柄を検索ツールを使って調べておく。	
	授業内容	発信型情報サービス	
14回	学習成果	発信型情報サービスの定義と種類を挙げ説明できる。	
	予習復習の内容	2つ以上の発信型情報サービスにアクセスし、比較してみる。	
15回	授業内容	新しい技術を使ったサービスと情報サービスのこれから	
	学習成果	情報サービスに関わるテクノロジーやツールを挙げて、説明できる。	
16回	予習復習の内容	2つ以上の発信型情報サービスにアクセスし、比較してみる。	
	授業内容	利用環境の整備～レファレンスカウンター、ラーニングコモンズなど～	
17回	学習成果	効率的な情報サービスを展開するために必要な利用環境について説明できる。	
	予習復習の内容	短大図書館のカウンターを見学しておく。	
18回	授業内容	レファレンスライブラリアン～人材と研修～	
	学習成果	情報サービスに必要な人材育成と研修の必要性について論じることができる。	
19回	予習復習の内容	レファレンスライブラリアンに必要な資質を挙げられる。	
	授業内容	利用者教育・情報リテラシー教育	
20回	学習成果	情報サービスを利用する際に必要な利用者教育・情報リテラシー教育について説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で調べるメリットとデメリットを考えておく。	
21回	授業内容	課題と解決方法を議論する	
	学習成果	情報サービスに関する現代の課題や解決案を議論できる。	
22回	予習復習の内容	議論した内容に関する資料を探してみる。	

科目名	情報サービス演習				担当者	庄 子 隆 弘							
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回		授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	情報サービスの意義について、利用者の質問に適切な情報を提供できるための技法やツールを挙げて、説明できる。											
	②	情報サービスの中心となるサービスである「レファレンスサービス」について、その技法やツールを挙げて、説明できる。											
	③	図書館情報資源毎の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。											
	④	発信型情報サービスの種類を挙げ、活用及び作成することができる。											
	⑤	レファレンス共同データベースの事例等を参考にレファレンス記録を作成し、それらを評価することができる。											
汎用的 学習成果	(1)	情報サービスの実践的な演習を重ねることで、司書、図書館員として職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①～⑤に関連)											
	(2)	多様なテーマの情報サービス演習を扱うことによって、他者の課題を理解し、論理的なプロセスによって、解決に導くことができる。(専門的学習成果③に関連)											
	(3)	情報サービスは、人びとや地域社会の課題解決に関わる内容であることが多いため、演習によってそのスキルを伸ばし、活用することができる。(専門的学習成果①③に関連)											
授業概要		情報サービスにおけるレファレンスサービス、文献調査、読書案内などの直接サービス、レファレンス記録やパスファインダーの作成などの間接サービスの概要を学ぶ。それらのサービスを提供するためには、図書館情報資源(ネットワーク、冊子体)の特徴を把握しているだけでなく、利用者とのコミュニケーションスキル(レファレンスインタビュー)やレファレンス支援ツールの活用なども必要となる。利用者の求めに応じ、適切な情報を提供できるよう演習を通して、実践的な能力を養成する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		演習課題	80	8回実施し、各回10%を配点する。1回分の演習内容について理解の程度を評価する。									
		小テスト	10	1回実施し、10%を配点する。8回分の講義内容について理解の程度を評価する。									
	筆記試験	10	第30回の授業後半に筆記試験形式で行い、全30回の講義内容の理解について評価する。										
汎用的 学習成果	(1)	①は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。											
	(2)	②は専門的学習成果③で評価を行う。											
	(3)	③は専門的学習成果①及び③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名								
	著者・編集者名	書名			出版社名								
参考書 参考文献	中山愛理	『情報サービス演習』			ミネルヴァ書房								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①各自に与えられた演習課題は、毎回独自に調査し、発表する授業なので、主体的に取り組むこと。演習時間内で解決できない場合や、大学図書館に参考文献が足りない場合は、最寄りの公共図書館で調査し、次回の授業前までに提出することとする。(計30時間) ②フィードバックとして、小テスト、筆記試験は返却し解説を行う。発表はその場で講評、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス：授業計画、図書館における情報サービスの構築	
	学習成果	現代の情報社会と図書館で行う情報サービスに関連について説明できる。	
3・4回	予習復習の内容	情報社会を象徴する事例を調べておく。	
	授業内容	レファレンス情報源の評価と整備	
5・6回	学習成果	レファレンスツールとレファレンスコレクションについて説明できる。	
	予習復習の内容	図書館で、レファレンスツールに触れておく。	
7・8回	授業内容	レファレンスの受付とインタビューの技法と実際	
	学習成果	利用者とのコミュニケーションの大切さを理解し、質問への対応を実践できる。	
9・10回	予習復習の内容	レファレンスインタビューにおけるコミュニケーションの重要性を理解する。	
	授業内容	情報探索の技法	
11・12回	学習成果	情報探索に必要な技法やツールを理解し、活用できる。	
	予習復習の内容	図書館のOPACなどで、キーワードを入力し、情報探索を行う。	
13・14回	授業内容	図書情報の探し方	
	学習成果	図書情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
15・16回	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	新聞・雑誌情報の探し方	
17・18回	学習成果	新聞・雑誌情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
19・20回	授業内容	言語、事物、概念に関する情報の探し方	
	学習成果	言語、事物、概念に関する情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
21・22回	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	法令、条例、判例、政府・行政情報の探し方	
23・24回	学習成果	法令、条例、判例、政府・行政情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
25・26回	授業内容	知的財産系情報の探し方	
	学習成果	知的財産系情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
27・28回	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	人物、企業、団体情報の探し方	
29・30回	学習成果	人物、企業、団体情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
29・30回	授業内容	地理、歴史情報の探し方	
	学習成果	地理、歴史情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
29・30回	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	生活に関わる情報の探し方	
29・30回	学習成果	生活に関わる情報の定義と種類を理解し、演習課題に応じた情報を探し、発表することができる。	
	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
29・30回	授業内容	レファレンス質問に課する総合演習	
	学習成果	冊子体情報資源及びネットワーク情報資源を使って適切な情報を探索できる。	
29・30回	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
	授業内容	発信型情報サービスの実際	
29・30回	学習成果	発信型情報サービスの種類を挙げ、活用及び作成することができる。	
	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	
29・30回	授業内容	情報サービスの回答と評価	
	学習成果	レファレンス記録を作成し、それらを評価することができる。	
29・30回	予習復習の内容	演習課題への解説を元に理解が不十分だった部分について復習する。	

科目名	図書館情報技術論				担当者	川 辺 博						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		kawabe.hiroshi@seiwu.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。										
専門的 学習成果	①	図書館の業務に必要な基礎的な情報技術を説明できる。										
	②	図書館業務システムや電子資料の仕組みと特性を理解し、活用できる。										
	③	情報技術の発展に連動した図書館業務のこれまでの変化と今後の進展を議論できる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館業務に関する情報技術の概要を理解することにより、司書としての職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	情報技術と図書館の関わりを学ぶことを通じて、現在と将来の図書館のありかたを探索することができる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	社会における情報技術普及の影響は図書館にも及んでいる。図書館はいまや書籍の単なる貯蔵庫ではなく電子化された資料も扱うようになった。インターネット上の情報資源のようにパッケージ化されていない「資料」や電子書籍への対応も求められており、業務における情報技術活用の重要性は増している。この授業では情報技術の基本的な仕組みや歴史的背景の知識を、図書館の業務に関連づけながら解説する。これにより、日々発展する情報技術の動向を把握し、図書館の将来の変化に対応できることをめざす。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	論述形式の出題により、講義内容の理解度を把握する。								
		レポート										
		小テスト	30	予習と復習の状況を把握するため、毎回実施する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②で評価をおこなう。 (2)は専門的学習成果③で評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日高昇治		『図書館情報技術論』第3版						学文社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業は、受講生がテキストの少なくとも1章分を読んで下調べしてあることを前提に展開する。前もって専門用語を確認したり、司書資格科目の他の科目の内容を確認したりしておくこと(予習:週2時間程度)。授業のほとんどの時間はテキストの説明ではなく、具体例の追加やテキスト発行後の情報技術の発展による変化などの補足説明に費やす。授業後は、テキストの内容と解説の内容とを各自で整理・統合すること(復習:週2時間程度)。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、コンピュータとネットワークの基礎(1)	小テスト
	学習成果	この授業の学習方法を身につける。コンピュータの基本構造を説明できる。	
	予習復習の内容	他の司書資格の科目で学習した内容をまとめておく。	
	授業内容	コンピュータとネットワークの基礎(2)	小テスト
2回	学習成果	ネットワークの基本概念と、デジタルとアナログの違いを説明できる。	
	予習復習の内容	コンピュータとネットワークの基本概念を整理する。	
3回	授業内容	情報技術と社会(1)	小テスト
	学習成果	情報技術の進化とそれによる社会の変化について説明できる。	
	予習復習の内容	情報技術の進化がもたらした影響を整理する。	
	授業内容	情報技術と社会(2)	小テスト
4回	学習成果	情報化社会の問題点について議論できる。	
	予習復習の内容	情報技術の進化によって発生した課題を考察する。	
5回	授業内容	図書館における情報技術活用の現状	小テスト
	学習成果	図書館で情報技術がどのように活用されているかを説明できる。	
	予習復習の内容	図書館の使命と情報技術の関係を整理する。	
	授業内容	図書館業務システムの仕組み(1)	小テスト
6回	学習成果	図書館業務システムの構成を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館業務を具体的に想像し、システムと関連づけて整理する。	
7回	授業内容	図書館業務システムの仕組み(2)	小テスト
	学習成果	図書館業務システムが提供する機能を説明できる。	
	予習復習の内容	図書館業務とデータベース処理とを関連づけて整理する。	
	授業内容	データベースの仕組み	小テスト
8回	学習成果	データベースの仕組みとDBMSの役割を説明できる。	
	予習復習の内容	データベース処理の概略を整理する。	
9回	授業内容	検索エンジンの仕組み	小テスト
	学習成果	検索エンジンの種類と仕組みを説明できる。	
	予習復習の内容	検索エンジンの仕組みを意識しながら実際に使用してみる。	
	授業内容	電子資料の管理技術	小テスト
10回	学習成果	電子資料の特性と管理に必要な技術を説明できる。	
	予習復習の内容	電子資料に特有の管理技術を整理する。	
11回	授業内容	コンピュータシステムの管理	小テスト
	学習成果	コンピュータシステムの管理方法、特にセキュリティ管理について説明できる。	
	予習復習の内容	システム管理の概略を整理する。	
	授業内容	デジタルアーカイブ(1)	小テスト
12回	学習成果	デジタルアーカイブの特性を説明できる。	
	予習復習の内容	デジタルアーカイブの種類を整理する。	
13回	授業内容	デジタルアーカイブ(2)	小テスト
	学習成果	デジタルアーカイブの課題を議論できる。	
	予習復習の内容	デジタルアーカイブの構築方法を整理する。	
	授業内容	最新の情報技術と図書館	小テスト
14回	学習成果	最新の情報技術を説明し、今後の技術発展と図書館の関わりについて議論できる。	
	予習復習の内容	図書館における今後の情報技術の発展について考察する。	
15回	授業内容	まとめ	小テスト
	学習成果	個々の項目を総合して議論し、課題を指摘できる。	
	予習復習の内容	授業全体を振り返る。	

科目名	情報資源組織演習					担当者	関根俊二					
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中以外の質問や相談は、メール又は講師控室で受付ける。										
専門的 学習成果	①	多様な情報資源に対し、演習により分類記号付与についての知識を獲得する。										
	②	主題からのアプローチを可能とさせるため、件名付与についての知識を獲得する。										
	③	演習により、情報資源に関する書誌データの作成についての知識を獲得する。										
	④	図書館（公共、大学等）の作成する蔵書目録から、書誌所在情報について、その機能及び構造の説明ができる。										
	⑤	社会における新しいメディアの普及と、図書館で扱う情報資源の急速な変化に対する知識と理解を深める。										
汎用的 学習成果	(1)	大学における他の講義のための課題や予習のために必要な情報検索手法を身につけることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	地域の公共図書館を自由に活用できるスキルを獲得し、幅広い教養を積むのに役立てることができる。（専門的学習成果③④に関連）										
	(3)	生涯学習施設である図書館の情報発信の役割を学ぶことにより、社会人としても向上し続ける手段を身につけるとともに地域社会の発展に貢献できる。（専門的学習成果④⑤に関連）										
授業概要	「情報資源組織法」で学んだ情報資源の組織化について、通年にわたる演習を通して実践的な手法を身につける。演習は、様々な形態・内容の情報資源に関する書誌データの作成練習を中心に、多様な情報資源の書誌事項を、検索可能な書誌データの形式に変換する実践的な技術を身に付けられるように進めていく。このため、「日本十進分類法」、「日本目録規則」、「基本件名標目表」の構造や使用法を学習することによって、情報資源組織業務についての基本的な知識を獲得する。次に、多様な情報資源に関する主題分析、統制語彙の適用、分類作業、書誌データの作成、メタデータの作成等の技術を習得し、情報資源の違いに応じた、主題から検索キー付与等の書誌データ作成作業を重ねて、情報資源組織化の実務に役立つ能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		演習課題	50	演習課題は毎回発表または提出し、理解の程度および完成度の評価を行う。								
筆記試験	50	第15回目と第30回目の授業後半に筆記試験を実施し、理解の程度および達成度の評価を行う。										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	志保田努・高鷲忠美編 書、平井尊士共著	『情報資源組織法 第3版』					第一法規					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	日本図書館協会分類委員会	『日本十進分類法 新訂10版』					日本図書館協会					
	日本図書館協会目録委員会	『日本目録規則 1987年版改訂3版』					日本図書館協会					
日本図書館協会件名委員会	『基本件名表目録 第4版』					日本図書館協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①教科書の各回部分を事前に予習として読んでおくこと（各回1時間）。資料の組織化には、学術上の知識体系を蓄積しておくことが必要であるから、週1時間以上は大学図書館で所蔵する学術書を始め、できる限り多くの資料に触れる時間を持つこと。最寄りの公共図書館等を活用し、毎週1冊は何らかの本を読了すること。 ②演習課題は、その都度仕上げ、完成後、発表または提出するものとする。各演習回中に解答及び解説を行うので、間違えた箇所は朱書き訂正して提出すること。筆記試験は各回の演習時に解答及び解説並びに講評を行いフィードバックする。											

	授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
	授業内容	前期授業概要と授業計画、主題からの検索	分類規程に関する課題演習は第3回に実施	授業内容	後期授業概要と授業計画	書誌データの参考事例を見ながらの記入演習を第3回に実施		
1回	学習成果	主題からの検索の必要性を理解しそのしくみを説明できる。	16回	学習成果	情報資源の組織化について理解し説明できる。	17回	学習成果	テキストの「目録」と「索引」の違いについて、まず一般的に説明を事前にご調べておくこと。
	予習復習の内容	テキストの「序説」を読み、図書館学の科目全体の概要と、授業の目的を理解する。		予習復習の内容	「書誌」と「目録」と「索引」の違いについて、まず一般的に説明を事前にご調べておくこと。			
2回	学習成果	「日本十進分類法」補助表の説明	17回	学習成果	目録作成総説、コンピュータによる目録	18回	学習成果	目録作成総説、コンピュータによる目録
	予習復習の内容	補助表の役割を理解し説明できる。		予習復習の内容	目録作成規則の意義を理解し説明できる。			
3回	学習成果	「日本十進分類法（相関索引・使用法編）」p274～の「分類構築」を読み、分類記号合成の仕組みを理解してから授業にのぞむこと。	18回	学習成果	「MARC」と「OPAC」の誕生の歴史を理解しておくこと。	19回	学習成果	書誌データ作成の参考事例と記入演習
	予習復習の内容	一般分類規程の演習		予習復習の内容	目録作成の事例を参考に書誌の記入項目を確認する。			
4回	学習成果	分類規程を理解し説明できる。	19回	学習成果	目録作成の事例を参考に書誌の記入項目を確認する。	20回	学習成果	目録作成の事例を参考に書誌の記入項目を確認する。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
5回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	20回	学習成果	目録記述（タイトル）を理解し身につける。	21回	学習成果	目録記述（責任表示）を理解し身につける。
	予習復習の内容	「基本件名標目表」による統制語彙演習		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
6回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	21回	学習成果	目録記述（版・出版事項）を理解し身につける。	22回	学習成果	目録記述（形態）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
7回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	22回	学習成果	目録記述（形態）を理解し身につける。	23回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
8回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	23回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	24回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
9回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	24回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	25回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
10回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	25回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	26回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
11回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	26回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	27回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
12回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	27回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	28回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
13回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	28回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	29回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
14回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	29回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	30回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			
15回	学習成果	「基本件名標目表」による統制語彙演習	30回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。	31回	学習成果	目録記述（注記）を理解し身につける。
	予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。		予習復習の内容	演習課題の解答解説を基に、理解が不十分であった部分について復習する。			

科目名	図書館史				担当者	ツグノアサヒ 野 篤						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	1年	開講期	後期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	図書館の歴史を知る意義について説明できる。										
	②	日本の図書館の発展に関する重要事項について、各種要素を関連づけながら説明ができる。										
	③	海外の図書館の発展に関する重要事項について、各種要素を関連づけながら説明ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	図書館の歴史を学ぶことを通じて、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	図書館の成り立ちを学び、身近な図書館・生涯学習支援施設の機能を理解し、適切に活用することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	修得した専門的知識や技能を活用して、地域の図書館・生涯学習支援施設の向上に貢献することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	学問的な調査研究、あるいは、日常的に必要な情報収集のため図書館を利用することは多い。図書館では、自分が知らない新たな出会いがある。それは、過去の歴史・思想の蓄積であり、現在をよりよく生きるための生活情報であり、未来に向けた展望を開く扉でもある。パラエティーに富んだ多くの書籍が、一カ所に収集され整理されマネジメントされ、誰でも自由に閲覧ができる。この面白く不思議なシステムが、どのように誕生し発達してきたのを振り返り、人類の英知として活かす糧とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	5回実施し、各回20%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	寺田光孝・藤野幸雄	『図書館の歴史』				日外教養選書						
	川崎良孝	『図書館員選書・31 図書館の歴史 アメリカ編 増訂版』				日本図書館協会						
	寺田光孝編	『図書及び図書館史』				樹村房						
	高山正成	『歴史に見る日本の図書館 知的精華の受容と伝承』				勁草書房						
	マレー、スチュアート・A.P.	『図説 図書館の歴史』				原書房						
	ライオネル カッソン	『図書館の誕生—古代オリエントからローマへ』				刀水書房						
	フェルナンド・バエス	『書物の破壊の世界史—シュメールの粘土板からデジタル時代まで』				紀伊國屋書店						
バトルズ、マシュー	『図書館の興亡—古代アレクサンドリアから現代』				草思社							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 1年次の春休みに行う集中講義である。配布資料を基に、1コマに対し、予習2時間、理解不足を補う復習1時間を行い、学習を深めること。 ②課題の小テストについては、随時コメントを添え返却することでフィードバックとする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	図書館が生まれる前までの歴史	
	学習成果	人間の意思の伝達、記録媒体の変遷について説明できる。	
	予習復習の内容	人間が生きた証として古墳、粘土版や紙の歴史について調べる。	
	授業内容	西洋の図書館史 (1) 古代	
2回	学習成果	西洋 (オリエントを含む) の古代における図書館について述べるができる。	
	予習復習の内容	ニネヴァ、アレクサンドリア、ベルガモン、アリストテレス、ローマの図書館について調べる。	
3回	授業内容	西洋の図書館史 (2) 中世	
	学習成果	キリスト教の影響の強い西洋の中世図書館について述べるができる。	
	予習復習の内容	聖ベネディクト等修道院系図書館、大学、ヴァチカンの図書館について調べる。	
	授業内容	西洋の図書館史 (3) 近世	
4回	学習成果	グーテンベルクの活版印刷と近世の本の発達について述べるができる。	
	予習復習の内容	グーテンベルク、刊本、宗教改革と図書館の関連について調べる。	
5回	授業内容	西洋の図書館史 (4) 近代	
	学習成果	西洋諸国における近代図書館誕生の経緯について説明できる。	
	予習復習の内容	フランス王室図書館、イギリス大英博物館図書館、ニューヨーク公共図書館について調べる。	
	授業内容	日本の図書館史 (1) 古代—平安時代	
6回	学習成果	日本の古代における文字の受容の在り方について説明できる。	
	予習復習の内容	文字情報の伝来、経蔵、書経について調べる。	
7回	授業内容	日本の図書館史 (2) 鎌倉時代～江戸時代	
	学習成果	武家制度の発展がもたらした文庫文化と文庫の庶民化について調べる。	
	予習復習の内容	金沢文庫、足利学校など武家文庫および、庶民の文庫について調べる。	
	授業内容	日本の図書館史 (3) 明治時代～現在へ	
8回	学習成果	西洋図書館の受容、近代図書館の誕生、サービス化された図書館について説明できる。	
	予習復習の内容	明治から現在に至る日本の歴史について、思想・言論の自由の変遷を中心に調べる。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
10回	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
12回	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
14回	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	絵本の知識				担当者	関 根 俊 二 ・ 他						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内および授業直後に受け付ける											
専門的 学習成果	①	絵本に関する専門的な知識をもち、絵本の楽しさや奥深さを説明することができる。										
	②	絵本を活用する専門的な知識をもち、児童のさまざまな要望に応えることができる。										
	③	絵本と児童と出会うさまざまな場面について理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	聞き手や状況に配慮したコミュニケーションができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	着実に計画的なコーディネート力により課題に適切に対応できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
授業概要	絵本に係る専門的な知識と技術について学び、絵本を手掛かりにして児童の読書活動推進に貢献できることをめざす。まず絵本の表現特性、ジャンルの多様性、子供の成長と関わりなど絵本について知識を深める。次に絵本と児童が出会うさまざまな場面について理解する。さらに児童に絵本を伝える技術の広がりについて学ぶ。講師を務める多くのゲストスピーカーは、息をひそめて子供が絵本を見つめる絵本享受の現場に精通しており、絵本の本当の楽しさや可能性について学ぶことができるだろう。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	100	授業内または授業後に課す。講義の理解度で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	絵本専門士委員会課程 認定部会認定絵本士養成 講座テキスト作成 ワーキンググループ		『認定絵本士養成講座 テキスト』						絵本専門士委員会 独立行政 法人国立青少年教育振興機構			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	中川素子	『絵本学講座① 絵本の表現』						朝倉書店				
	石井光恵	『絵本学講座② 絵本の受容』						朝倉書店				
	松本猛	『絵本学講座③ 絵本と社会』						朝倉書店				
	中川素子	『絵本学講座④ 絵本ワークショップ』						朝倉書店				
	生田美秋 他	『ベーシック 絵本入門』						ミネルヴァ書房				
	藤本朝巳	『絵本のしくみを考える』						日本エディタースクール 出版部				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①右ページの「授業計画」を参考にして、テキストの該当箇所をあらかじめ読んだ上で、授業に臨むこと。 関心がある部分については資料やインターネットを利用して、さらに理解を深めておく。(授業ごと事前学習2時間、事後学習2時間程度) また、授業で紹介される多くの絵本を、日常的に鑑賞しておくことが望ましい。認定絵本士養成講座修了要件は8割以上の出席。 ②レポートは評価をした上で返却する。 (受講にあたっての連絡) 受講人数は40人程度とする。これを超えた場合は、まず司書課程履修者の受講を優先する。次に、それ以外の履修希望者に対して抽選を行って受講の可否を決定することがある。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	認定絵本士講座オリエンテーション	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	認定絵本士の役割、本講座の仕組みについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
2回	授業内容	絵本とは何か	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	絵本の特性、多様性について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
3回	授業内容	絵本の歴史、絵本賞	受講後に提出するレポートによる。
	学習成果	絵本の歴史、絵本賞について説明できる。	
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
4回	授業内容	絵本の視覚・言語表現	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	絵本の資格・言語表現の基礎を説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
5回	授業内容	子供の発達と絵本	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	子供の発達と絵本との関わりについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
6回	授業内容	メディアとしての絵本	受講後に提出するレポートによる。
	学習成果	情報メディアとしての絵本、著作権などについて説明できる。	
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
7回	授業内容	物語絵本	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	物語絵本の特性や表現について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
8回	授業内容	昔話・童話絵本	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	昔話・童話絵本の特性や広がりについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
9回	授業内容	科学絵本	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	科学絵本の広がりや活用方法について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
10回	授業内容	絵本との出会い	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	乳幼児向けの絵本やブックスタートについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
11回	授業内容	保育と絵本	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	保育現場での絵本の活用について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
12回	授業内容	絵本の活用	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	図書館の児童サービスや地域の読書推進活動について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
13回	授業内容	絵本の売り場づくり	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	絵本の流通、書店での売り場づくりについて説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
14回	授業内容	絵本レファレンス	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	絵本を探す多様な手段について説明できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
15回	授業内容	絵本ワークショップ	受講後に提出するレポートによる。
	学習成果	絵本を活用したワークショップについて説明できる。	
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	

科目名	絵本をめぐる技術と感性				担当者	関 根 俊 二 ・ 他						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内および授業直後に受け付ける											
専門的 学習成果	①	絵本に関する専門的な知識をもち、絵本の楽しさや奥深さを説明することができる。										
	②	絵本を活用する専門的な知識・技術をもち、児童のさまざまな要望に応えることができる。										
	③	絵本に児童が出会うさまざまな場面について理解し、基本的に実行することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	聞き手や状況に配慮したコミュニケーションができる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	着実に計画的なコーディネート力により課題に適切に対応できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
授業概要	絵本に係る専門的な知識と技術について学び、絵本を手掛かりにして児童の読書活動推進に貢献できることをめざす。まず、絵本を紹介する方法やお話し会について深く学び、これらを理解し実践できることをめざす。次に、絵本による心のケア、大人と絵本など、絵本の持つさまざまな力について理解する。合わせて、絵本に向き合う子供たちそのものを考察するために、子供の遊びや子供向け商業施設の現状を探る。さらに、絵本を生み出す作家、編集者の言葉に耳を傾け、絵本の本質に迫る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	100	授業内または授業後に課す。講義の理解度で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	絵本専門士委員会課程 認定部会認定絵本士養成 講座テキスト作成 ワーキンググループ	『認定絵本士養成講座 テキスト』					絵本専門士委員会 独立行政 法人国立青少年教育振興機構					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	中川素子	『絵本学講座① 絵本の表現』					朝倉書店					
	石井光恵	『絵本学講座② 絵本の受容』					朝倉書店					
	松本猛	『絵本学講座③ 絵本と社会』					朝倉書店					
	中川素子	『絵本学講座④ 絵本ワークショップ』					朝倉書店					
	生田美秋 他	『ベーシック 絵本入門』					ミネルヴァ書房					
	藤本朝巳	『絵本のしくみを考える』					日本エディタースクール出版部					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①右ページの「授業計画」を参考にして、テキストの該当箇所をあらかじめ読んで、授業に臨むこと。 関心がある部分については資料やインターネットを利用して、さらに理解を深めておく。(授業ごと事前学習2時間、事後学習2時間程度) また、授業で紹介される多くの絵本を、日常的に鑑賞しておくことが望ましい。認定絵本士養成講座修了要件は8割以上の出席。 ②レポートは評価をした上で返却する。 (受講にあたっての連絡) 受講人数は40人程度とする。これを超えた場合は、まず司書課程履修者の受講を優先する。次に、それ以外の履修希望者に対して抽選を行って受講の可否を決定することがある。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	絵本の提案	受講時に課すレポートによる。
	学習成果	絵本の情報収集を理解し、さまざまな児童に絵本を提供できる。	
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本ブックトーク	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	絵本ブックトークを理解し、基本的に実行できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	絵本の書評・紹介	受講時に課すレポートによる。
学習成果	絵本書評の在り方について説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	支援が必要な人々と絵本	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	障がい者を支援する多様な絵本について説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	おはなし会とは	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	お話し会の在り方について説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	おはなし会実践	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	お話し会について理解し、基本的に実践できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	絵本の可能性	受講時に課すレポートによる。
学習成果	さまざまな角度から絵本を見ることができる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本と心のケア	受講時に課すレポートによる。
学習成果	心のケアに絵本がどう使われているか説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本レイアウト	受講時に課すレポートによる。
学習成果	魅力的に絵本レイアウトについて説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	子供の興味・関心	受講時に課すレポートによる。
学習成果	現在の子供の興味、子供を引きつける方法について説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	大人の心を豊かにする絵本	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	絵本と大人の心にどう働きかけるか説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	ホスピタリティに学ぶ	受講時に課すレポートによる。
学習成果	絵本以外で人を楽しませる手法について説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	絵本創作	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	絵本の作り手の思いについて説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	
	授業内容	絵本の編集	受講時に課すレポートによる。
学習成果	絵本制作における編集者の重要性について説明できる。		
	予習復習の内容	事前にテキストを読んでおくこと。	
	授業内容	ディスカッション今後へ向けて	受講後に提出するレポートによる。
学習成果	今後、認定絵本士資格を生かし、どう活動できるか説明できる。		
	予習復習の内容	受講後に行う課題を提示し、レポートとして提出。	

科目名	ノンフィクションを読む				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)										
専門的 学習成果	①	ビジネス教養、地域理解など、ノンフィクションを通して社会生活に必要な教養情報をもち説明できる。										
	②	調査の活動を通して培われる自主的な学習力を活用できる。										
	③	わかりやすい適切な説明で発表が行える。										
汎用的 学習成果	(1)	調査・発表を通して物事を的確に説明、紹介する能力をもち実践できる。(専門的学習成果③に関連)										
授業概要	教養書、ビジネス書、スポーツ書、伝記、タレント本、地域本など各種のノンフィクション資料を読んで教養を広げる。ノンフィクション資料の著者は普通、各界の一流人たちがであり、彼らから学ぶ教養はたんなる文化的飾りにとどまらず、時には私たちの生き方の指針ともなるだろう。そして、使える教養として学んでほしい。必要に応じて会話や暮らしの中で活用できる、社会人にふさわしい実践的な教養として身につけてほしい。授業は各テーマごとに講義から発表へという流れで展開する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		発表	60	資料に基づく10～15分の発表を6回行う。その内容で各回10%の評価を行う。								
	授業への取り 組み	40	学習全体を振り返るためのレポートによる。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果③の評価で行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	印刷物配布											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	DVD『プロフェッショナル 仕事の流儀シリーズ』		NHK									
	秋山 利輝	『丁稚のすすめ―夢を実現できる、日本伝統の働き方』							幻冬社			
	松田公太	『すべては一杯のコーヒーから』							新潮社			
	松岡恵理	『アンのかご - 村岡花子の生涯』							新潮社			
	田久保善彦	『東北初10人の新リーダー - 復興にかける志』							河北新報社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①自分で調べた情報について発表を行うので、その準備をしっかり行ってもらいたい。とりあつかう資料の決定、読み込みにも多くの時間が必要で、計7回の発表を予定しているが、各回7.5時間程度の準備学習が必要である。最終回に提出するまとめのレポートも同様。 ②発表についてはそのつど受講者全員で意見を交わし、担当者の評価も伝える。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション 授業の内容と進め方、発表例の紹介	発表①(第4回に実施。課題・ビジネス関連の発表)	
	学習成果	ノンフィクション資料についての教養をもち説明できる。		
2回	授業内容	ビジネス書の理解		
	学習成果	紹介されたビジネスマンについて特徴を理解し説明できる。		
3回	授業内容	ビジネス書の理解		
	学習成果	紹介されたビジネスマンについて特徴を理解し説明できる。		
4回	授業内容	ビジネス書に学ぶ		
	学習成果	興味・関心をもったビジネスマンについて特徴を説明できる。		
5回	授業内容	スポーツ書の理解		
	学習成果	紹介されたアスリートについて特徴を理解し説明できる。		
6回	授業内容	スポーツ書に学ぶ		
	学習成果	興味・関心をもったアスリートについて特徴を理解し説明できる。		
7回	授業内容	地域活性化本の理解	発表②(第6回に実施。課題・アスリートについての発表)	
	学習成果	紹介された地域活性化のプロジェクトについて特徴を理解し説明できる。		
8回	授業内容	地域活性化本に学ぶ		
	学習成果	興味・関心をもった地域活性化のプロジェクトについて特徴を理解し説明できる。		
9回	授業内容	タレント本の理解		
	学習成果	紹介されたタレントについて特徴を理解し説明できる。		
10回	授業内容	タレント本に学ぶ		
	学習成果	興味・関心をもったタレントについて特徴を理解し説明できる。		
11回	授業内容	教養書の理解		
	学習成果	紹介された教養情報について説明できる。		
12回	授業内容	教養書に学ぶ		
	学習成果	興味・関心をもった紹介された教養情報について特徴を理解し説明できる。		
13回	授業内容	伝記の理解	発表③(第8回に実施。課題・地域活性化事業についての発表)	
	学習成果	紹介された人物について特徴を理解し説明できる。		
14回	授業内容	伝記に学ぶ		
	学習成果	興味・関心をもった人物について特徴を理解し説明できる。		
15回	授業内容	まとめ ノンフィクション資料に学んだこと		
	学習成果	興味・関心をもった人物について特徴を理解し説明できる。		
				レポート(学習の振り返り)

科目名	書き言葉				担当者	大 泉 浩 一						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	「伝わる文章」のポイントを活用することができる。										
	②	講義時間内に実際に書くことで高い水準の文章が書けるようになる。										
	③	コミュニケーションや言葉について、深く考察することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果の①②③に関連)										
	(2)	人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。(専門的学習成果の①②に関連)										
	(3)	習得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。(専門的学習成果の②③に関連)										
授業概要		就職活動に役立ち、社会人として生きて行くためにも必須の、文章力を上げるための授業。解説するポイントに気をつけて毎回200文字から800文字の作文を書くことで、読みやすく分かりやすい文章を書く力を身につける。また教員の説明を聞き、テーマに基づいた作文を書くことで、コミュニケーション能力と考える力を養う。あわせて就職試験を想定した漢字や熟語の学習を、中学・高校の復習レベルからSPIレベルまで行う。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		作文課題	100	毎回作成し提出する。条件を守って作成できているかで評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	木下是雄		『理科系の作文技術』				中公新書					
	木下是雄		『レポートの組み立て方』				筑摩書房					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①文章力を向上させたいという意欲があれば、文章を書くことや高校までの国語科目が苦手でも履修に問題はない。新聞や書籍を積極的に読み、自らテーマを設定して文章を書いてみるなど、準備学習に努めること。必要な時間は1週あたり4時間である。 ②提出された課題に問題があれば指摘して修正を求めたり、優れた点があれば具体的に口頭で評価するなどして、より良い文章作りにつながるよう指導する。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	「伝わる文章」の書き方 (1) 400字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らを伝える工夫ができるようになる。			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
2回	授業内容	「伝わる文章」の書き方 (2) 200字			課題作文による
	学習成果	文章を通して手順を伝える工夫ができるようになる。			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
3回	授業内容	「伝わる文章」の書き方 (3) 200字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らが学んでいる内容を伝える工夫ができるようになる。			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
4回	授業内容	情報を伝える文章の書き方 (1) 200字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの経験を伝える工夫ができるようになる。入門編			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
5回	授業内容	情報を伝える文章の書き方 (2) 200字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの経験を伝える工夫ができるようになる。初級編。			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
6回	授業内容	情報を伝える文章の書き方 (3) 200字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの経験を伝える工夫ができるようになる。中級編。			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
7回	授業内容	情報を伝える文章の書き方 (4) 200字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの経験を伝える工夫ができるようになる。応用編。			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
8回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (1) 400字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。入門編			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
9回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (2) 400字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。初級編			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
10回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (3) 400字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。中級編			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
11回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (4) 400字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。応用編			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
12回	授業内容	意見・考えを伝える文章の書き方 (5) 400字			課題作文による
	学習成果	文章を通して自らの意見・考えを伝える工夫ができるようになる。発展編			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
13回	授業内容	実践的なテーマで文章を書く (1) エントリーシート編			課題作文による
	学習成果	文章を通して事実に基づいて意見を伝える工夫ができるようになる。			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
14回	授業内容	実践的なテーマで文章を書く (2) 就職試験対策編			課題作文による
	学習成果	文章を通して事実に基づいて意見を伝える工夫ができるようになる。			
	予習復習の内容	新聞や書籍を読んで、文章作成の参考にする。			
15回	授業内容	まとめ			課題作文による
	学習成果	思考力を問われるテーマに対し、800文字・60分以内で文章が作成できる。			
	予習復習の内容	授業で学んだ内容を就職活動や仕事に生かす。			

科目名	IT時代の表現				担当者	川 辺 博						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。										
専門的 学習成果	①	電子メール、ワープロ、プレゼンテーション・ソフトの特性を理解し、効果的に運用することができる。										
	②	インターネットを利用した情報発信の利点、社会的意義、問題点を指摘し、論じることができる。										
	③	メディア・リテラシーの意識を高め、社会（職場）や日常生活のなかで実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	IT機器の操作とその背後にある論理を身につけることで、知識と技能をもった社会人として自立できる。（専門的学習成果の①②③に関連）										
	(2)	ネットを活用した情報伝達の特性に気を配りながら、自分の考えを発信したり周囲の意見を受信したりできる。（専門的学習成果の②③に関連）										
	(3)	向上させたメディア・リテラシーを生かして、さまざまな場面で指導的な立場に立つことができる。（専門的学習成果の③に関連）										
授業概要	現代社会においては、IT機器を積極的に活用して、効率的な情報伝達をおこなう能力が求められている。この授業では、ビジネスの現場を念頭に置き、ワープロを利用した文書作成やプレゼンテーション・ソフトを利用したスライド作成など、各種ソフトウェアの機能を生かした表現技術を学ぶ。また社会人の基本的な通信手段である電子メールを使いこなせるようになる。一方、各種SNSなどインターネットを使った情報発信の特性と問題点を知り、主体的に参加するための意識を高める。受講者より授業についての質問やIT機器についての疑問を毎回受け付け、それに回答することで受講者全員の理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	論述形式の出題により、講義内容の理解度を把握する。								
		レポート										
		提出物	30	授業ごとの「質問と感想」カードの記述内容と、授業時間中に指示する課題の提出物による。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②③によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果③によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		印刷物等配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	高橋佑磨、片山なつ	『伝わるデザインの基本』				技術評論社						
	ガー・レイノルズ	『シンプルプレゼン』				日経BP社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① ITを活用した身近な表現活動を日頃から意識して観察し、内容と手法を批判的に見るよう努め、記録に留めること（予習：週2時間程度）。授業中に説明するコンピュータ操作は、授業外の時間に実際に試し、習熟しておくこと（復習：週2時間程度）。 ②提出物や期末試験は返却し、その際に解説をおこなう。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、情報の「よい」発信者になるために	毎回回収する「質問と感想」カードの記述内容により評価
	学習成果	IT機器の発展が社会にもたらした影響を、自分の経験にもとづいて説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの自分や周囲のIT機器の利用について振り返り、まとめておく。	
	授業内容	メディア・リテラシー(1) メディアとしてのインターネット	
2回	学習成果	インターネットによる情報発信の特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	出版や放送などのメディアとの違いをまとめておく。	
3回	授業内容	メディア・リテラシー(2) 従来のマスメディアとインターネット	
	学習成果	従来のマスメディアとインターネットによる情報発信の違いを説明できる。	
	予習復習の内容	個人情報の流出や「炎上」などの事例を収集しておく。	
	授業内容	メディア・リテラシー(3) ネットによる情報発信と人権	
4回	学習成果	ネットによる情報発信で注意すべき人権（著作権やプライバシー権）を説明できる。	
	予習復習の内容	著作権やプライバシー権について事前に調べ、実際に起きた事例をまとめる。	
5回	授業内容	電子メールの作法(1) 電子メールの特性	「質問と回答」カードの記述内容および電子メールの作法について確認する課題の提出
	学習成果	電子メールの特徴が説明でき、ビジネス上不適切な電子メールの問題点を指摘できる。	
	予習復習の内容	自分がやりとりした電子メールの文面を振り返っておく。	
	授業内容	電子メールの作法(2) 効率的でマナーにしたがった電子メール	
6回	学習成果	件名、使うべきではない文字、BCC:などの注意点を説明できる。	
	予習復習の内容	技術的な観点から絵文字や機体依存文字の特徴をまとめておく。	
7回	授業内容	電子メールの作法(3) ビジネス・ツールとしての電子メール	
	学習成果	電子メール以外の連絡方法との違いを意識しながら、電子メールが作成できる。	
	予習復習の内容	注意点を念頭に置きながら、実際に電子メールを作成する。	
	授業内容	ワープロで読みやすい文書を作るコツ(1) 書体の違いと選択	毎回回収する「質問と感想」カードの記述内容により評価
学習成果	ワープロの普及による社会の変化と、書体の種類と使い分けを説明できる。		
8回	予習復習の内容	ワープロを操作して、書体の違いによる印象の変化を確かめる。	
	授業内容	ワープロで読みやすい文書を作るコツ(2) 文字の修飾	
9回	学習成果	文字に修飾をほどこす際の基本的な考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	ワープロを操作して、文字に修飾を加える効果を確かめる。	
10回	授業内容	ワープロで読みやすい文書を作るコツ(3) 文字の配置	
	学習成果	文字間隔や行間隔による読みやすさの違いを説明できる。	
	予習復習の内容	ワープロを操作して文字間隔や行間隔を与える印象を確かめる。	
	授業内容	ワープロで読みやすい文書を作るコツ(4) 検索、スタイル	
11回	学習成果	検索やスタイルの機能を使うことで読みやすい文書をすばやく作れるようになる。	
	予習復習の内容	ワープロを操作して、検索やスタイルという機能に習熟する。	
12回	授業内容	魅力的なスライドを作るコツ(1) スライドショーを使った発表の特性	毎回回収する「質問と感想」カードの記述内容により評価
	学習成果	プレゼンテーション・ソフトの特性を説明できる。	
	予習復習の内容	スライドを用いた発表で印象的なものを思い出し、まとめておく。	
	授業内容	魅力的なスライドを作るコツ(2) プレゼンテーションの実例	
13回	学習成果	すぐれた発表の実例を見て、その特徴を指摘できる。	
	予習復習の内容	プレゼン・ソフトを操作して、文字の配置による印象の変化を確かめておく。	
14回	授業内容	魅力的なスライドを作るコツ(3) 文字の配置	
	学習成果	スライドに文字を配置する際の注意点を説明できる。	
	予習復習の内容	プレゼン・ソフトを操作して、アニメーションによる印象の変化を確かめておく。	
	授業内容	魅力的なスライドを作るコツ(4) スライドの装飾、アニメーション	
15回	学習成果	スライドに装飾をほどこす際の基本的な考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	これまでに自分が作ったスライドを振り返り、改善点をまとめる。	

科目名	雑誌製作				担当者	関根俊二						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
授業時間数	30											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に対応する。											
専門的 学習成果	① 企画から取材、編集、印刷まで、雑誌製作の全体を体験し、その知識を活用できる。 ② 雑誌製作の活動を通して地域に係わり、その活性化に貢献できる。 ③ グループ課題の製作を通して高いコミュニケーション能力を発揮できる。											
汎用的 学習成果	(1) 社会的・職業的自立に必要な知識と技能を修得し、実践につなげることができる。 (2) 人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。 (3) 修得した専門的知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。											
授業概要	企画・編集・取材・原稿作成・レイアウト・印刷など、印刷物を制作する過程とポイントについて学ぶ。フリーペーパー制作を目標とし、文章の作成はもちろん、誌面構成や進行管理など、雑誌製作に必要な幅広い内容について実践的にトレーニングする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		個人課題	50	課題の手出で提出期限を守ったか、また、内容の掘り下げや広がりが見られたかで評価する。								
	グループ課題	50	提出期限を守ったか、グループ内のコミュニケーションに配慮できたか、内容の掘り下げや広がりが見られたかで評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『編集ハンドブック』				グヴィッド社						
		『レイアウトひらめき事典』				河出書房新社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①短大周辺の自治体や店舗などへの取材を行う。取材先の予定で年間授業予定日と別にこれを実施することになるので、注意する。 ②締め切りに間に合うよう、また、読者に関心をもってもらえるように配慮しながら製作課題を仕上げ、グループ製作に必要な打ち合せ・作業を行うなど、準備学習に努めること。必要な時間は1週あたり4時間である。 ③提出された課題に問題があれば指摘して修正を求めたり、優れた点があれば具体的に口頭で評価するなどして、より良い作品作りにつながるよう指導する。											

			授業計画				学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス				評価の方法・基準に基づき、個人課題とグループ課題の達成度を測る。		
	学習成果	授業概要を理解し、授業の目的やスケジュールについて説明できる。						
	予習復習の内容	シラバスを読み、内容を理解しておく。						
	授業内容	興味をもつ雑誌を持ちより、その特徴を説明する。						
2回	学習成果	さまざまな雑誌の、作り手の工夫に目を向けられる。						
	予習復習の内容	様々な雑誌の構成に学び、自らの作品の参考にする。						
3回	授業内容	企画・編集 (1)						
	学習成果	グループで話し合い製作する雑誌のテーマ等について決定できる。						
	予習復習の内容	雑誌のテーマ等について各自で考えておく。						
	授業内容	企画・編集 (2)						
4回	学習成果	グループで話し合い製作する雑誌の内容について決定できる。						
	予習復習の内容	雑誌の内容について各自で考えておく。						
5回	授業内容	取材準備						
	学習成果	取材先について調査し意見交換を行うことができる。						
	予習復習の内容	取材先について事前に調べておく。						
	授業内容	取材						
6回	学習成果	訪問取材を行い、雑誌製作に必要な情報を収集できる。						
	予習復習の内容	取材時の質問内容などについて整理しておく。						
7回	授業内容	収集情報の確認等						
	学習成果	収集情報を説明し、内容を共有できる。						
	予習復習の内容	様々な雑誌のレイアウトに学び、自らの作品の参考にする。						
	授業内容	原稿等の執筆						
8回	学習成果	正確さ、わかりやすさに配慮した原稿を執筆できる。						
	予習復習の内容	原稿の執筆を着手しておく。						
9回	授業内容	原稿の校正						
	学習成果	読み手を意識した雑誌の製作ができる。						
	予習復習の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトに目を通すなどして製作に生かす。						
	授業内容	レイアウト						
10回	学習成果	効果的なページの割りつけができる。						
	予習復習の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトに目を通すなどして製作に生かす。						
11回	授業内容	ビジュアル原稿の制作						
	学習成果	ビジュアル原稿の表現を工夫できる。テキスト原稿の表現を工夫できる。						
	予習復習の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトに目を通すなどして製作に生かす。						
	授業内容	制作物の点検						
12回	学習成果	雑誌の全体像について意見を交わし、改善することができる。						
	予習復習の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトに目を通すなどして製作に生かす。						
13回	授業内容	印刷・製本						
	学習成果	印刷・製本して絵本を仕上げることができる。						
	予習復習の内容	雑誌に関する書籍やウェブサイトに目を通すなどして製作に生かす。						
	授業内容	自己評価・相互評価						
14回	学習成果	自身による振り返り、他者による評価を通して作品の客観的な評価ができる。						
	予習復習の内容	客観的な評価に基づき、具体的に改善点を把握する。						
15回	授業内容	取材先への報告						
	学習成果	作品の客観的な評価ができる。地域とのつながりについて意識できる。						
	予習復習の内容	報告のための準備						

科目名	創作演習				担当者	関根俊二							
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回		授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業後あるいはオフィスアワー(初回授業で説明)											
専門的 学習成果	①	表現行為に自覚的になり、言葉を選び表現することができる。											
	②	表現する立場からさまざまな作品に触れることで、文学作品の理解が深まり説明できる。											
	③	グループ活動を通して円滑なコミュニケーションを実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	相手の立場に立ち相手の本意に向き合おうとする他者理解を行うことができる。(専門的学習成果②③に関連)											
	(2)	自覚的で選択的な自己表現を行うことができる。(専門的学習成果①③に関連)											
授業概要	エッセイ、童話、短編小説、シナリオの創作にチャレンジする。人の心に届く作品を目指して、内容の選択、構成・表現への配慮に通常よりも時間をかけて執筆してもらう。授業の流れとしては、まずそれぞれの分野で自分が関心をもつ作品について説明、ジャンルの表現特徴について確認した上で執筆に取り組んでもらう。創作後は作品を朗読し意見交換して、自分の作品を客観的に振り返ってもらう。作品は冊子の形に取りまとめで3月に配布する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		提出物	100	執筆した作品を4回にわたって提出する。各回、25点を配点する。独創性と表現力を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果②③の評価で行う。 (2)は専門的学習成果①③の評価で行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
			印刷物等配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
			『文章の工房 2019』（前年度の成果報告書）										
			河北新報投稿欄「ティータム」						河北新報社				
	江国香織		『すいかの匂い』						新潮社				
	さくらももこ		『もものかんづめ』						集英社				
	佐野洋子		『100万回生きたねこ』						講談社				
いなつぐかつら他		『ゆきのひのくまさん』						鈴木出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①開講前に、また、授業と並行して参考文献またはそれに準じた作品に触れてほしい(計16時間程度)。4回実施する作品の執筆は授業で行うが、それで完了しない場合は教室外での執筆となる。意見交換後の振り返りに基づき作品の手直しもする。ジャンルによってかかる時間は異なるが、各ジャンルごとに平均11時間取り組む。 ②執筆された作品については、教室内で発表の機会を与え、講評を伝える。3月に成果報告書『文章の工房2019』を配布する。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション 授業の進め方 作品紹介(『文章の工房 2019』を中心に)	創作エッセイの提出(第5回)	
	学習成果	前年度の授業成果報告書に触れて具体的に目標を設定できる。		
	予習復習の内容	参考文献の作品を読んでおく。		
2回	授業内容	作品紹介の続き(参考文献など)		
	学習成果	さまざまな作品に触れながら柔軟に構想を立てられる。		
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。		
3回	授業内容	エッセイ創作 エッセイの表現 さまざまなエッセイ		
	学習成果	エッセイの表現を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。		
4回	授業内容	エッセイの創作 エッセイの執筆		
	学習成果	内容・表現を追求してエッセイを執筆できる。		
	予習復習の内容	エッセイを完成する。		
5回	授業内容	エッセイの創作 発表と意見交換		
	学習成果	自分のエッセイについて客観的に評価できる。		
	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。		
6回	授業内容	童話の創作 童話の表現 さまざまな童話	創作童話の提出(第8回)	
	学習成果	童話の表現を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。		
7回	授業内容	童話の創作 童話の執筆		
	学習成果	内容・表現を追求して童話を執筆できる。		
	予習復習の内容	童話を完成する。		
8回	授業内容	童話の創作 発表と意見交換		
	学習成果	自分の童話について客観的に評価できる。		
	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。		
9回	授業内容	コトの創作 コトの表現 さまざまなコト		創作コトの提出(第11回)
	学習成果	コトの表現を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。		
10回	授業内容	コトの創作 コトの執筆		
	学習成果	内容・表現を追求してコトを執筆できる。		
	予習復習の内容	コトを完成する。		
11回	授業内容	コトの創作 発表と意見交換		
	学習成果	自分のコトについて客観的に評価できる。		
	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。		
12回	授業内容	短編小説の創作 短編小説の表現 さまざまな短編小説	創作小説の提出(第14回)	
	学習成果	短編小説の表現を理解し説明できる。		
	予習復習の内容	参考文献に類した作品を読んでおく。自分の作品の構想を練る。		
13回	授業内容	短編小説の創作 短編小説の執筆		
	学習成果	内容・表現を追求して短編小説を執筆できる。		
	予習復習の内容	短編小説を完成する。		
14回	授業内容	短編小説の創作 発表と意見交換		
	学習成果	自分の短編小説について客観的に評価できる。		
	予習復習の内容	振り返りに基づき作品を調整する。		
15回	授業内容	まとめ 各作品の入力 『文章の工房2019』について		
	学習成果	自分の創作について客観的に評価できる。		
	予習復習の内容	入力を完了し提出する。		

科目名	公務員試験対策Ⅲ（一般知能・実践）				担当者	宮 城 伸 彦						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について再確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験の主要科目である一般知能科目の要点を理解し、適切な解法ができる。										
	③	過去問等の実践的な問題に取り組み、応用ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	実践的な問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②・③に関連）										
	(2)	社会人として必要とされる一般教養について実践的に理解を深めることができる。（専門的学習成果②・③に関連）										
授業概要	公務員試験で出題される一般知能における数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の科目内容に沿って、公式や基本的な解法を触れながら、実践的な問題演習・解答解説を行い、出題内容の理解、解法の習得、そこから見える各自の弱点の把握を通して、来たる公務員試験にむけて具体的な対策を進める。公務員志望者に即した内容とはなるが、一般企業などで多く課されるSPI試験等の内容にも対応している。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業の最初に実施し、各回5％程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		まとめ テスト	40	第15回目に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②・③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験 [高卒程度・社会人] らくらく総まとめ 判断・数的推理』				実務教育出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級<教養試験>過去問350』				実務教育出版						
	公務員試験専門喜治塾	『無敵の地方公務員初級過去問クリア問題集』				高橋書店						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを公的機関を目指す学生も対象となる。 広範な範囲にわたるため15回の授業としてはある程度を分野を絞らざるをえないので、授業で扱わない問題についても自ら積極的に学習し、継続的に学習することが望ましい。 ②毎回の小テストは評価の対象として最重視するので、講義内容を十分復習して臨むこと（復習：週1時間程度）。 評価後、次回の授業時に返却するので、間違いや苦手を理解しさらに復習に努めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、公務員試験に向けてのスケジューリング	小テストを行う。毎回の授業の最初に行い、前回授業内容についての確認の内容となる。
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、公務員試験に向けての学習計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	インターネットなどを通して公務員試験の概要について確認する。	
2回	授業内容	数的推理①数の計算、約数・倍数、記数法など	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	数的推理②方程式、濃度・割合・比	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
4回	授業内容	数的推理③速さ、時計算・年齢算、仕事算・ニュートン算	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	数的推理④確率	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
6回	授業内容	数的推理⑤図形	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	判断推理①暗号、集合、命題	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
8回	授業内容	判断推理②対応関係、位置関係	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	判断推理③試合、発言の真偽、操作の方法、数量	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
10回	授業内容	判断推理④経路と距離、方位と方向、位置関係	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	空間把握①図形の切断と構成、折り紙と模様	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
12回	授業内容	空間把握②点の移動と軌跡、図形のつながり、立体の組立て	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	空間把握③展開図、投影図、回転と切断	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
14回	授業内容	資料解釈	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめテスト・解説	まとめテストを実施する。すべて授業内容からの出題とする。
	学習成果	まとめテストを実施するとともに、その解説講義を通して一般知能全般について解答することができる。	
	予習復習の内容	授業内容を復習しておく。	

科目名	公務員試験演習（過去問演習）				担当者	本 吉 祥 子 ・ 宮 城 伸 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		e-mail hori.ryohei@seiwaac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。										
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
	③	公務員試験における適性試験ならびに作文、面接試験について理解し、効果的な対策を検討することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②・③に関連）										
授業概要	公務員試験において出題される科目について講義で基本的な解法パターンや学習方法を示し、教材を通して各自での学習を効率よく進めることができることを目的とする。今期においては一般知能科目（数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈）ならびに一般知識科目を中心に講義を行う。 公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		習熟度テスト & レポート	100	講義実施内容についての習熟度を確認するテスト&レポートを最終回に行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②・③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	資格試験研究会	高卒・短大卒程度公務員コース【通信講座教材】						実務教育出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』						実務教育出版				
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』						実務教育出版				
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』						実務教育出版				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。 ②習熟度テストは実施後適宜解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、公務員試験に向けての学習計画を立てることができる。	
2回	予習復習の内容	インターネットなどで試験情報の収集などを行う。	
	授業内容	過去問演習（数的推理・資料解釈）	
2回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	過去問演習（数的推理・資料解釈）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
3回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	過去問演習（数的推理・資料解釈）	
4回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
5回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
6回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
7回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	過去問演習（判断推理・空間把握）	
8回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	過去問演習（文章理解）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
9回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	過去問演習（文章理解）	
10回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	過去問演習（政治・経済）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
11回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	過去問演習（政治・経済）	
12回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	過去問演習（政治・経済）	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
13回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	適性試験、作文・面接試験 基礎	
14回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後の学習に繋げることができる。	
15回	予習復習の内容	この期間内の学習内容を振り返る。	
		習熟度テスト&レポートを実施する。	

科目名	公務員試験演習（直前編）				担当者	本 吉 祥 子 ・ 宮 城 伸 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	10	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	20	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: hori.ryohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験に必要な対策について確認し、効果的な取り組みを進められる。										
	②	公務員試験出題科目それぞれの要点を理解し、適切な解法が実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策が進捗する。（専門的学習成果①・②に関連）										
授業概要	9月に実施される国家公務員並びに地方公務員採用試験に向けて、暗記系科目（日本史・世界史・地理、社会・労働・国際関係）の重要ポイントの整理や一般知能の予想問題の演習・解説、二次試験に向けた実践形式の講義を行う。また、模擬試験を実施し、解説講義を通して弱点の把握を目指す。公務員試験合格を目標とする講義となることから、講義を受動的に受講するだけでなく、主体的に家庭学習を進められる姿勢を強く求める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		模擬試験	100	模擬試験を実施しその内容で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①・②で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	公務員試験専門予備校 キャリサポ	『イッキに攻略！公務員教養試験&時事 一問一答』				高橋書店						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ地方初級 教養試験 過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ国家一般職（高卒・社会人）教養試験 過去問350』				実務教育出版						
	資格試験研究会	『公務員試験合格の350シリーズ高卒警察官 教養試験 過去問350』				実務教育出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①講義時に学習方法等の指示を行うので、その内容に沿って各自家庭学習を進めること。また指定されたコース教材を購入するとともに、公務員試験対策演習（過去問演習）の受講を必須とする。 ②模擬試験を実施したのち、解説講義を実施する。											

	授業計画		学習成果の評価
1・2回	授業内容	一般知能全般	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	社会・労働・国際関係	
3・4回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
5・6回	授業内容	日本史・世界史・地理	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容	適性試験、作文・面接試験対策 実践	
7・8回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
9・10回	授業内容	模擬試験、解説・まとめガイダンス	
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに例題を確認する。	
	授業内容		
11・12回	学習成果		
	予習復習の内容		
13・14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
15・16回	学習成果		
	予習復習の内容		
17・18回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
19・20回	学習成果		
	予習復習の内容		
21・22回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
23・24回	学習成果		
	予習復習の内容		
25・26回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
27・28回	学習成果		
	予習復習の内容		
29・30回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	公務員研究Ⅱ（政策提案）				担当者	宮 城 伸 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: horiroyohei@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom（登録必須）での対応も行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	自己を分析し、今後の生き方について考えを述べることができる。										
	②	自己の持っている能力を上げることができる。課題発見・解決の能力、コミュニケーション能力、調整能力等を活用できる。										
	③	グループ討議、集団討論について基礎的な技能を修得し、論ずることができる。										
	④	面接技術、会話についての基礎的な技能を修得し、応用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	面接、討議等を通して公務員に必要な知識と技能を修得し、実践につなげることができる。 （専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	市民との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、協働することができる。 （専門的学習成果①②④に関連）										
	(3)	公務員として地域課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。 （専門的学習成果④に関連）										
授業概要	公務員として地域住民のコンセンサスを得て安全・安心を確保するためには、課題発見能力や課題解決能力、コミュニケーション能力、調整能力に加えて、地域住民と役所全体で取り組むという協調性が必要となる。公的機関としての考えや方向性についてアクティブラーニングの手法等を用いて実地調査や事例研究、グループ討議を行いながら地域研究を行い、公務員に求められる資質を獲得すると同時に公平性、対処法、加えて接遇などについて学び、今後予想される課題解決のための専門知識や技能を学び、公務員試験等に対応できるように授業を展開する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	毎回の講義で授業の感想・次回の予習を期日までにWeb上で提出するとともに、定期的に記述式の800字程度の論作文を提出し、その内容を評価する。								
		面接	20	面接技術、対話能力に応じて評価を行う。								
	討 論	20	討論、発表への理解・積極度等に応じて評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) については、専門的学習成果の①②③④により行う。 (2) については、専門的学習成果の①②④により行う。 (3) については、専門的学習成果の④により行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	小紫雅史	『公務員面接を勝ち抜き力』					実務教育出版					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	小紫雅史	『地方公務員の新しいキャリアデザイン』					実務教育出版					
	春日文生	『現職採点官が教える！合格面接術』					実務教育出版					
	成美堂出版編集部	『成功する！公務員の面接採用試験』					成美堂出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	大森彌, 大杉覚											
	『これからの地方自治の教科書』 第一法規											
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 準備学習等履修上の留意点 授業計画に従い時間外学習を行うこと。 <事前学習>テキストや事前配布資料、参考資料に目を通し、地方自治体等の各種施設やまちおこし等の各種行事から目的、課題等を抽出し、公務員としてどのように行動しなければならないのかを主眼に授業展開する。週に1時間程度の学習をすること。 <事後学習>面接や討議、接遇等については公務員として必要な基礎知識が必要となることからグループワークを通して身につける必要があり、討論された内容のポイントを確認、資料等の整理を行うこと。 ②フィードバックの方法等 ・各種討論等の課題については、面接や集団討議等で必要となることからコメントに対して必ず熟読し次の課題に対してフィードバックを行う。 ・レポート等に関するコメントに関しては、評価ポイントを示し、フィードバックを行う。 ③その他 公務員志望者はもちろん、外郭団体、社会福祉協議会、商工会議所、JAなどを目指す学生も対象となる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス（自治体の求める人材とは）	今回の実施単元を示し、その内容についての概要を予習し、Webを通して提出する。また、講義から得たことや今後に生かしていくべきこと、疑問点についても同様に提出する。
	学習成果	公務員試験の現状を理解し、自分自身の進路を検討することができる。	
2回	予習復習の内容	自身の進路について検討し、情報を収集する。	授業内では適宜グループワークを通して、理解の共有を図り、そこでも発言や参加態度なども評価の対象としていく。 さらに定期的にレポートを提出させ、理解状況の確認を行うこととする。
	授業内容	公務員を取り巻く環境①少子高齢化と人口減少、自治体職員の現状とサービスの多様化	
3回	学習成果	現代の諸問題を踏まえて自治体職員の在り方を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、自治体職員の現状を理解する。	
4回	授業内容	公務員を取り巻く環境②地方創生と働き方改革	
	学習成果	地方創生について説明することができ、かつ働き方改革について検討することができる。	
5回	予習復習の内容	テキストを読み、地方創生や働き方改革の現状を理解する。	
	授業内容	公務員を取り巻く環境③市民の意識変化、AI化と国際化	
6回	学習成果	現代の諸問題を踏まえた市民の在り方やIT活用、国際化について説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読み、AI化や国際化について理解する。	
7回	授業内容	これからの公務員に求められる能力	
	学習成果	これまでの授業内容を踏まえ、公務員に求められる能力を説明できる。	
8回	予習復習の内容	2～5回目の内容を復習する。	
	授業内容	自己分析①基本	
9回	学習成果	自分の体験を振り返り、自己について省察し表現できる。	面接、討論の実践における姿勢や態度を評価するとともに、振り返りシートを提出する。
	予習復習の内容	自分の特性やこれまでの経験についてまとめる。	
10回	授業内容	自己分析②実践	
	学習成果	面接カードの様式に沿って、自己について概略を表現できる。	
11回	予習復習の内容	自己分析で気付いたことについて項目に合わせてまとめる。	
	授業内容	論作文	
12回	学習成果	論作文の書き方を理解し、自身の経験や考えを表現できる。	
	予習復習の内容	自己分析とともに、自治体の状況や最新の時事について確認する。	
13回	授業内容	個人面接①基本	
	学習成果	個人面接の手法について理解し、自己を表現する方法を検討することができる。	
14回	予習復習の内容	自己分析でまとめた内容について話せるようにする。	
	授業内容	個人面接②実践	
15回	学習成果	個人面接を通して自己を表現することができる。	学習内容を整理し、レポートとして提出する。
	予習復習の内容	個人面接の様式に合わせて自身のことを話せるようにする。	
16回	授業内容	集団面接①基本	
	学習成果	集団面接の手法について理解し、自己を表現する方法を検討することができる。	
17回	予習復習の内容	自己分析でまとめた内容について話せるようにする。	
	授業内容	集団面接②実践	
18回	学習成果	集団面接を通して他者の中においても自己を表現することができる。	
	予習復習の内容	集団面接の様式に合わせて自身のことを話せるようにする。	
19回	授業内容	グループ討議①基本	
	学習成果	グループ討議の手法について理解し、自分の考えをまとめることができる。	
20回	予習復習の内容	自治体の状況や最新の時事について確認する。	
	授業内容	グループ討議②実践	
21回	学習成果	グループ討議を通して具体的な事例に対する意見を他者と協力して表現できる。	
	予習復習の内容	自治体を取り巻く諸問題に対し自身の考えを整理しておく。	
22回	授業内容	まとめ	
	学習成果	講義、実践で得たことを整理し、自己のアピールにつなげていくことができる。	
23回	予習復習の内容	これまでの学習内容を整理してまとめておく。	

科目名	公務員法律入門				担当者	宮 城 伸 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: miyagi.no@seiwa.ac.jp (学籍番号、氏名必須) Classroom (登録必須) でも対応を行う。 オフィスアワーについては初回の授業時で連絡する。											
専門的 学習成果	①	公務員試験や就職試験に必要な法律基礎知識（憲法、民法、行政法）について学習し、理解を深める。										
	②	公務員試験や就職試験に出題される法律関連の基本問題に取り組み、適切な解答を導くことができる。										
	③	社会における様々な場面において、習得した法律知識を活用することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	講義・問題演習・解答解説を通し、高い目的意識をもって公務員試験対策や就職試験対策が進捗する。(専門的学習成果①・②に関連)										
	(2)	社会人として必要とされる一般常識や法律知識を習得することができる。(専門的学習効果③に関連)										
授業概要	公務員試験において出題される法律系科目について、講義で基本重要項目を吸収し、基本的な過去問を解けるレベルの学習を行う。また、教材を通して各自での学習を効率的に進めることができることを目的とする。法律系は内容が難解なものもあるため、レジュメでわかりやすく解説したものを授業で配布しながら進めていく。法律系の知識は、公務員試験だけでなく、就職試験の一般教養でも問われるため、社会人になる前の基本的な教養として必要最低限のことを身につけることを目的とする。この授業では特に民法の内容に力を入れていく。私生活に最も関わる部分であるため、役に立つ知識が吸収できる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	60	毎回授業開始から10分程度で実施し、各回5%程度を配点する。実施内容は前回の授業から出題し理解の程度を把握する。								
		まとめ テスト	40	第15回目の授業で実施する。それまでに行ってきた全14回分の講義内容についての理解を問う形で行う。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①・②で評価を行う。 (2) は専門的学習効果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	TAC 公務員講座	『みんなが欲しかった公務員合格へのはじめの一步 法律科目 憲法 民法 行政法』				TAC 出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①公務員志望者だけでなく、就職試験対策にもなるため幅広い学生が対象となる。また、法律系の知識は社会で生活する上で必要となるだけでなく、私生活においても役立つものである。テキストだけではわかりにくい内容もあるため、適宜レジュメ等を用いて内容を補足する。 ②授業内で行う小テストを評価対象として最重要視するので、前回の授業内容をしっかり復習して次回授業に臨むこと。小テストでは解答を復習できるよう解説を施すのでやりっぱなしにせず必ず復習すること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション。公務員試験・就職試験における法律知識について。	
	学習成果	講義の進め方を踏まえつつ、法律系科目の勉強方法の概要を把握する。	
	予習復習の内容	インターネットなどを通して公務員試験や就職試験の概要について確認する。	
	授業内容	憲法①（憲法総論・人権）	
2回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
	授業内容	憲法②（統治）	前回講義内容の確認小テスト
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
3回	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
	授業内容	民法①（能力・意思表示）	
4回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	前回講義内容の確認小テスト
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
5回	授業内容	民法②（代理・時効）	前回講義内容の確認小テスト
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
	授業内容	民法③（不動産物変動）	
6回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	前回講義内容の確認小テスト
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
7回	授業内容	民法④（担保物件）	前回講義内容の確認小テスト
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
	授業内容	民法⑤（債務不履行・債権譲渡）	
8回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	前回講義内容の確認小テスト
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
9回	授業内容	民法⑥（債権の消滅）	前回講義内容の確認小テスト
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
	授業内容	民法⑦（契約）	
10回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	前回講義内容の確認小テスト
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
11回	授業内容	民法⑧（不法行為）	前回講義内容の確認小テスト
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
	授業内容	民法⑨（相続）	
12回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	前回講義内容の確認小テスト
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
13回	授業内容	行政法①（行政法理論）	前回講義内容の確認小テスト
	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
	授業内容	行政法②（地方自治法）	
14回	学習成果	対象分野の要点を整理・確認するとともに、実践的な問題に取り組むことができる。	前回講義内容の確認小テスト
	予習復習の内容	テキストのチェック項目ならびに過去問を確認する。	
15回	授業内容	まとめテスト・解説	まとめテストを実施する。すべての講義内容からの出題とする。
	学習成果	これまでの講義内容を振り返り、今後の学習に繋げることができる。	
	予習復習の内容	授業内容を復習しておく。	

科目名	介護職員初任者研修				担当者	齋藤美香・東海林 初枝						
区分	選択	3	単位	授業回数	91	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	48	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、または saito.mika@seiwaa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）											
専門的 学習成果	①	介護・福祉サービスの目的、種類、提供体制について基礎的事項を理解できる。										
	②	介護職の役割と専門性、具体的な業務内容や働く現場の特徴について理解できる。										
	③	居宅サービスおよび施設サービスの特徴と違い、支援の在り方について理解できる。										
	④	医療と介護の連携の重要性および多職種連携における介護職の役割について理解できる。										
	⑤	リハビリテーションの基本的な考え方と目的、日常生活支援との関係について理解できる。										
	⑥	人権と尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の視点を踏まえた介護の目標について理解できる。										
	⑦	高齢者虐待、身体拘束、不適切な介護の基本的な考え方と防止の視点について理解できる。										
汎用的 学習成果	(1)	高齢者や障がい者の生活支援に必要な基本的介護技術（入浴、排泄、食事介助など）を安全に行えること（専門的学習成果①②③⑤に関連）										
	(2)	利用者の立場に立った思いやりのあるコミュニケーションや接遇ができること（専門的学習成果⑥⑦）										
	(3)	医療・福祉関係者や同僚との連携・報告・相談が適切にできること（専門的学習成果④）										
	(4)	自身の行動や経験を振り返り、課題を把握して改善に取り組む態度（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦）										
授業概要	「宮城県介護職員初任者研修実施要綱」に基づき、本学が宮城県の指定を受けて実施する。原則、欠席は認められていない。本授業では、介護・福祉サービスの基礎的な仕組みと役割について理解を深めるとともに、医療との連携の重要性について学ぶ。特に、介護現場における多職種連携のあり方や、医療職と協働する際の介護職の役割、リハビリテーションの基本的な考え方について取り上げる。講義を通して、利用者の人権と尊厳を尊重した支援の視点を養い、介護職として必要な基礎的知識と実践につながる理解を目指す。											
	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
評価方法 基準等	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		修了試験（筆記）	50	基礎知識を問う筆記試験（選択式・記述式）								
		修了試験（実技）	50	基本的介護技術を問う実技試験・演習の観察評価								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果⑥⑦にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果④にて評価を行う。 (4) は、専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦にて評価を行う。											
	テキスト 等	著者・編集者名	書名									出版社名
		太田貞二、上原千寿子、白井孝子編集	『介護職員初任者研修テキスト』									中央法規
		著者・編集者名	書名									出版社名
参考書 参考文献												
①準備学習等履修上の留意点	①レポート課題と対面授業を組み合わせる授業である。講義については、一つの単元につき週2時間程度の時間外学習を要する。											
②課題に対するフィードバックの方法等	②授業に臨む際は、該当範囲を精読し、分からない用語は事前に調べて理解してから出席すること。レポートは、コメントを付けて返却する。筆記試験は、授業のなかで正答を解説する。実技試験においては、口頭で事後指導を行う。											

授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
1・2回	授業内容	オリエンテーション・職務の理解①多様なサービスの理解	修了試験（筆記および実技）で評価する	36回	授業内容	障害の理解①障害の基礎的理解	学習成果の評価
	学習成果	本授業の目的・全体構成を理解し、介護・福祉分野における多様なサービスの概要を説明できる。			学習成果	障害の概念、ICFの分類・考え方、ノーマライゼーションについて説明できる。	
3・4回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		37回	授業内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。	学習成果の評価
	授業内容	職務の理解②介護職の仕事内容や働く現場の理解			学習成果	障害の理解②介護職の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援者の基礎的知識	
5回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		38回	授業内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。	学習成果の評価
	授業内容	介護における尊厳の保持・自立支援①権と尊厳を支える介護			学習成果	家族の負担とその要、家族のQOL向上、介護負担の軽減につながる支援について説明できる。障害の受容過程と支援について説明できる。	
6・7・8・9・10回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		39回	授業内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。	学習成果の評価
	授業内容	介護における尊厳の保持・自立支援②③自立に向けた介護			学習成果	ここからのだしくみと生活支援技術③介護に関するここからのだしくみの基礎的理解	
11・12回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		40・41・42・43回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術④介護に関するここからのだしくみの基礎的理解	学習成果の評価
	授業内容	介護の基本①介護の役割、専門性と多職種との連携			学習成果	ここからのだしくみと生活支援技術④介護に関するここからのだしくみの基礎的理解	
13回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		44・45・46回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑤介護に関するここからのだしくみの基礎的理解	学習成果の評価
	授業内容	介護の基本②介護職の職業倫理			学習成果	介護に関するここからのだしくみの基礎的理解し、身体機能の増進や変化を踏まえた安全で適切な支援の重要性を説明できる。	
14回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		47・48・49・50回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑥生活と家事	学習成果の評価
	授業内容	介護の基本③介護の安全確保とリスクマネジメント			学習成果	生活と家事の基本を理解し、利用者の生活習慣や能力に配慮した自立支援としての家事援助の重要性を説明できる。	
15回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		51・52・53回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑦介護と健康	学習成果の評価
	授業内容	介護現場におけるリスクと安全確保の視点について説明できる。			学習成果	介護現場におけるリスクと安全確保の視点について説明できる。	
16回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		54・55・56・57回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑧介護と安全	学習成果の評価
	授業内容	介護の基本④介護の安全			学習成果	介護現場におけるリスクと安全確保の視点について説明できる。	
17・18・19回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		58・59・60・61回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑨移動・移住に関するここからのだしくみの基礎的理解	学習成果の評価
	授業内容	介護・福祉サービスの理解と医療との連携①介護保険制度			学習成果	介護・福祉サービスの理解と医療との連携①介護保険制度	
20・21・22回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		62・63・64・65回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑩介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	介護保険制度の概要と医療との連携の必要性について説明できる。			学習成果	介護・福祉サービスの理解と医療との連携②障害者総合支援法およびその他の制度	
23・24回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		66・67・68・69回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑪介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	介護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、基本的な留意点を列挙できる。			学習成果	障害者総合支援法制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割を説明できる。	
25・26回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		70・71・72・73回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑫介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	介護におけるコミュニケーションの意義を理解し、基本的な留意点を列挙できる。			学習成果	高年齢者の健康課題と生活支援における留意点を列挙できる。	
27・28回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		74・75・76・77回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑬介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	介護におけるコミュニケーションの意義を理解し、基本的な留意点を列挙できる。			学習成果	高齢者の健康課題と生活支援における留意点を列挙できる。	
29・30回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		78・79・80・81回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑭介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	介護におけるコミュニケーションの意義を理解し、基本的な留意点を列挙できる。			学習成果	高齢者の健康課題と生活支援における留意点を列挙できる。	
31回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		82・83・84・85回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑮介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	認知症の理解①認知症を取り巻く状況			学習成果	高齢者の健康課題と生活支援における留意点を列挙できる。	
32回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		86・87・88・89回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑯介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	認知症の理解②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理			学習成果	高齢者の健康課題と生活支援における留意点を列挙できる。	
33・34回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。		90・91回	授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑰介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	認知症の理解③認知症に伴うここからのだしくみの変化と日常			学習成果	高齢者の健康課題と生活支援における留意点を列挙できる。	
35回	学習復習の内容	テキストの該当ページを通して、授業内容を事前・事後に確認する。			授業内容	ここからのだしくみと生活支援技術⑱介護と福祉	学習成果の評価
	授業内容	認知症の理解④認知症に伴うここからのだしくみの変化と日常			学習成果	高齢者の健康課題と生活支援における留意点を列挙できる。	

科目名	世代間交流の理論と実践Ⅱ				担当者	サイ 齋 藤 美 香						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問または、メールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）											
専門的 学習成果	①	対象者の多様な特徴を理解し、社会参加や世代間交流の意義に基づいたイベントを企画できる。										
	②	対象者と交流する際の留意点を抑えて、世代間交流活動を企画・運営できる。										
	③	率先した組織形成や適切な判断指示など、主体性をもった交流活動の企画・運営ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	世代間交流活動における能力（知識・コミュニケーション）を身につけ、実践につなげることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	活動計画立案・運営を通して、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	交流が深まる工夫を実践して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献することができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(4)	世代間交流活動に必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を有し、チームで協働し、活動を最後までやり遂げることができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	<p>世代間交流は『生きがい』を基本としたSDGsです。次世代へのバトンが持続可能な社会を形成します。この授業では「地域」（特に短大の立地する仙台市・泉区）の歴史的背景や文化等の現状を踏まえた上で、地域の課題や問題についてどのようにアプローチしていくかを焦点にし、具体的な事例演習等を通して学びを深めます。特に1年次開講の『世代間交流の理論と実践Ⅰ』で培った理論と経験をもとにリーダーシップを発揮し、より効果的な実践を試みます。主に、館地区の老人クラブ「カトレアクラブ」との交流にあたって企画・運営を行います。機会があれば学齢期（小中学生）との交流なども行います。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	平常点	50	交流企画・実践およびグループワークでの態度								
		課題	50	活動報告書の作成および考察								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う (3) は専門的学習成果①②③で評価を行う (4) は専門的学習成果①②③で評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『新訂 アクティビティ・サービス』				中央法規						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>演習としてグループワークを行うので、他の学生との積極的なコミュニケーションを求める。社会や地域情勢によって授業実施形態・内容・予定が変更になる場合がある。地域のニーズや活動によって、春季・夏季・冬季休み中や土・日・祝、補講日に活動する場合がある。無為な欠席は避け、自分自身およびグループにも不利益にならないようにすること。 ①交流活動を企画するにあたり対象地域の特徴や対象者の留意点の調査や、イベントの準備・片付け等に全体で15時間程度の事前事後学習が必要となる。 ②授業の前後および Google クラズルーム等のツールや、面談等でフィードバックを行う。</p>											

授業計画			学習成果の評価
12回	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備①	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	
34回	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハール行。必要であれば修正をする。	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	授業内容	世代間交流活動の実践①	
5回	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	授業終了後にミッツペーパー等の課題を課す。
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハール行。必要であれば修正をする。	
67回	授業内容	世代間交流実践の振り返り①	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	
89回	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備②	
10回	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	授業終了後にミッツペーパー等の課題を課す。
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハール行。必要であれば修正をする。	
11、12回	授業内容	世代間交流活動の実践②	グループワークを中心に進めていく。ワークへの取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	
13、14回	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	授業内容	世代間交流活動の実践の事前準備③	
15回	学習成果	活動計画立案・運営ができる。	授業終了後にミッツペーパー等の課題を課す。
	予習復習の内容	授業時間以外にも空きコマ等を利用し、綿密なりハール行。必要であれば修正をする。	
	授業内容	世代間交流活動の実践③	交流活動への取り組み姿勢や参加態度を総合的に評価する。
	学習成果	チームで協働し、地域のニーズに対応できる実践ができる。	
	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	授業終了後にミッツペーパー等の課題を課す。
	授業内容	世代間交流実践の振り返り③	
	学習成果	自身の活動を振り返り、考察しチームでフィードバックができる。	授業終了後にミッツペーパー等の課題を課す。
	予習復習の内容	自身の活動を振り返り、考察する。	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	防災の基礎理論				担当者	齋藤美香・他						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	連絡方法、質問の受付方法は、Google Classroom「生活学Ⅱ」に提示する。											
専門的 学習成果	①	災害の種類やその発生のおよびに関する基礎的な知識を学び、防災・減災の重要性を説明することができる。										
	②	自然災害と社会の関わりを理解し、災害発生時の状況に応じて、身を守ることができる思考力と判断力が身につく。										
	③	災害発生時に他者と助け合い、協力して解決策に取り組むコミュニケーション力や協働する力が身につく。										
汎用的 学習成果	(1)	災害発生と被害、防災・減災に関する学習を通して、社会的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(2)	災害発生時に状況に応じて身を守る知識や技術を学び、起きうる課題の発見、課題解決に活用できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(3)	他者と助け合い、協力して解決策や対応等について学び、他者の考えを受け止めながら自分の考えをまとめ、的確に表現できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
	(4)	我がこととして災害をとらえる視点を持つことで、社会の一員として責任を自覚し、多様な人々との協働しながら地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①～③に関連)										
授業概要	我が国は、立地特性から常に地震や火山、台風など自然災害の脅威にさらされています。自然災害が避けては通れないものであるならば災害・防災に関する知恵を持つことは必須のこととします。災害発生時のメカニズムや対策に関する基礎知識を学び、災害から生き抜く力と身近な人を助けて地域に貢献できるような人材の育成の一助とすることが本授業の目指すところです。授業内容に応じて、ゲストスピーカーの招聘、出前講座の受講、震災遺構の見学、グループワーク等を通して学習を進めます。また、「災害時の生活支援」と連動的に進めていきます。テキストを用いず、適宜資料を配布したりPP等を用いますので、各自配布資料の整理（ファイリング）を確実に行うようにしてください。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	各回のワークシート、振り返りシートの提出状況（内容・期限厳守等）から講義内容の理解を評価する。								
		平常点	30	授業に臨む態度（積極性・協調性）・関心・意欲について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。 (4) は専門的学習成果①～③にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		適宜、資料を配布する										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	内閣府	『防災白書』 <a href="https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/index.html">https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/index.html</a>										
	NHK スペシャル取材班	『巨大津波－そのとき人はどう動いたか－』				岩波書店						
	前田 潤	『被災者の心理過程とケアの継続性』				南山堂						
	小原真理子・酒井明子	『災害看護－心得ておきたい基本的な知識－』				南山堂						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①・事前に配布する資料がある場合はよく読み、要点や疑問点を把握し授業に臨む。(予習週2時間程度) 事後は、授業終了後の振り返りシートを確実に仕上げる。(復習週2時間程度) ・配布資料等及びノートを適切にファイリングし、整理すること(評価の対象とする) ②レポートは返却し、コメントを付記又は授業内で解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 自身の災害体験を振り返る	振り返りシート・課題レポートの提出
	学習成果	本科目で扱う内容を理解できる	
	予習復習の内容	配布資料の復習	
2回 ・ 3回	授業内容	災害エスノグラフィー(東日本大震災遺構の見学、映像視聴、関連記事・事例)	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害及び災害対応に対して具体的なイメージができる	
	予習復習の内容	提示資料を読み込む、見学にあつては事前・事後提示する課題に取り組む	
4回 ・ 5回	授業内容	災害の定義、災害発生のおよびと被害の種類	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	地震・津波、気象災害・風水害、土砂・火山、火災に関する発生のおよびと及ぼす被害について説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
6回 ・ 7回	授業内容	災害関連情報、被害想定、災害情報の利活用の仕方	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害関連情報の種類や区分、情報の活かし方等について要点を説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
8回 ・ 9回	授業内容	災害と心の変化・健康課題	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害時の人間のこころの特性や健康被害を理解し、自他のケアについて考察できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
10回 ・ 11回	授業内容	災害対策 公助 行政(公的機関)や企業などの災害対策	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	公助の意義、範囲等を知り、学習内容について説明できる	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
12回 ・ 13回	授業内容	災害対策 自助	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	自助の意義を理解し、学習する内容をもとに備える姿勢を身につける	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
14回 ・ 15回	授業内容	災害対策 共助(避難所の運営協力、災害時要配慮者、災害ボランティア活動等)	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	共助の意義を理解し、学習する内容をもとに備える姿勢を身につける	
	予習復習の内容	WEB等で情報を事前に入手し、円滑に講義が開けるようにしておく。配布資料の整理	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	災害時の生活支援				担当者	齋藤 美香 ・ 他						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	連絡方法、質問の受付方法は、Google Classroom「災害時の生活支援」に提示する											
専門的 学習成果	①	災害からのちを守るための知識や災害時、避難所生活時に役立つ基礎的知識および技術が身につく。										
	②	防災や災害時の要援護者への支援をするうえで必要な基礎的知識や支援技術が身につく。										
	③	サステナブルな防災を意識し、自分にできることを積極的に行動するために思考力し、行動力が身につく。										
	④	社会や地域との関わりを実感し、災害発生時に他者と助け合い、協力して解決策に取り組むコミュニケーション力や協働する力が身につく。										
汎用的 学習成果	(1)	災害からのちを守る知識や技術を習得し、有事の際に活用できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	防災や災害時の要援護者への支援に関する学習を通して、有事の際に活用できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(3)	コミュニケーション能力、協働力、思考力、行動力を持って、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①～④に関連)										
授業概要	被災した要援護者（高齢者・障害のある方、子どもなど）への支援に加え、避難所生活に焦点をあてて、避難者の不安を軽減し、不自由な生活から要援護者守るために誰もが知っておきたい基礎知識や支援技術について学びます。避難生活と体調管理（食事、トイレ、睡眠）、災害時の食事、精神的サポートについて、グループワークの実施や避難所を想定し、実践的に役立つ知識や技術が習得できることを目指します。また、授業内容により、行政・関係団体等との協働で行う場合もあります。また「防災の基礎理論」と連動的に進めていきます。テキストを用いず、適宜資料を配布したりPP等を用いますので、各自配布資料の整理（ファイルング）を確実に行うようにしてください。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	授業内容の確認のための小課題を課す。提出状況（内容・期限厳守等）から総合的に評価し成績を決定する。								
		平常点	30	授業に臨む態度（積極性・協調性）・関心・意欲について評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	特に指定しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	防災イッモプロジェクト（編集）	『防災イッモマニュアル』				ポプラ文庫						
	永田宏和・石井美恵子	『新しい防災のきほん辞典』				朝日新聞出版						
	国井 修（編集）、尾島俊之（編集）、石井 美恵子（編集）	『みんなで取り組む 災害時の保健・医療・福祉活動』				南山堂						
	長谷川洋昭（著、編集）	『社会福祉・医療従事者のための災害福祉論』				学文社						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①自身が経験した災害体験を振り返りながら、災害弱者のことを想像して授業に臨んでください。また、課題テーマに関して、事前に配布資料などがある場合は、書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。事後は、授業終了後の振り返りシートを確実に仕上げる。配布資料の整理（ファイルング）を確実にすること。②行政・関係団体等との都合から授業計画が変更になる場合があります。 ③レポートは返却し、コメントを付記または授業内で解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス／災害への備え	振り返りシート・課題レポートの提出
	学習成果	本科目で扱う内容を理解できる。家の安全、非常用持ち出し品について説明できる。	
2・3回	予習復習の内容	配布資料の復習、自身の家庭での防災用品の確認	ワークシート、振り返りシートの提出
	授業内容	要配慮者への支援（移動等）・ペット支援	
4・5回	学習成果	要配慮者を支援するための基本的な技術を身につける。	ワークシート、振り返りシートの提出
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
6・7回	授業内容	災害時の食事	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	災害時の調理や食事、衛生面について説明および調理ができる。	
8・9回	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	ワークシート、振り返りシートの提出
	授業内容	トイレの確保・保管	
10・11回	学習成果	トイレの衛生的確保・管理の方法について説明と設置ができる。	ワークシート、振り返りシートの提出
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
12・13回	授業内容	就業場所の確保・管理	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	就業場所の確保・管理について説明と設置ができる。	
14回	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	ワークシート、振り返りシートの提出
	授業内容	救急救命の実技講習	
15回	学習成果	心臓蘇生・AED 採法を使った救命救急が身につく。	ワークシート、振り返りシートの提出
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
	授業内容	被災した人の心身のケア	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	支援時の心構え、リラクゼーションの方法が身につく。	
	授業内容	防災×工作	ワークシート、振り返りシートの提出
	学習成果	身近にあるもので代用品を作ることができる。	
	予習復習の内容	書籍、メディア、インターネットなどで情報を収集し、関連する知識を得ておく。	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	薬理学				担当者	渡部成子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
授業時間数	30時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等には、各講義の前後に対応する。											
専門的 学習成果	①	医薬品とは何かを説明できる。										
	②	医薬品を取扱う上での規則が説明できる。										
	③	医薬品の人体への作用を説明できる。										
	④	主な疾患に適用される医薬品を挙げて、その薬理作用を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、医療スタッフのサポートが適切に行える。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	医療事務職員として、患者さんからの質問や相談に適切に対応できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	医薬品の性質や人体に及ぼす作用を学び、医薬品を安全に取り扱える知識を学ぶ。また、薬事法による医薬品の規制を学び、医薬品を適切に取り扱える知識を習得する。主な疾患の治療には、どのような医薬品が使われているのか学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	90	講義で説明した学習内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		平常点	10	講義中に行う理解度テストの解答内容から、授業への態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	井上 肇	『検査・薬理学』				健帛社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキストを授業前に読んで、問題集の問題を解く(2時間程度)。講義終了後に内容を復習する(2時間程度)。 ②教本の記載内容が理解できない、練習問題が解けない場合は質問すること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	医薬品、日本薬局方	理解度テストを実施し、評価する。
	学習成果	医薬品、日本薬局方について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品、日本薬局方の概要を理解する。	
	授業内容	医薬品の名称と分類	理解度テストを実施し、評価する。
2回	学習成果	医薬品の名称と分類について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の分類方法を理解する。	
	授業内容	医薬品の安定性と剤型	理解度テストを実施し、評価する。
3回	学習成果	医薬品の安定性と剤型について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の安定性と剤型の概要を理解する。	
	授業内容	医薬品の体内での働きについて	理解度テストを実施し、評価する。
4回	学習成果	医薬品の体内での働きについて説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の体内での働きを理解する。	
	授業内容	薬理作用の分類、特徴、薬物間相互作用	理解度テストを実施し、評価する。
5回	学習成果	薬理作用の分類、特徴、薬物間相互作用について説明できる。	
	予習復習の内容	薬理作用の分類、特徴、薬物間相互作用の概要を理解する。	
	授業内容	反復作用、主作用と副作用、薬物療法の分類	理解度テストを実施し、評価する。
6回	学習成果	反復作用、主作用と副作用、薬物療法の分類について説明できる。	
	予習復習の内容	反復作用、主作用と副作用、薬物療法の分類の概要を理解する。	
	授業内容	医薬品の投与方法、包装、販売	理解度テストを実施し、評価する。
7回	学習成果	医薬品の投与方法、包装、販売について説明できる。	
	予習復習の内容	医薬品の投与方法、包装、販売の概要を理解する。	
	授業内容	調剤薬局業務<処方箋について>、ジェネリック医薬品	理解度テストを実施し、評価する。
8回	学習成果	調剤薬局業務<処方箋について>、ジェネリック医薬品について説明できる。	
	予習復習の内容	調剤薬局業務<処方箋について>、ジェネリック医薬品の概要を理解する。	
	授業内容	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬	理解度テストを実施し、評価する。
9回	学習成果	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬について説明できる。	
	予習復習の内容	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬の概要を理解する。	
	授業内容	消化器系疾患に用いる薬、循環器系疾患に用いる薬	理解度テストを実施し、評価する。
10回	学習成果	消化器系疾患に用いる薬、循環器系疾患に用いる薬について説明できる。	
	予習復習の内容	消化器系疾患に用いる薬、循環器系疾患に用いる薬の概要を理解する。	
	授業内容	代謝系疾患に用いる薬、呼吸器系疾患に用いる薬	理解度テストを実施し、評価する。
11回	学習成果	代謝系疾患に用いる薬、呼吸器系疾患に用いる薬について説明できる。	
	予習復習の内容	代謝系疾患に用いる薬、呼吸器系疾患に用いる薬の概要を理解する。	
	授業内容	アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬	理解度テストを実施し、評価する。
12回	学習成果	アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬について説明できる。	
	予習復習の内容	アレルギー性疾患治療薬、抗炎症薬の概要を理解する。	
	授業内容	ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血液系疾患治療薬	理解度テストを実施し、評価する。
13回	学習成果	ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血液系疾患治療薬について説明できる。	
	予習復習の内容	ホルモン・ビタミン製剤、貧血および血液系疾患治療薬の概要を理解する。	
	授業内容	感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬	理解度テストを実施し、評価する。
14回	学習成果	感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬について説明できる。	
	予習復習の内容	感染症治療薬および抗悪性腫瘍薬の概要を理解する。	
	授業内容	輸血製剤	演習問題を使い、評価する。
15回	学習成果	輸血製剤について説明できる。	
	予習復習の内容	輸血製剤の概要を理解する。	

科目名	公衆衛生学				担当者	ワタナベ トシヒコ 渡 部 俊 彦						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	質問等にはメールで対応する メールアドレス： twatanab@tohoku-mpu.ac.jp											
専門的 学習成果	①	健康とは何か説明できる。										
	②	公衆衛生の現状や人の健康を守る制度について説明できる。										
	③	主な疾病の特徴や病因を説明できる。										
	④	生活習慣・生活環境と健康との関係について説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	医療事務職員として、患者さんに衛生的な環境の作り方を提案できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	医療事務職員として、健康に関する患者さんの質問に対応できる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	公衆衛生を学ぶ意義と公衆衛生の現状を学ぶ。健康とは何か、また主な疾病の特徴やその原因は何かを学ぶ。生活習慣や生活環境が、人の健康にどのような影響を与えているかを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	100	講義で説明した内容に基づき、記述式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート										
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③～④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			テキストは使用せずプリントを配布する。									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①講義前、講義後に講義内容に関する確認試験を行う。 その日講義する内容を教科書で確認すること(予習：2時間程度)。 また、講義終了後は確認試験を活用し、講義内容を理解できているか確認する。 理解できていない部分は、しっかりと復習すること(復習：2時間程度)。 ②確認試験を回取し、正解率が悪い項目については、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	公衆衛生の概要	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	公衆衛生を学ぶ意義を説明することができる。	
	予習復習の内容	公衆衛生の定義を理解する。	
	授業内容	公衆衛生のための設備	確認試験を実施し、評価する。
2回	学習成果	公衆衛生を維持するための施設を説明することができる。	
	予習復習の内容	公衆便所、公衆浴場の公衆衛生上の役割を理解する。	
3回	授業内容	感染症発生動向調査	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	国内外に蔓延している感染症について説明することができる。	
	予習復習の内容	天然痘、マラリア、エイズ、結核について理解する。	
4回	授業内容	環境保健	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	人と環境の関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	生態系の仕組みを理解する。	
5回	授業内容	炭素の循環	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	二酸化炭素、メタンガスと環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	地球温暖化の原因と影響を理解する。	
6回	授業内容	カリウム、窒素、リンの循環	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	カリウム、窒素、リンと環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	カリウム、窒素、リンの自然界での役割を理解する。	
7回	授業内容	大気の組成	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	大気を構成する成分と環境との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	大気を構成する成分には、何があるか理解する。	
8回	授業内容	大気圧	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	大気圧と生活や健康との関係を説明できる。	
	予習復習の内容	大気圧の定義を理解する。	
9回	授業内容	水	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	水と健康の関係を説明できる。	
	予習復習の内容	脱水症状、硬水、軟水とは何か理解する。	
10回	授業内容	衣服	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	衣服と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	衣服の素材には何があるか理解する。	
11回	授業内容	住居	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	住居と健康との関わりを説明できる。	
	予習復習の内容	快適な生活を送るための換気および照明の方法を理解する。	
12回	授業内容	廃棄物	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	廃棄物の適切な処理方法を説明できる。	
	予習復習の内容	一般廃棄物と産業廃棄物の廃棄方法について理解する。	
13回	授業内容	公害(大気汚染)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	大気汚染の原因と健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	四日市喘息、光化学スモッグ、PM2.5について理解する。	
14回	授業内容	公害(水質汚染)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	水質汚染の原因と健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	水俣病、イタイイタイ病について理解する。	
15回	授業内容	公害(騒音、振動、悪臭)	確認試験を実施し、評価する。
	学習成果	騒音、振動、悪臭の健康への影響を説明できる。	
	予習復習の内容	騒音、振動、悪臭の発生要因について理解する。	

科目名	医療事務演習Ⅱ				担当者	加藤 淳子							
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期	
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	多くの診療行為の中で、組み合わせにより特殊な計算をする項目の算定ができる。											
	②	数多くの問題を解く事で知識と技術の幅を広げることができる。											
	③	診療報酬請求事務の総括作業ができる。											
汎用的 学習成果	(1)	医療事務の複雑に絡み合う診療行為の算定方法を理解し、正しく診療報酬の請求ができるようになる。(専門的学習成果①に関連)											
	(2)	乳幼児から高齢者、外来、入院と多くのカルテ問題を解き、迅速に正確に請求書の作成ができるようになる。(専門的学習成果①②に関連)											
	(3)	医療機関で作成された請求書は特定の規則によって集計され、まとめられている。この総括作業を理解し実践する。(専門的学習成果③に関連)											
授業概要	1年次で学んだ医療事務演習Ⅰに引き続きカルテを読み請求書の作成と点検を行うが、診療内容がとても濃い内容のカルテになるため、一つひとつ算定方法を正確に確認をする。また全体の診療内容を把握することと診療行為の組み合わせなどを読み取り、間違いない請求書の作成ができるようになる。医療機関で実際に行われている、診療報酬明細書のまとめ方、提出の仕方の総括作業を理解し、実際に仕上げし総括表の作成をする事で医療事務全体の作業を理解できる。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	筆記試験	80	第30回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全30回分の授業内容の理解について評価を行う。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
	1年の医療事務で使用した教材一式		プリント配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週1時間程度) ②多くのカルテ問題を練習する事で、知識と技術の向上を図るため、宿題課題を課し翌週に提出してもらい、採点、添削の上返却する。(復習：週1時間程度)											

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	外来カルテ問題① 十二指腸潰瘍、びらん性胃炎等の診療内容	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。	
	学習成果	造影剤使用撮影、内視鏡検査、特定疾患管理料等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
3・4回	授業内容	外来カルテ問題② 大腿部挫創、不眠症等の診療内容		
	学習成果	緊急手術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
5・6回	授業内容	外来カルテ問題③ 大腸癌、脳動脈瘤の疑い等の診療内容		
	学習成果	外来化学療法、腫瘍マーカー検査等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
7・8回	授業内容	入院カルテ問題① 虫垂穿孔性急性腹膜炎等の診療内容		課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	緊急入院、緊急手術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
9・10回	授業内容	入院カルテ問題② 慢性胆のう炎、胆のう結石症等の診療内容		
	学習成果	胆のう摘出術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
11・12回	授業内容	入院カルテ問題③ 肝細胞癌、C型慢性肝炎等の診療内容		
	学習成果	輸血、肝切除術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
13・14回	授業内容	外来カルテ問題④ 下腿部裂創(乳幼児)等の診療内容	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。	
	学習成果	乳幼児加算、時間外加算、手術等算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
15・16回	授業内容	外来カルテ問題⑤ 尿管結石、水腎症(高齢者)等の診療内容		
	学習成果	CT撮影、尿管結石破砕術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
17・18回	授業内容	入院カルテ問題④ 高血圧症、脳腫瘍等の診療内容		
	学習成果	輸血、頭蓋内腫瘍摘出術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
19・20回	授業内容	入院カルテ問題⑤ すい臓がん、2型糖尿病等の診療内容		
	学習成果	麻酔困難者の麻酔、すい体尾部腫瘍摘出術等の算定ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
21・22回	授業内容	筆記問題① 医療保険制度、公費負担制度、初再診料、入院料問題	課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。	
	学習成果	医療保険制度から入院料までの問題を解くことができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
23・24回	授業内容	筆記問題② 高齢者医療、医学管理料、在宅医療、投薬、注射料問題		
	学習成果	高齢者医療から注射料問題を解くことができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
25・26回	授業内容	筆記問題③ 処置、手術、検査、画像診断料問題		
	学習成果	処置、手術、検査、画像診断料の問題を解くことができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。			
27・28回	授業内容	診療報酬請求事務 総括① 請求書の仕分け		課題提出 これまでの内容を含む課題を配り、随時解答・解説を行う。
	学習成果	診療報酬明細書の保険者別に仕分けができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、保険者毎の特徴を理解する。			
29・30回	授業内容	診療報酬請求事務 総括② 請求書のまとめ方、総括表の記入		
	学習成果	診療報酬明細書のまとめと、総括表の記載ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、総括表を作成する。			

科目名	医療事務演習Ⅲ (調剤報酬)				担当者	丸 山 稔 ・ 加 藤 淳 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	23	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	46	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、Eメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	調剤報酬の算定の制度についての知識を活用できる。										
	②	調剤報酬請求明細 (レセプト) の作成ができる。										
	③	調剤薬局における患者対応がスムーズにできるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	調剤報酬の算定の制度を学ぶことを通して、調剤事務員として職業自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	処方箋から調剤報酬を算定する方法を学ぶことを通して、問題解決の能力をもつことができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	習得した専門知識を活用し、正しい保険医療の啓蒙や、調剤事務員として社会で活躍できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	1枚の処方箋がどのように流れて処理されていくのか？ 調剤薬局での事務職の基礎となる知識を学ぶと同時に、調剤報酬と調剤レセプトの作成について学ぶ。また、コンピュータによる調剤報酬請求事務や薬歴管理等について学ぶ。期間の前半7回は講義形式で、処方箋の見方や、健康保険医療における調剤報酬の算定方法を習得する。後半は2コマ連続の8回(16コマ)で、調剤会計事務専用のパソコンソフトを用い、実践的能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		確認試験	60	学習内容に基づき、学習習熟度に関してのテスト等を実施し、評価を行う。								
	汎用的 学習成果	平常点	40	演習への取り組み、意欲、態度により判断する。								
		(1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	NI メディカルオフィス編	『調剤報酬請求事務 基礎知識とレセプト作成』					一ツ橋書店					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①前半の7回分は講義を行う (予習復習として週に4時間必要)。 後半の8回(16コマ)は2コマ連続の演習形式の授業を行う (授業後、作業内容の振り返りとして週1時間必要)。後半の演習では、USB フラッシュメモリを各自用意すること。履修にあたり、1年次のレセプト作成の学習をしっかり身につけておくこと。 ②随時解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	調剤薬局における事務職の役割	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	調剤薬局における事務職の役割を説明できる。	
2回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
3回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
4回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
5回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
6回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
7回	授業内容	処方箋受付業務とその流れ、接客マナー	授業中に小テストを行い知識の定着を促す。
	学習成果	受付業務と接客マナーを実践できる。	
8・9回	授業内容	調剤報酬請求事務処理用 PC について、電子化の概要	口頭で確認
	学習成果	調剤薬局における事務処理の電子化の概要を説明できる。	
10・11回	授業内容	PCソフトの使い方	作業の進捗状況から評価
	学習成果	調剤事務ソフトウェアの概要を説明できる。	
12・13回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検 (初期設定、患者登録)	作業の進捗状況から評価
	学習成果	初期設定と患者登録ができる。	
14・15回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検 (調剤報酬算定)	作業の進捗状況から評価
	学習成果	調剤報酬算定ができる。	
16・17回	授業内容	処方箋よりレセプトの作成と点検 (レセプト点検)	作業の進捗状況から評価
	学習成果	レセプト作成と点検ができる。	
18・19回	授業内容	練習問題 (レセプトの作成と点検)	練習問題から評価
	学習成果	レセプト作成と点検ができる。	
20・21回	授業内容	実践的練習問題 (総合)	練習問題から評価
	学習成果	処方箋から会計とレセプトを作成できる。	
22・23回	授業内容	修了試験	修了試験
	学習成果	調剤薬局における事務全般について概要を把握できる。	
	予習復習の内容	授業内容全体について、整理・確認しておくこと。	

科目名	医事接遇マナー				担当者	加藤淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
授業時間数				30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	接遇の必要性を学び、身近な問題として理解し応用できる。										
	②	一般的な接遇と医療接遇の違いが比較できる。										
	③	医療接遇の必要性を学んだ上で、接遇の技術を実施できる。										
	④	様々な患者様やご家族の立場を理解し、適切な接遇が実施できる。										
汎用的 学習成果	(1)	なぜ接遇が必要なのか、また具体的にどのようなサービスが必要なのかを理解し実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	一般的な接遇と医療接遇の違いを学ぶことで、より一層相手を思いやる接遇ができる。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	医療従事者のそれぞれの役割を理解しどのように振る舞うのか、という技術を習得し実践につなげることができる。(専門的学習成果③④に関連)										
	(4)	医療従事者と患者様とのコミュニケーションを高めるための、知識と技術を習得し積極的に行動がとれる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	医療機関で働くスタッフは、「なぜ、医療接遇が必要なのか」また「具体的にどんなサービスが必要なのか」を身近な問題として理解していく必要がある。医療機関に対する患者様の不満は、「患者様への声掛け」といったほんの少しのサービスの前進で解決できる事も少なくない。この授業では医療接遇の基本的な部分を理解し、患者様一人ひとりに合う接遇ができるように、患者様の特性や医療接遇の知識を学ぶことで技術を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
筆記試験	80	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の授業内容の理解について評価を行う。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②③④で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③④で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			プリント配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	ニチイ学館		『医療事務講座 患者接遇マナー』						ニチイ学館			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配布資料や参考資料を事前学習として授業内容理解のため読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては、単元ごとに小テストを実施するため復習をしっかりとすること(復習：週2時間程度) ②授業で学んだ箇所の問題を解き適宜説明をする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	社会人、組織人としての心構えとは	筆記試験 第15回の後半50分で、全15回分の内容の試験を行い評価する。
	学習成果	社会は多くの人と関わるため、人間関係を円滑にするポイントを説明できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ポイントについて理解を深める。		
2回	授業内容	医療とは、病院とは	
	学習成果	医療提供の理念、医療の歴史、病院組織、部門ごとの従事者を学び理解ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、医療の在り方、病院組織について説明できるようにする。		
3回	授業内容	患者様の来院時における心のあり方、ホスピタリティとは	
	学習成果	患者様の心理、接遇の意義を学び理解ができる。	
予習復習の内容	接遇に必要なポイントは何か、の学習内容を振り返り理解を深めておく。		
4回	授業内容	サービス業としての医療、プロフェッショナルとしての条件	
	学習成果	医療はサービス業であり第三者から評価される事や、プロとして必要な考えを学び理解できる。	
予習復習の内容	仕事をしていく上で必要な事について復習しておく。		
5回	授業内容	今後の医療に求められる接遇	
	学習成果	高齢社会を迎え変わる患者意識を学び理解ができる。	
予習復習の内容	患者様の意識を理解し、間接的接遇やサポート接遇の必要性を復習しておく。		
6回	授業内容	病院を決める第一印象 (1) 表情・動作・姿勢	
	学習成果	TPO に合わせた顔、身体、姿勢の変化について理解し、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、表情や姿勢など実践する。		
7回	授業内容	病院を決める第一印象 (2) あいさつ・身だしなみ	
	学習成果	あいさつの重要性、おしゃれと身だしなみの違いについて説明ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深め復習しておく。		
8回	授業内容	言葉美人になるために、電話応対の決め方	
	学習成果	話し言葉の正しい使い方や感じ良く話す、電話対応の基本を学び、実践できる。	
予習復習の内容	正しい話し方を実践する。		
9回	授業内容	部門別接遇ポイント (1) 受付窓口の心構え	
	学習成果	受付対応の基本ポイントを学び、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、窓口対応の基本を復習しておく。		
10回	授業内容	部門別接遇ポイント (2) 会計窓口・薬局窓口	
	学習成果	会計窓口の接遇に必要な基本や薬局窓口での基本ポイントを学び、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの基本を復習しておく。		
11回	授業内容	部門別接遇ポイント (3) 医師・看護師など	
	学習成果	医師、看護師などが行う接遇の基本ポイントを学び理解ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの基本を復習しておく。		
12回	授業内容	患者様別接遇ポイント (1) 高齢者・ご家族	
	学習成果	高齢の方や患者様のご家族への対応を学び、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、それぞれの対応の理解を深めておく。		
13回	授業内容	患者様別接遇ポイント (2) 身体障害者の方	
	学習成果	聴覚、視覚、肢体不自由の患者様を理解し、接遇のポイントを学び実践できる。	
予習復習の内容	それぞれの接遇ポイントを振り返り、実践する。		
14回	授業内容	情報の管理、一般文書、医療文書について	
	学習成果	医療機関での個人情報取り扱いや、ビジネス文書、医療文書について理解できる。	
予習復習の内容	個人情報の取り扱いや、文書作成など実践する。		
15回	授業内容	社会人に必要なマナーについて。筆記試験実施。	
	学習成果	冠婚葬祭、食事のマナーなど社会人に必要なマナーを学び実践できる。	
予習復習の内容	マナーのポイントを振り返り、実践する。		

科目名	医療事務特別講座Ⅱ				担当者	加藤 淳子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	医学分野と併せて学習する事で、疾病の特徴や治療方法を関連付けることができる。										
	②	薬剤と疾病の関係を理解する事で、カルテ内容をより深く理解し関連付けることができる。										
	③	診療報酬請求事務の明細書作成で、正解率を高めることができる。										
	④	多くの資格を取得するために、技術を高めることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	診療内容を読み診療費を算定する医療事務では、身体の構造、疾病の特徴、薬剤との関連性を理解する技術を活用できる。(専門学的成果①②に関連)										
	(2)	複雑な診療内容であっても、正しく請求書を作成する技術を活用できる。(専門学的成果③に関連)										
	(3)	主催が異なる検定試験では出題傾向が変わるため、医療事務全体をより深く理解する技術を活用できる。(専門学的成果③④に関連)										
授業概要	医療は医学の知識、薬剤との関係がとて大きく関わっている。疾病の特徴と治療方法、関連性のある薬剤の専門知識を習得する事で、カルテに記載された診療内容をしっかり読み込むことが出来るようになる。カルテの患者の疾病原因から治療する一連の流れを把握すると共に、複雑な診療内容のカルテから正しく診療費の算定が出来る。目標とする資格の取得の他に、主催が異なる医療事務関連の資格取得を目指す。出題傾向が変わるためより広く深く医療事務の知識と技術を身につける事が出来る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
	筆記試験	80	全15回分の授業内容の理解について評価を行う。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	1年次の医療事務特別講座Ⅰで使用した教材一式											
	プリント配布											
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前にテキストの該当部分を読み、ポイントを把握した上で授業に臨む。(予習：週2時間程度) ②多くのカルテ問題を練習する事で、知識と技術の向上を図るため、宿題課題を課し翌週に提出してもらい、採点、添削の上返却する。(復習：週2時間程度)										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	人体の構造、各器官の名称	
	学習成果	体の仕組みや各器官の名称や働きについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	授業内容	疾病と薬剤、治療との関係	
2回	学習成果	疾病と関連する薬剤とその治療について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
3回	授業内容	学科問題① 医療用語、明細書の記載要領問題	
	学習成果	専門的な医療用語や、明細書の記載要領について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	4回	授業内容	学科問題② 医学、薬学の基礎知識問題
	学習成果	医療事務に必要な医学と薬剤の知識について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
5回	授業内容	学科問題③ 医療関係法規問題	
	学習成果	医療に関する各法規について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	6回	授業内容	学科問題④ 総合問題
	学習成果	医学、薬学、法規など様々な問題について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
7回	授業内容	明細書作成① 脂質異常症、黄色腫、糖尿病の疑い等の外来診療内容	
	学習成果	糖負荷試験、医学管理、検査料等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	8回	授業内容	明細書作成② 副腎癌、慢性腎不全等の入院診療内容
	学習成果	人口腎臓に関連する薬剤、全身麻酔、手術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
9回	授業内容	明細書作成③ 頭部挫創、拇指捻挫等の外来診療内容	
	学習成果	矯正固定、CT撮影、縫合手術等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	10回	授業内容	明細書作成④ 変形性頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア等の入院診療内容
	学習成果	手術前医学管理料、全身麻酔、手術、呼吸心拍監視等の算定ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
11回	授業内容	明細書点検① 急性胃炎、胃潰瘍の外来明細書、くも膜下出血の入院明細書	
	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	12回	授業内容	明細書点検② てんかん、耳垢栓塞の外来明細書、化膿性尿管膣のう胞の入院明細書
	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
13回	授業内容	明細書点検③ 腰椎椎間板ヘルニアの外来明細書、第5指中節関節内骨折の入院明細書	
	学習成果	それぞれの明細書の間違い箇所を見つけ、正しい請求ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
	14回	授業内容	明細書作成と点検① 白内障等の診療内容、薬物アレルギー、じん麻疹等の診療内容
	学習成果	白内障、じん麻疹に関連する診療内容を理解し、明細書の作成と点検ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	
15回	授業内容	明細書作成と点検② 溶連菌感染症等の診療内容、膝半月板損傷等の診療内容	
	学習成果	溶連菌感染症、膝半月板損傷に関連する診療内容を理解し、明細書の作成と点検ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、問題を解く。	

科目名	調剤事務資格特別講座				担当者	横 尾 由 香						
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	15	回	授業 形態	講 義	学 年	2 年	開講期	後 期
				授業時間数	30	時 間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	処方箋について詳しく理解し、正しく扱うことができる。										
	②	調剤報酬を正確に算定できる。										
	③	調剤薬局に関連する保険制度を理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	処方箋について詳しく理解することにより、職業的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	様々な調剤報酬、保険制度を学ぶことにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	処方箋について正しく理解し、正確に調剤報酬を算定できるようになることにより、認定試験合格を目指す。調剤報酬算定だけでなく、薬についての基本知識や各種医療保険制度、保険請求の流れなど、2年前期までの学習内容をより深く学習することで、調剤薬局事務員としての実践的能力を養う。また、近年重視されている在宅患者への医療やかかりつけ制度についても学習することで、幅広い知識をもった医療関連職員になることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	随時、課題を提出させ、内容に沿って評価を行う。								
		小テスト										
		筆記試験	70	筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
	平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
		『医療保障制度』(テキスト1)						ソラスト				
		『調剤薬局事務 テキスト2 3』						ソラスト				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
		『調剤試験問題集』						ソラスト				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習:週2時間程度)事後学習としては、課題を行い、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりすること。(復習:週2時間程度) ②小テストに対するフィードバックは、実施後に正解を示し、解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	薬局の基礎知識	
	学習成果	薬局と医薬品販売業の違い等を理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	処方箋の基礎知識	
2回	学習成果	処方箋の様式や記載内容を把握し、正しく取り扱うことができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	算定の基礎知識	
	学習成果	処方欄の内容を理解し、正しく読み取ることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	調剤基本料、調剤料について理解し、正確な算定をすることができる。	
4回	学習成果	調剤基本料、調剤料について理解し、正確な算定をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	調剤料の加算	
	学習成果	様々な加算を理解し、正確な算定をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	薬学管理料	
6回	学習成果	様々な管理料を理解し、正確な算定をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	調剤レセプト	
	学習成果	様々な調剤レセプトのパターンを知り、正確な算定をすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	〔検定試験〕対策学科問題	
8回	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
9回	授業内容	〔検定試験〕対策学科問題	
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	〔検定試験〕対策学科問題	
10回	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
11回	授業内容	〔検定試験〕対策実技問題	
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	〔検定試験〕対策実技問題	
12回	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
13回	授業内容	〔検定試験〕対策実技問題	
	学習成果	対策問題を使って認定試験合格への取り組みをすることができる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	まとめ	
14回	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	総復習をする。	

科目名	医療情報演習（電子カルテ含む）				担当者	横尾由香							
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回		授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	電子カルテシステムについて理解し、概要を説明できる。											
	②	電子カルテを使って代行入力、オーダーリング、医療文書作成をすることができる。											
汎用的 学習成果	(1)	電子カルテシステムの特徴、扱いに必要な知識を習得し、専門的スキルを活用した業務に取り組むことができる。（専門的学習成果①②に関連）											
授業概要	電子カルテシステムとは何か、医療の現場で起きているIT化の流れと診療録等の電子化について理解し、電子カルテシステムの定義と機能について学修する。また、電子カルテシステムの関連知識と、地域医療情報システム等、今後の展開について理解を深める。電子カルテシステムの操作方法を習得するなかで診療録、各種診断書・意見書、診療情報提供書等も電子カルテシステムを使って作成できるようになり、現場における実践力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	10	課題提出をさせ、内容に沿って評価を行う。									
		試験	80	筆記試験と入力試験を行い、正解率に沿って評価を行う。									
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②で評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名							
		『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』				ソラスト							
		『診療報酬点数表』				社会保険研究所							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名							
		『電子カルテシステムの理解と演習』				ケアアンドコミュニケーション							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①「医師事務補助ユニット」履修者。2コマ連続授業。 飲食物持ち込み厳禁。 事前学習として、入力するカルテの内容を詳しく調べておくこと。事後学習として授業中に習得した入力上の留意点を各自ノート等にまとめておくこと。（週1時間程度） ②随時入力のチェックを行い、その都度解説をしていく。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	電子カルテシステムとは？(全体俯瞰) IT化の流れと診療録の電子化への道	随時、課題を提出させる。 第30回後に入力試験を行う。
	学習成果	電子カルテシステムの全体像を把握することにより、今後の学習概要がつかめる。	
3・4回	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	入力演習：診療所（外来）	
5・6回	学習成果	電子カルテと医事会計の違いに注意しながら入力できる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
7・8回	授業内容	電子カルテの定義、機能、関連知識	
	学習成果	電子カルテシステムの定義、電子カルテシステムの役割を説明することができる。	
9・10回	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	入力演習：診療所（外来）、文書作成	
11・12回	学習成果	カルテ入力とあわせて文書作成ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
13・14回	授業内容	医師事務作業補助者とは、電子カルテの代行入力	
	学習成果	医師事務作業補助者の加算、代行入力の留意点を説明することができる。	
15・16回	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	入力演習：病院（外来）	
17・18回	学習成果	診療所との違いを理解し、病院の電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
19・20回	授業内容	文書作成の代行入力	
	学習成果	文書の代行作成に必要な知識を学ぶことにより、正しい文書を作成することができる。	
21・22回	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
	授業内容	入力演習：病院（外来）、文書作成	
23・24回	学習成果	カルテ入力と合わせて文書作成ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
25・26回	授業内容	入力演習：病院（外来・オーダーリング）、文書作成	
	学習成果	オーダーリングシステムを使った病院の電子カルテの入力ができる。	
27・28回	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
	授業内容	入力演習：病院（外来・問答形式）	
29・30回	学習成果	SOAPをしっかりと区別しながら入力ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
29・30回	授業内容	入力演習：病院（入院、オーダーリング）	
	学習成果	外来カルテとの違いに注意しながら入力できる。	
29・30回	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
	授業内容	入力演習：総合演習	
29・30回	学習成果	システム管理の重要性を理解し、実践を想定した入力ができる。	
	予習復習の内容	予め算定上の留意点を確認しておく。操作方法を復習する。	
29・30回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認をすることができる。	
29・30回	予習復習の内容	全体の総復習をしていく。	

科目名	医師事務補助特別講座Ⅱ				担当者	横 尾 由 香						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
授業時間数				30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に講師室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	医療文書作成に必要な知識を深め、各種の医療文書を作成することができる。										
	②	電子カルテの基本操作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	医師事務作業補助者に必要な業務スキルを習得することにより、専門的知識を活かして実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	電子カルテの基本操作ができることにより、現代社会に対応できる医療従事者に近づくことができる。(専門的学習成果②に関連)										
授業概要	傷病・疾病についての理解、カルテの読解力を高めることにより、医療文書作成の力を総合的に高め、「医師事務作業補助者」に求められる知識を習得する。また、電子カルテの代行人入力と合わせて「電子カルテシステム」を使った医療文書の作成を行い、迅速かつ正確に紹介状や診断書、証明書等の文書を作成できるようになることを目指す。実践を意識した内容を盛り込むことにより、医療機関に求められる「医師事務作業補助者」になることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	レポートを1回提出させ、内容に沿って評価を行う。								
		筆記試験	80	筆記試験を行い、正解率に沿って評価を行う。								
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)	①は専門的学習成果①で評価を行う。										
	(2)	②は専門的学習成果②で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『医師事務作業補助者養成講座 テキスト1・2』				ソラスト						
		『医療関連法規』				ソラスト						
		『医学入門』				ソラスト						
		『医師事務作業補助者 検定試験問題集』				ソラスト						
	『医療保障制度』(テキスト1)				ソラスト							
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①「医師事務補助ユニット」履修者。 医療事務、医療の制度、医事薬事法規を1年時に履修していること。 テキストと配布する資料を活用し、授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度)事後学習としては授業中に行う練習問題の復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②授業中に行う練習問題に対して、その場でチェック・解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	骨格、筋肉系	随時、小テストを行う。
	学習成果	骨格、筋肉系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
2回	授業内容	循環器系	
	学習成果	循環器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
3回	授業内容	消化器系	
	学習成果	消化器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
4回	授業内容	呼吸器系	
	学習成果	呼吸器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
5回	授業内容	泌尿器系	
	学習成果	泌尿器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
6回	授業内容	内分泌系	
	学習成果	内分泌系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
7回	授業内容	感覚器系	
	学習成果	感覚器系の基本を理解し、主な関連疾患を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストを読んで予習をし、練習問題を使って復習をする。	
8回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)	全体の内容の筆記試験を実施する。
	学習成果	基本的な操作方法を習得する。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
9回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)	
	学習成果	診療所の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する入力内容を予習復習する。	
10回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)、文書作成	
	学習成果	電子カルテによる簡単な文書作成ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
11回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(診療所)、文書作成	
	学習成果	電子カルテによる簡単な文書作成ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する入力内容を予習復習する。	
12回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(病院)、文書作成	
	学習成果	病院の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
13回	授業内容	電子カルテシステムの基本操作(病院)、文書作成	
	学習成果	病院の基本的な電子カルテの入力ができる。	
	予習復習の内容	入力内容を予習復習する。	
14回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	全体の総復習をする。	
15回	授業内容	まとめ	
	学習成果	知識の確認ができる。	
	予習復習の内容	全体の総復習をする。	

科目名	カラーコーディネートⅡ				担当者	三塚由美子							
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回		授業形態	演習	学年	1・2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	多様な配色方法を理解し、目的や機能に合わせた提案やアドバイスができる。											
	②	様々な事例について、色の使い方を分析し、応用、実践することができる。											
	③	色彩検定3級の受験にチャレンジし、資格を取得することで就職活動に生かすことができる。											
汎用的 学習成果	(1)	多様な事例に対して、消費者への適切なアドバイスができる。(専門的学習成果①②に関連)											
	(2)	資格取得に向けた色彩への取り組みを通じて、あらゆる方面への色彩活用を理解し、実践することができる。(専門的学習成果①②③に関連)											
	(3)	課題作品の作成を通して、自己表現と他者への理解ができる。											
授業概要	前期開講の「カラーコーディネートⅠ」に引き続いて、テキスト途中のトーン配色から開講する。配色カードを使って多様な配色方法について学び、スキルを身に付ける。様々な事例を用いながら解説し、実践に応用できるようレッスンを行う。また、色彩能力検定3級の受験対策授業であり、学習プリントや過去問題に繰り返しチャレンジし、合格を目指す。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		平常点	25	テキスト中の配色演習と配色類型の作成を時間内に完成または提出することで、評価を行う。5回実施し、各回5%を配点する。									
		課題提出	50	第11回～15回で課題を作成し、時間内に提出すること。理解の程度と完成度で評価を行う。各回10%を配点する。									
汎用的 学習成果	小テスト	25	5回実施し、各回5%の配点とする。										
		汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名									
	色彩検定協会	『色彩検定公式テキスト3級編』 中古品の使用不可		色彩検定協会									
	日本色研事業㈱	『新配色カード199a』(リニューアル品)		日本色研事業									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①色彩能力検定3級の受験対策として開講する。そのため、「カラーコーディネートⅠ」の履修者に限って受講することができる。テキストと配色カードの他、ハサミとノリを各自で準備すること。配色演習と課題提出によって評価を行う回があるため、忘れ物がある場合には遅れをとることになるので注意が必要。 事前にテキストの該当部分を読みポイントを把握したうえで(計15時間)授業に臨み、色彩能力検定試験の受験を常に意識し、講義内容の理解を深めておく(計30時間)。また、プリント学習には十分な準備を行い(計15時間)理解の定着に努めること。 ②配色演習については、その都度詳しく説明を行うので、指示に従うこと。学習プリントや過去問題については、講義の中で解説し返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	トーン配色①同一トーン配色、類似トーン配色、配色演習	配色演習
	学習成果	トーンから考える配色を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	2回	授業内容	トーン配色②対照トーン配色、明度方向と彩度方向、配色演習
	学習成果	トーンから考える配色を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
3回	授業内容	アクセントカラー、セパレーションカラー、グラデーション、配色演習	配色演習
	学習成果	色の面積配分、分離の目的、段階的变化について理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
4回	授業内容	生活と色彩	小テスト
	学習成果	生活全般にわたる色の効果について理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	5回	授業内容	ファッションと色彩
学習成果		ファッションに必要な色の知識を深め、提案を実践できる。	
	予習復習の内容	テキストの該当ページを読んでおくこと。	
	6回	授業内容	インテリア、環境と色彩
学習成果		インテリアや環境に必要な色の知識を深め、提案を実践できる。	
予習復習の内容		テキストの該当ページを読んでおくこと。	
7回	授業内容	検定対策、過去問題解答解説	小テスト
	学習成果	色彩検定に向けて、過去問題に取り組み理解することができる。	
	予習復習の内容	配布資料と学習プリントに目を通しておくこと。	
8回	授業内容	検定対策、過去問題解答解説	小テスト
	学習成果	色彩検定に向けて、過去問題に取り組み理解することができる。	
	予習復習の内容	配布資料と学習プリントに目を通しておくこと。	
9回	授業内容	配色類型①2色～6色配色の作り方、配色演習	配色演習
	学習成果	多色配色による提案を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
10回	授業内容	配色類型②様々な配色類型、配色演習	配色演習
	学習成果	多色配色による提案を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
11回	授業内容	色彩分析①ファッションの色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	ファッションの配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
12回	授業内容	色彩分析②インテリアの色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	インテリアの配色の特徴色を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
13回	授業内容	色彩分析③景観の色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	景観の配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
14回	授業内容	色彩分析④雑貨・小物の色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	雑貨・小物の配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	
15回	授業内容	色彩分析⑤食品パッケージの色彩、課題作成、提出	課題提出
	学習成果	食品パッケージの配色の特徴を理解し、実践することができる。	
	予習復習の内容	配布資料をよく読み、復習すること。	

科目名	クリエイティブデザイン				担当者	金 澤 千 晶						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣の研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	ファッションショーの構成（企画）を提案し、ショーのテーマに添った衣装のデザインを考え、衣装製作ができる。										
	②	高度な縫製テクニックや立体裁断など応用し、衣装をイメージ通りに創作することができる。										
	③	衣装に合わせたファッションモデルのヘア・メイクのトータルコーディネートを提案することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	衣装の製作の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	自由な発想によるデザインおよび製作を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	縫製テクニックやコーディネート、ヘアメイクを学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ファッションショーを構成する諸要素を理解し、衣装製作・企画・演出・モデルウォーキング等の体験を通して、衣装のデザイン感覚、造形技術の向上を目指す。 ファッションショー開催のために必要な役割を具体的に分担することによって、その完成に導く行動力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	第15回目に製作した作品に関するレポートについて評価を行う。								
		作品提出	60	第15回目に製作した作品について評価を行う。								
	平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。布地等の材料は各自準備する。洋裁用備品については一部貸出可能。事前に作成手順の資料を準備するので、作業内容について、授業前に資料をよく読んでおくこと（計30時間）。 ②製作した作品が評価の対象となるため、毎時間ごとに製作した修正点などを見直し、手直し作業を行うこと。製作した部分について、毎時間、授業の時に点検し、講評する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ファッションショー打合せ・材料および作業分担の確認	ファッションショーの企画の確認と作業分担への取り組み
	学習成果	ファッションショーの企画の打ち合わせを行い、材料及び作業分担の確認をすることができる。	
	予習復習の内容	ファッションショーの企画の打ち合わせと、今後の作業分担を確認する。	
3・4回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（型紙作製）	型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	
5・6回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（型紙作製）	型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	
7・8回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（型紙作製）	型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	
9・10回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（布の裁断）	布の裁断への取り組み
	学習成果	衣装の布の裁断をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の布の裁断をする。	
11・12回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（布の縫製）	衣装の縫製への取り組み
	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。	
13・14回	授業内容	前半のシーンの衣装製作（布の縫製）	衣装の縫製への取り組み
	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。	
15・16回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（型紙作製）	型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	
17・18回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（型紙作製）	型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	
19・20回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（型紙作製）	型紙作製への取り組み
	学習成果	衣装の型紙作製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の型紙作製をする。	
21・22回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（布の裁断）	布の裁断への取り組み
	学習成果	衣装の布の裁断をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の布の裁断をする。	
23・24回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（布の縫製）	衣装の縫製への取り組み
	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。	
25・26回	授業内容	後半のシーンの衣装製作（布の縫製）	衣装の縫製への取り組み
	学習成果	衣装の布の縫製をすることができる。	
	予習復習の内容	衣装の布の縫製をする。	
27・28回	授業内容	衣装製作（試着・補正）	衣装の補正作業
	学習成果	衣装を試着し補正作業をすることができる。	
	予習復習の内容	体型に合わせて補正を行い調整をする。	
29・30回	授業内容	まとめ・衣装撮影・衣装提出	レポート及び作品提出により評価を行う
	学習成果	衣装を完成させ撮影を行い、レポートの記入及び衣装の作品提出をすることができる。	
	予習復習の内容	完成した衣装の撮影をして、レポートの記入及び衣装の作品提出をする。	

科目名	ステージショー演出				担当者	金澤千晶						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数				60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	2階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	衣装に合わせたヘアセット・メイクを他者にすることができる。										
	②	ショーのイメージに合わせた映像の製作、音響と照明を検討し、ステージ上で演出することができる。										
	③	ショーのためのウォーキング方法、ポーズ、ルートを考え、モデルに指示を出し、ショーを作り上げることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	ステージでのショー演出の方法に関する学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(2)	ステージ上のウォーキングパターンの学習を通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果①②③に関連）										
	(3)	映像や音響、ヘアメイクのテクニックの学習を通して、修得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③に関連）										
授業概要	ショーのイメージに大きく影響する演出について、ショーに登場するモデルに関わるヘアメイクからウォーキングを練習し、完成度の向上を目指す。ステージ上に映し出す映像の製作、音響（ショー用のテンポ）、照明の色などについて演出方法を具体的に考え、実際にショーを実施する能力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		作品提出	40	映像やヘアメイクなど製作した作品について評価を行う。								
		平常点	60	授業の態度・関心・意欲・ファッションショーへの取り組み姿勢を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
			印刷物等配布									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続の授業。授業ごとに取り組んだ内容を振り返り、練習をすること（計30時間）。 ②練習した成果が次回の授業内容に反映されるので、その際に上達具合をチェックし、講評する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ショーのコンセプトおよび衣装の確認・映像製作・ヘアメイク材料について	ファッションショーの企画の確認と授業内容の理解
	学習成果	ファッションショーの企画の流れ、材料について理解することができる。	
3・4回	予習復習の内容	ファッションショーの企画の確認を行い、半期の流れ、材料について理解する。	CG映像製作・BGM選曲への取り組み
	授業内容	CG映像製作・BGM選曲	
5・6回	学習成果	CG映像製作及びBGMの選曲を行うことができる。	CG映像製作・BGM選曲への取り組み
	予習復習の内容	CG映像製作及びBGMの選曲を行う。	
7・8回	授業内容	CG映像製作・BGM選曲	CG映像製作・BGM選曲への取り組み
	学習成果	各シーンを全員で検討、確認、修正しながら、CG映像製作及びBGMの選曲を行うことができる。	
9・10回	予習復習の内容	話し合いを通して、CG映像製作及びBGMの選曲を行う。	CG映像完成・BGM決定への取り組み
	授業内容	CG映像製作の完成・BGMの決定	
11・12回	学習成果	CG映像の完成及びBGMを決定することができる。	ファッションショーのヘアメイク検討への取り組み
	予習復習の内容	CG映像が完成し、BGMを決定する。	
13・14回	授業内容	ファッションショーのヘアメイク検討・計画	ファッションショーのヘアメイクの時間計測
	学習成果	ファッションショーのヘアメイクを検討することができる。	
15・16回	予習復習の内容	衣装に合わせたファッションショーのヘアメイクを検討する。	ウォーキング基礎のテスト
	授業内容	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ・テスト）	
17・18回	学習成果	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ）を修得することができる。	ウォーキングルート検討への取り組み
	予習復習の内容	ウォーキング基礎（姿勢・ターン・ポーズ）を修得する。	
19・20回	授業内容	ウォーキングルート検討	ステージレイアウト・照明の検討への取り組み
	学習成果	ステージ上のウォーキングルート検討をすることができる。	
21・22回	予習復習の内容	ステージ上のウォーキングルート検討をする。	ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	授業内容	ステージレイアウト・照明の検討	
23・24回	学習成果	ステージレイアウト・照明の色について話し合いをして決定することができる。	ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	予習復習の内容	話し合いを通して、ステージレイアウト・照明の色を決定する。	
25・26回	授業内容	ウォーキング（タイムチェック）	ウォーキング（タイムチェック）への取り組み
	学習成果	ステージ上のウォーキングルートに合わせてウォーキングの時間を確認することができる。	
27・28回	予習復習の内容	ステージ上のウォーキングルート時間を調整し、ルート変更をする。	ファッションショー実施の取り組み
	授業内容	ウォーキング（タイムチェック・再考）	
29・30回	学習成果	ステージ上のウォーキングルートに合わせてウォーキングの時間を確認することができる。	ファッションショー実施の取り組み
	予習復習の内容	ステージ上のウォーキングルート時間を調整し、ルート変更をする。	
29・30回	授業内容	リハーサル（衣装着用・ヘアメイク含む）	ファッションショー実施の取り組み
	学習成果	衣装着用し、ヘアメイクを行って実際の時間計測をすることができる。	
29・30回	予習復習の内容	衣装着用し、ヘアメイクを行って実際の時間計測をして、調整する。	ファッションショー実施の取り組み
	授業内容	ファッションショー実施（ヘアメイク・ステージショー運営）	
29・30回	学習成果	ヘアメイク、衣装着用、ショーの運営および開催をすることができる。	ファッションショーの取組姿勢で評価を行う
	予習復習の内容	ヘアメイクを行い、衣装着用し、実際にショーを実施する。	
29・30回	授業内容	ショーの振り返り	ファッションショーの取組姿勢で評価を行う
	学習成果	ファッションショーの振り返りを行い、改善点を話し合うことができる。	
29・30回	予習復習の内容	話し合いを通して、ファッションショーの振り返りを行い、改善点を話し合う。	

科目名	カフェスキル演習				担当者	松尾 勲 ・ 兼子 貴紀弘 ・ 土井 香織						
区 分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	飲食店、カフェで活用できるメニュー撮影やSNS発信できる写真撮影方法を実践できる。										
	②	飲食店、カフェで活用できるチョークアートでのPOP製作を実践できる。										
	③	飲食店インテリアの基本と表現方法について理解して、実践できる。										
	④	飲食店、カフェの空間デザインを提案できる。										
汎用的 学習成果	(1)	空間プロデュースを学ぶことにより創造的に思考することができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(2)	カフェスキルの技術を修得することで、社会的、職業的自立に繋げることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(3)	制作した作品を発表することで自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
授業概要	近年カフェは老若男女と大変人気となっている。オープンカフェスタイルカフェ、雑貨に囲まれたカフェ、自家焙煎カフェ、チェーン展開のカフェ等そのスタイルは多様化している。多くのカフェでは飲食サービスだけではなく、その個性を出そうと時間や空間に付加価値を見出し、利用するお客様に提供している。この授業では、カフェの空間を個性的に演出する技術を修得する。インテリア・チョークアート・写真撮影の知識と技術を学び、将来、飲食店やカフェで働くことを想定した実践的な技能を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		作品課題	80	各授業で制作した作品を評価する。								
	平常点	20	授業態度、意欲、理解度の総合評価。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①2コマ連続授業、2クラス編成。教材費として16,000円徴収する。 ○インテリア：リアルなサイズ感を感じてもらうために使っているテーブルや椅子などを自ら測って図面化する作業がある。 ○写真撮影：カフェ・飲食に関する本やネットで素敵だと思う写真を常に見つける努力が必要。本は購入するか、ネットであれば保存しておくこと。自分で撮影する際はその見本を真似ることが大切。</p> <p>○チョークアート：授業時間に実習に必要な材料（ボード）が配られ、時間内に作品を製作することを原則とし、最後の授業時に作品を製作して提出する。 ○各自で準備するもの：(インテリア授業 色鉛筆・定規) (チョークアート授業 エプロン・作品持ち帰りの袋・指を拭く為のウェットティッシュ) (写真撮影授業 デジタルカメラ・見本の写真) 予習復習あわせて週2時間程度必要。 ②課題等は解説及び結果のフィードバックを行う。</p>											

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	デザイン的手法「表現と方法」(松尾)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	デザイン的手法における「表現と方法」を理解して実践できる。			
2回	授業内容	ブランニングの手法「イメージの具体化」(松尾)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	ブランニングの手法における「イメージの具体化」を理解して実践できる。			
3回	授業内容	飲食店のブランニング「計画図の作成/文書」(松尾)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	飲食店のブランニングにおける「計画図の作成/文書」を理解して実践できる。			
4回	授業内容	飲食店のブランニング「動線計画」(松尾)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	作業動線と回遊動線を理解し実践できる。			
5回	授業内容	飲食店のブランニング「計画図の作成/図面」(松尾)			インテリア授業課題提出
	学習成果	飲食店のブランニングにおける「計画図の作成/図面」を理解して実践できる。			
6回	授業内容	チョークアートの理解、道具の使い方、チョークアートの基礎技術、小品の製作 (土井)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	チョークアートの理解、道具の使い方、チョークアートの基礎技術を理解して小品の製作ができる。			
7回	授業内容	レタリングと花の表現演習 (土井)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	チョークアートでレタリングと花の表現を製作できる。			
8回	授業内容	ガラスの表現とパンの表現のテクニック (土井)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	ガラスの表現とパンの表現のテクニックを理解して実践できる。			
9回	授業内容	メニューボードの構図と表現 (土井)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	バランスと構成を理解し表現できる			
10回	授業内容	メニューボード作品製作(評価) (土井)			チョークアート課題提出
	学習成果	チョークアートの技術を使いメニューボードが完成できる。			
11回	授業内容	素敵だと思う飲食の写真を、本やネットで見つける (兼子)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	写真撮影の題材を探しの必要性を理解して実践できる。			
12回	授業内容	その気に入った写真を見本に真似て撮影してみる (兼子)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	撮影技術を理解して実践できる。			
13回	授業内容	撮影した写真を添削して、その後見本に近い写真を撮る (兼子)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	写真加工の方法を理解し、実践できる。			
14回	授業内容	指定された撮影題材をイメージ通りに撮影する (兼子)			各授業において受講学生に前回の授業内容の質問をし、理解度を評価する。 制作への取り組み。
	学習成果	写真加工の方法を理解し、実践できる。			
15回	授業内容	さらに憧れの写真を見つけて、自分なりに工夫と真似て撮影する (兼子)			写真撮影課題提出
	学習成果	課題製作に取り組み完成できる。			
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、身近にあるカフェ関連商品や店舗を確認して理解を深める。			

科目名	カフェデザート実習				担当者	相 良 奈 津 (実務家教員)							
区 分	選 択	2	単 位	授業回数	30	回		授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		sagara.natsu@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	カフェデザートメニューを提供できる。											
	②	カフェデザートメニューの新しい商品を提案できる。											
	③	菓子製造を通じておもてなしの心を考え実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	カフェデザート実習を通じて、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③に関連)											
	(2)	カフェデザートの製作を通じて、他者との協力や材料の特性などを理解できる。(専門的学習成果②③に関連)											
	(3)	カフェデザートの製作を通じて習得した専門知識や技能を活用して課題に取り組み、地域社会の発展に積極的に貢献できる。(専門的学習成果②③に関連)											
授業概要	<p>昨今のカフェームに伴い、カフェにおけるデザートについて学習する。この授業で習得するのは和菓子・洋菓子の基本的なレシピである。和・洋菓子で使用する専門的な食材、器具、器材の知識、使用方法などを学習し、カフェで提供できる和・洋菓子製造を習得を目的とする。菓子製造を通じておもてなしの心を考え実践できる。洋菓子の実習は、ホテルパティシエールとしての実務経験を生かした、デザートの皿盛りや提供方法等も指導する。実習時に必要な他者との協力体制の実践力や実習を行う上での身だしなみ等の衛生的管理について知識を習得する。</p>												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	30	6回目、10回目、14回目、18回目、22回目、26回目の授業終わりに提出。内容により評価する。									
		筆記試験	20	カフェデザート実習の総合的な理解について30回目に筆記試験を行い評価する。									
	平常点	50	実習への取り組み・意欲・態度・身だしなみにより評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う (2) は専門的学習成果②③により評価を行う (3) は専門的学習成果②③により評価を行う												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
	吉田菊次郎		『物語に出てくる楽しいお菓子の作り方』						朝文社				
	津田洋子		『さくさくクッキー』						文化出版局				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続授業。実習費として8,000円徴収する。平常点の身だしなみとして、カフェ実習服・製菓実習服のいずれかを必ず着用すること。衛生面(髪・爪・化粧・香水・アクセサリ)には特に注意して実習すること。配布したレシピを元に毎回必ず復習を1時間程度行うこと。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い添付して返却する。(30回目)											

授業計画			学習成果の評価	
1・2回	授業内容	1回目ガイダンス、2回目実習の心得		実習への取り組みを評価
	学習成果	1回目、本授業の内容を理解し、説明できる。2回目実習の心得を理解し、衛生管理や身だしなみの必要性が説明できる。		
3・4回	予習復習の内容	1回目、シラバスを事前に読み、その内容を理解する。2回目ガイダンス内容を踏まえて学習計画を立てる。		
	授業内容	3回目クレープ、4回目小麦粉とは		
5・6回	学習成果	クレープ(3回目)小麦粉(4回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)6回目提出
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、クレープ(3回目)、小麦粉(4回目)について理解を深める。		
7・8回	授業内容	5回目パウンドケーキ、6回目ベーキングパウダーとは		
	学習成果	5回目パウンドケーキに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。6回目ベーキングパウダーの特性について説明ができる。		
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パウンドケーキ(5回目)、ベーキングパウダー(6回目)について理解を深める。		
	授業内容	7回目おしるこ、8回目白玉について		
11・12回	学習成果	おしるこ(7回目)、白玉(8回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)10回目提出
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、おしるこ(7回目)、白玉(8回目)について理解を深める。		
13・14回	授業内容	9回目クッキー、10回目バターとは		
	学習成果	9回目クッキーに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。10回目バターの特性について学習し、説明できる。		
15・16回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、クッキー(9回目)、バター(10回目)について理解を深める。		
	授業内容	11回目杏仁豆腐、12回目ゼラチンとは		
17・18回	学習成果	杏仁豆腐(11回目)、ゼラチン(12回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)14回目提出
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、杏仁豆腐(11回目)、ゼラチン(12回目)について理解を深める。		
19・20回	授業内容	13回目プリン、14回目卵とは		
	学習成果	13回目、プリンに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。10回目、卵の特性について学習し、説明できる。		
21・22回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、プリン(13回目)、卵(14回目)について理解を深める。		
	授業内容	15回目スコーン、16回目バターとは		
23・24回	学習成果	スコーン(15回目)、バター(16回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)18回目提出
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、スコーン(15回目)、バター(16回目)について理解を深める。		
25・26回	授業内容	17回目レアチーズケーキ、18回目チーズとは		
	学習成果	17回目、レアチーズケーキに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。18回目、チーズの特性について学習し、説明できる。		
27・28回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、レアチーズケーキ(17回目)、チーズ(18回目)について理解を深める。		レポートの提出(実習について)22回目提出
	授業内容	19回目マフィン、20目アレンジ食材とは		
29・30回	学習成果	マフィン(19回目)、アレンジ食材(20回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、マフィン(19回目)、アレンジ食材(20回目)について理解を深める。		
29・30回	授業内容	21回目ブラウニー、22回目チョコレートについて		
	学習成果	21目ブラウニーに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。22回目チョコレートの特性について学習し、説明できる。		
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ブラウニー(21回目)、チョコレート(22回目)について理解を深める。		
	授業内容	23回目パンケーキ、24目メレンゲとは		
29・30回	学習成果	パンケーキ(23回目)、メレンゲ(24回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		レポートの提出(実習について)26回目提出
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、パンケーキ(23回目)、メレンゲ(24回目)について理解を深める。		
29・30回	授業内容	25回目アップルパイ、26目パイ生地について		
	学習成果	25回目、アップルパイに使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。26回目、パイ生地の特性について学習し、説明できる。		
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、アップルパイ(25回目)、パイ生地(26回目)について理解を深める。		
	授業内容	27回目イチゴのショートケーキ、28目スポンジについて		
29・30回	学習成果	イチゴのショートケーキ(27回目)、スポンジ(28回目)に使用される材料の特性、必要な器材の使い方を学習し、実践できる。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、イチゴのショートケーキ(27回目)、スポンジ(28回目)について理解を深める。		
29・30回	授業内容	29回目まとめ、30目筆記試験		
	学習成果	カフェデザート実習で学習した内容を生かして、新メニューの提案ができる。		
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェデザート実習について理解を深める。		

科目名	カフェドリンク実習Ⅰ					担当者	小野寺 精忠・吉田 正・細貝 涼哉・里館 薫・梅津 裕子						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期	
				授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	カフェ(珈琲)の生産国事情を知り、生豆原料基礎知識について述べることができる。											
	②	飲料原料、加工原料への加工工程を説明できる。											
	③	カフェの現場で働く為の基本的な知識と技術を実践できる。											
	④	カフェ(コーヒー)飲用がもたらす効果について論じることができる。											
	⑤	エスプレッソ、カプチーノ、カフェラテ、紅茶の抽出方法及びオペレーションが実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	知識と技術を習得することにより、社会的、職業的な自立に繋がる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連する)											
	(2)	飲食に関連した知識を活用して、食の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④に関連する)											
	(3)	習得した知識技能を活用して、飲食業界で課題に取り組み、問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果⑤に関連する)											
授業概要	カフェ業界はここ数年目まぐるしい発展と変化が起きている。個人事業でも大手企業でもコーヒービジネスでは知識と技能は必要不可欠である。この授業では、コーヒーマイスター(Meister:独)、コーヒーバリスタ(barista:伊)に必要な知識を取得する為に写真、表、グラフにて解り易く理解を深める。味覚(風味)と嗜好の違いを認識して正しいカフェ(コーヒー)を啓蒙できる。又、実践的な技術を習得する為に受講生全員が抽出実習を行う。基本的なエスプレッソ、スペシャルティコーヒー(カプチーノ、カフェラテ)と紅茶の抽出工程を理解し実践する。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。									
		作品課題	40	実習作品を評価する。									
汎用的 学習成果	平常点	10	授業態度、意欲、理解度の総合評価										
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名						
	全日本コーヒー検定委員会	『コーヒー検定教本』					全日本コーヒー商工組合連合会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 2 コマ連続授業。2 クラス編成 ○実習費、テキスト代として12,000円徴収する。○ 1 ～ 10 は里館先生 11～20は小野寺先生21～24は細貝先生 25～30は吉田先生が担当する(担当教員の授業日程は開講期に知らせる)。実習着を着用する。特に衛生面(頭髪・化粧・爪・アクセサリー)には注意する。※前回の授業内容を踏まえた上での実技指導となる為、授業の復習(技術注意点の再確認や配布資料の知識)がないと次回授業の実技に進むことができない。2 回目以降は授業前に必ず前回までの復習や見直しをしておく。事前学習時間として15時間、反復学習時間として15時間を必要とする。 ②レポート・課題については評価、解説の後、返却する。実技指導はその都度行う。												

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	カフェ(珈琲)に関わる小売り業界と飲食業界 コーヒーインストラクター検定について(里館)	実習への取り組みについて授業態度、意欲、理解度の総合評価、実習作品を評価する。講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	カフェ(珈琲)に関わる小売り業界と飲食業界について理解し説明できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
3・4回	授業内容	世界のカフェ(珈琲)と日本のカフェの歴史(里館)	
	学習成果	世界のカフェ(珈琲)と日本のカフェの歴史を理解しコーヒー抽出できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
5・6回	授業内容	珈琲の生産国事情 1.世界のカフェを楽しむ「アフリカ大陸編」(里館)	
	学習成果	産地別のコーヒーの違いを理解し、コーヒー抽出できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
7・8回	授業内容	珈琲の生産国事情 2.世界のカフェを楽しむ「南米大陸編」(里館)	
	学習成果	産地別のコーヒーの違いを理解し、コーヒー抽出できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
9・10回	授業内容	抽出実習 基礎「ペーパードリップ、サイフォン、長時間抽出と短時間抽出の風味変化」(里館)	
	学習成果	ペーパードリップ、サイフォン、長時間抽出と短時間抽出の風味変化を理解して実践できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
11・12回	授業内容	バリスタとは エスプレッソの知識(小野寺)	
	学習成果	バリスタとエスプレッソの知識を理解してエスプレッソマシンを操作できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソマシンについて理解を深める。		
13・14回	授業内容	エスプレッソの抽出工程のエスプレッソカリブレーション抽出調整(小野寺)	
	学習成果	エスプレッソの抽出工程エスプレッソカリブレーション抽出調整を実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、抽出調整について理解を深める。		
15・16回	授業内容	エスプレッソの知識を深める エスプレッソアレンジ(小野寺)	
	学習成果	エスプレッソアレンジを理解して実践ができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソアレンジについて理解を深める。		
17・18回	授業内容	カプチーノの作成(初級) ミルクフォーミング(小野寺)	
	学習成果	カプチーノミルクフォーミングが実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ミルクフォーミングについて理解を深める。		
19・20回	授業内容	カプチーノの作成(中級) カップに注ぐ工程(小野寺)	
	学習成果	ミルクフォーミングからカップに注ぐまでの工程を実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、カップに注ぐ工程について理解を深める。		
21・22回	授業内容	カフェオーナーの基礎(1)ドリップコーヒー(細貝)	
	学習成果	ドリップコーヒーの入れ方を習得して、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ドリップコーヒーについて理解を深める。		
23・24回	授業内容	カフェオーナーの基礎(2)エスプレッソ(細貝)	
	学習成果	エスプレッソの入れ方を習得して実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、エスプレッソについて理解を深める。		
25・26回	授業内容	スイーツドリンク(1)スムージー(吉田)	
	学習成果	スムージーの作り方を習得して実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。		
27・28回	授業内容	スイーツドリンク(2)グラニュータ(吉田)	
	学習成果	グラニュータの作り方を習得、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。		
29・30回	授業内容	紅茶のいれ方実習(梅津)	
	学習成果	ストレートティー、アイ스티ーのいれ方について習得し、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ストレートティー、アイ스티ーのいれ方について理解を深める。		

科目名	カフェドリンク実習Ⅱ				担当者	小野寺 靖忠・吉田 正・細貝 涼哉・里館 薫・梅津 裕子						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	珈琲の種、生産国、生産方法による風味の違いを論じることができる。										
	②	コーヒー豆の焙煎を理解して実践できる。										
	③	カフェの現場で働く為の専門的な知識と技術を実践できる。										
	④	カフェ(コーヒー) 飲用がもたらす効果及びフードファディズムについて論じることができる。										
	⑤	エスプレッソ、カプチーノ、カフェラテ、紅茶の高度な抽出方法及びオペレーションが実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	知識と技術を習得することにより、社会的、職業的な自立に繋がる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連する)										
	(2)	飲食に関連した知識を活用して、食の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献することができる。(専門的学習成果①②③④に関連する)										
	(3)	習得した知識技能を活用して、飲食業界で課題に取り組み問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果⑤に関連する)										
授業概要	<p>カフェ業界はここ数年目まぐるしい発展と変化が起きている。個人事業でも大手企業でもコーヒービジネスでは知識と技能は必要不可欠である。この授業では、コーヒーマイスター(Meister:独)、コーヒーバ리스タ(barista:伊)に必要な知識を取得する為に写真、表、グラフにて解り易く理解を深める。味覚(風味)と嗜好の違いを認識して正しいカフェ(コーヒー)を啓蒙できる。又、実践的な技術を習得する為に受講生全員が抽出実習を行う。カフェドリンクⅠを発展させた、より専門的なエスプレッソ、スペシャルティコーヒー(カプチーノ、カフェラテ)と紅茶の抽出工程の理解と実践をする。</p> <p>※高度な技術習得を目指す為、カフェドリンクⅠを受講しておくことが望ましい。</p>											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	50	講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。								
		作品課題	40	実習作品を評価する。								
平常点	10	授業態度、意欲、理解度の総合評価										
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全日本コーヒー検定委員会	『コーヒー検定教本』				全日本コーヒー商工組合連合会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		<p>①2コマ連続授業。2クラス編成 ○実習費として8,000円徴収する。○1～10は里館先生 11～20は小野寺先生 21～24は細貝先生 25～28は吉田先生 29～30は梅津先生が担当する(担当教員の授業日程は開講期に知らせる)。実習着を着用する。特に衛生面(頭髪・化粧・爪・アクセサリー)には注意する。※前回の授業内容を踏まえた上での実技指導となる為、授業の復習(技術注意点の再確認や配布資料の知識)がないと次回授業の実技に進むことができない。2回目以降は授業前に必ず前回までの復習や見直しをしておく。事前学習時間として15時間、反復学習時間として15時間を必要とする。</p> <p>②レポート・課題については評価、解説の後、返却する。実技指導はその都度行う。</p>										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	抽出実習 専門(高温度抽出と低温度抽出の風味変化)	実習への取り組みについて授業態度、意欲、理解度の総合評価、実習作品を評価する。講義内容に基づいた記述式の課題を課し、評価する。
	学習成果	高温度抽出と低温度抽出の風味変化を理解してコーヒー抽出が実践できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
3・4回	授業内容	コーヒー生豆から加工工程 1.焙煎実習(選別→焙煎→飲料)	
	学習成果	コーヒー焙煎を理解して焙煎を実践できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
5・6回	授業内容	コーヒー生豆から加工工程 2.粉砕実習(粉砕→抽出→飲料) 総合判断	
	学習成果	コーヒー粉砕を理解して粉砕を実践できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
7・8回	授業内容	焙煎工場視察	
	学習成果	焙煎工場を視察して加工工程を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
9・10回	授業内容	手煎り焙煎実習 My Coffee にチャレンジ	
	学習成果	オリジナルのブレンドコーヒー知識を習得してコーヒー抽出実践ができる。	
予習復習の内容	「コーヒー検定教本」を読み予習・復習しておく。		
11・12回	授業内容	カプチーノの作成(上級) カプチーノデザインアレンジ	
	学習成果	カプチーノデザインアレンジの技術を習得して実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、カプチーノアレンジについて理解を深める。		
13・14回	授業内容	カフェラテの作成(基礎) ミルクフォーム、注ぐ工程について	
	学習成果	カフェラテミルクフォームを注ぐ工程を習得して、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェラテについて理解を深める。		
15・16回	授業内容	カフェラテの作成(応用) カフェラテデザインアレンジ	
	学習成果	カフェラテデザインアレンジの技術を習得して、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、カフェラテアレンジについて理解を深める。		
17・18回	授業内容	オリジナルカフェドリンク製作(1) オリジナルドリンク製作の説明、ポイント	
	学習成果	オリジナルドリンク製作ポイントを理解して製作できる。	
予習復習の内容	オリジナルドリンク製作ポイントについて理解を深める。		
19・20回	授業内容	オリジナルカフェドリンク製作(2) オリジナルドリンク作成、発表	
	学習成果	オリジナルドリンクを完成させ発表できる。	
予習復習の内容	オリジナルドリンクについて理解を深める。		
21・22回	授業内容	カフェオーナーのテクニク応用編(1) ドリップコーヒーオペレーション	
	学習成果	ドリップコーヒーを抽出する際のオペレーションを理解して実践できる。	
予習復習の内容	オペレーション作業の理解を深める。		
23・24回	授業内容	カフェオーナーのテクニク応用編(2) エスプレッソマシンオペレーション	
	学習成果	エスプレッソを抽出する際のオペレーション理解して実践できる。	
予習復習の内容	オペレーション作業の理解を深める。		
25・26回	授業内容	スイーツドリンク応用編 ホットスイーツドリンク	
	学習成果	ホットスイーツドリンク作成技術を習得して、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。		
27・28回	授業内容	スイーツドリンク応用編 オリジナルドリンク	
	学習成果	オリジナルのスイーツドリンク考案し、制作できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、スイーツドリンクについて理解を深める。		
29・30回	授業内容	紅茶のいれ方実習 アレンジティー	
	学習成果	アレンジティーのいれ方について習得し、実践できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、アレンジティーのいれ方について理解を深める。		

科目名	食文化論				担当者	梅 津 裕 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	食料の確保や世界の3大食法について理解し、その概要を説明できる。										
	②	人の移動と食の創造について理解し、その概要を説明できる。										
	③	各国料理の歴史と特長及び料理様式と献立について理解し、その概要を説明できる。										
	④	食文化についてのレポートを作成し、その結果をまとめて発表できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた食文化に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	食文化についてのレポート作成及び発表を通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要な食文化に関する知識の習得を目的とする。食文化は、世界それぞれの地域、民族、風土に根ざした生活文化である。食材、調理法、調理器具、食事作法など歴史的そして地理的な広がりをもって現代にまで受け継がれてきた。本授業では食料の確保や世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長及び料理様式と献立等について学ぶとともに、食文化についてのレポート作成及び発表に取り組むことにより調べて書く力、表現する力を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	筆記試験	60	全講義内容の理解について学期の最後に筆記試験を行い評価する。								
		レポート	20	レポート作成及び発表についてその内容・形式・表現により評価する。								
		小テスト	10	各回の講義内容の理解について学期の途中で小テストを行い評価する。								
	平常点	10	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2025』						柴田書店				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。レポート課題に取り組むこと。課題の提出期限は厳守すること。レポート作成及び発表に向けて必要な準備を行うこと。小テストのための準備を行うこと。事後学習として、各回の学習内容とそれに関連する事項を調べノートにまとめること。小テスト及び授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストは返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより結果のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、食文化とフードコーディネーター	ワークシートへの取り組み
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	食料の確保(1)食物獲得形態の移り変わり	小テスト 10回目授業の後半に小テストを実施する。
	学習成果	食物獲得形態の移り変わりについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食物獲得形態の移り変わりについて理解を深める。	
3回	授業内容	レポート発表に向けて資料の作成	レポート及び発表資料作成への取り組み
	学習成果	レポート発表のための発表資料を作成することができる。	
	予習復習の内容	レポート発表に向けて必要な準備を行う。	
4回	授業内容	食料の確保(2)世界の主食の類型及びレポート発表	小テスト 10回目授業の後半に食料の確保、世界の3大食法、人の移動と食の創造、各国料理の歴史と特長の理解について小テストを実施する。 レポート発表 各自関心をもった食文化について調査し、その成果をレポートとしてまとめる。レポートをもとに、その内容を紹介する発表を各回の授業において実施する。
	学習成果	世界の主食の類型について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、世界の主食の類型について理解を深める。	
5回	授業内容	世界の3大食法(1)世界の民族の食べ方の違い及びレポート発表	
	学習成果	世界の民族の食べ方の違いについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、世界の民族の食べ方の違いについて理解を深める。	
6回	授業内容	人の移動と食の創造(1)新しい食の創造及びレポート発表	
	学習成果	新しい食の創造について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、新しい食の創造について理解を深める。	
7回	授業内容	人の移動と食の創造(2)日本での食の創造及びレポート発表	
	学習成果	日本での食の創造について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本での食の創造について理解を深める。	
8回	授業内容	各国料理の歴史と特長(1)日本の食の生い立ち 縄文～及びレポート発表	
	学習成果	日本の食の生い立ちについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の食の生い立ちについて理解を深める。	
9回	授業内容	各国料理の歴史と特長(2)日本の食の生い立ち 鎌倉～及びレポート発表	
	学習成果	日本の食の生い立ちについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本の食の生い立ちについて理解を深める。	
10回	授業内容	各国料理の歴史と特長(3)西洋料理の発展の歴史及びレポート発表	
	学習成果	西洋料理の発展の歴史について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、西洋料理の発展の歴史について理解を深める。	
11回	授業内容	各国料理の歴史と特長(4)中国料理の発展の歴史及びレポート発表	筆記試験 15回目授業の後半に全講義内容の理解について筆記試験を実施する。
	学習成果	中国料理の発展の歴史について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、中国料理の発展の歴史について理解を深める。	
12回	授業内容	料理様式と献立(1)日本料理の料理様式と献立及びレポート発表	
	学習成果	日本料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、日本料理の料理様式と献立について理解を深める。	
13回	授業内容	料理様式と献立(2)中国料理の料理様式と献立及びレポート発表	
	学習成果	中国料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、中国料理の料理様式と献立について理解を深める。	
14回	授業内容	料理様式と献立(3)西洋料理の料理様式と献立及びレポート発表	
	学習成果	西洋料理の料理様式と献立について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、西洋料理の料理様式と献立について理解を深める。	
15回	授業内容	全体のまとめ及び筆記試験	
	学習成果	全体について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食文化についての理解を深める。	

科目名	食環境コーディネーター				担当者	佐藤 睦子 ・ 今野 則幸						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	建築的側面から食空間の基礎知識を習得し、実践に活用できる。										
	②	厨房の語源・歴史・文化を説明することができる。										
	③	各種料理のテーブルマナーを実践することができる。										
	④	国際儀礼(プロトコル)を説明することができる。										
	⑤	フードコーディネーター3級資格に必要なレベルの知識を習得し、適用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	コーディネーターとして専門的な提案及びアドバイスができることにより職業的自立に繋がる知識を習得し活用できる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	各種料理のテーブルマナーの習得を通して、社会人マナーを実践することができる。(専門的学習成果③④⑤に関連)										
	(3)	国際儀礼(プロトコル)の学習を通して、社会人マナーを実践することができる。(専門的学習成果④⑤に関連)										
授業概要	インテリアと建築の学習を通して、快適な食空間についての知識を習得する。近年、欧米諸国では食の安全に対応した様々な調理技術が開発され、それに伴う設備の改良・進化には目覚ましいものがある。わが国でも特に厨房施設・機器の開発はそのスピードを加速している。飲食店経営に必要な店舗設計の概要を学ぶ。また、各種料理のテーブルマナーや国際儀礼(プロトコル)を学習することにより、社会人として必要な外国人に対するマナーや食事のマナーを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	20	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		筆記試験	60	第5回・第15回の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回の講義内容について評価する。								
小テスト	20	2回実施し各10%を配点する。										
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①により評価する。 (2)は専門的学習成果③④⑤により評価する。 (3)は専門的学習成果④⑤により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2025』					柴田書店					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①飲食店におけるお客様側とサービス側両方の立場に立って、快適な食空間とはどのようなものかを、飲食店を訪れた時に細かく観察すること(10時間)。空間・色彩・サービスについての各自の考え方をまとめておくこと(10時間)。事前にテキストを読んでおく(20時間)。外食時、店舗設計・お客様の誘導を観察する(20時間)。また授業中にその内容を含めた課題を課し、フィードバックする。 ②試験は後期間講直後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス・1. 食空間とは 2. 食空間のデザインとフードコーディネーターのかかわり	
	学習成果	フードコーディネーターの役割について説明できる。	
2回	授業内容	業種・業態の把握と食空間デザイン	
	学習成果	業種・業態による店舗構成の違いについて学習した内容を説明できる。	
3回	授業内容	平面計画における構成と動線計画・客席レイアウト・厨房のプランニング	
	学習成果	食空間の構成について学習した内容を説明できる。	
4回	授業内容	客席レイアウト演習・カラーコーディネーター・インテリアエレメント	
	学習成果	食空間における色彩の構成及びインテリアエレメントの種類を説明できる。	
5回	授業内容	家具の様式・建築様式・近代デザインの歴史	
	学習成果	家具及び建築の歴史について学習した内容を説明できる。	
6回	授業内容	ガイダンス 厨房の歴史	
	学習成果	飲食店にとって重要な厨房の歴史を説明することができる。	
7回	授業内容	調理システムと厨房形態	
	学習成果	様々な調理システムとそれに伴う厨房形態を説明できる。	
8回	授業内容	洗浄について	
	学習成果	飲食店にとって重要な厨房の洗浄について説明できる。	
9回	授業内容	キッチンスタイルの基本	
	学習成果	様々な料理に合わせたキッチンスタイルを区別できる。	
10回	授業内容	西洋料理のテーブルマナー	
	学習成果	フランス料理を中心としたテーブルマナーを実践することができる。	
11回	授業内容	日本料理のテーブルマナー	
	学習成果	日本料理のテーブルマナーを実践することができる。	
12回	授業内容	中華料理・立食パーティーのテーブルマナー	
	学習成果	中華料理・立食パーティーのテーブルマナーを実践することができる。	
13回	授業内容	飲料	
	学習成果	アルコール飲料を区別し、説明することができる。	
14回	授業内容	国際儀礼	
	学習成果	世界に共通する儀礼を述べることができる。	
15回	授業内容	サービスマナー	
	学習成果	様々な料理を提供することができる。	

筆記試験(10回分の内容を問う)後半に実施

科目名	フードショッププランニング				担当者	コンノノリユキ						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー(初回授業で説明)か、Eメールで行う。konno.noriyuki@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	外食産業の歴史を説明できる。										
	②	日本の外食産業の文化を理解し、概要を説明できる。										
	③	飲食店経営に必要なマーケティングを説明できる。										
	④	出店に必要な計数管理を述べることができる。										
	⑤	フードコーディネーター3級資格に必要なレベルの知識を習得し、適用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	外食産業の概要を学ぶことにより、幅広い社会の産業構造を説明できる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	食文化を通し、社会人に必要なマナーを実践することができる。(専門的学習成果②③⑤に関連)										
	(3)	計数管理を通し、物事を論理的に考え、比較・検討することができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	現代社会の流れは社会全体のIT化と相まって、非常に早いスピードで進化している。フードビジネスの世界でも例外ではなく、人々のライフスタイルの変化に伴い、業界のトレンドも刻々変化している。「自分の店を持つ」という考えを前提に、業態のみならず、マーケティング、経理簿記、メニュープランニング等を学ぶ。また、グループワークを通じ、履修者同士で議論を重ね店舗プランニングをしていく。フードコーディネーター3級資格にふさわしい知識を習得し、実践できるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	60	マーケティングの理解20%、自身の店舗計画を練り、収支計画作成に40%を配点、それを評価する。								
		小テスト	30	3回実施し、各回10%を配点する。								
	平常点	10	授業への取組み・意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③により評価する。 (2)は専門的学習成果②③⑤により評価する。 (3)は専門的学習成果③④により評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	日本フードコーディネーター協会	『新・フードコーディネーター教本2025』					柴田書店					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	柏野 満	『飲食店の店長の実務がわかる本』					旭屋出版					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①フードコーディネーター3級資格取得必修。翌週の授業に関するテキスト内容を把握してこること(30時間)。外食する場合、講義で学んだことの視点で、店舗・サービス・料理・飲み物等観察し自身に生かす(30時間)。 ②レポートについては、講義内でフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、フードショッププランニング	
	学習成果	授業内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンス内容を踏まえ、学習計画を立てる。	
	授業内容	日本のフードビジネスの歴史	
2回	学習成果	外食産業の過去から現在までの変遷を説明できる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
3回	授業内容	マーケティング 企業戦略の歴史	
	学習成果	企業のマーケティングの歴史を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	マーケティング 顧客満足	
4回	学習成果	顧客の種類による満足を説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
5回	授業内容	マーケティング 基本原理	
	学習成果	R-STPを説明できる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	経営 損益計算書	
6回	学習成果	財務に必要な損益計算書を説明できる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
7回	授業内容	経営 貸借対照表・キャッシュフロー	
	学習成果	貸借対照表・キャッシュフローを関連付けすることができる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
	授業内容	経営 損益分岐点	
8回	学習成果	財務に必要な損益分岐点を検討することができる。	
	予習復習の内容	テキスト内容を整理しておく。	
9回	授業内容	業態開発	
	学習成果	業種・業態、店舗コンセプトを論じることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	出店計画 出店戦略	
10回	学習成果	店舗コンセプトに基づき、出店計画を作成できる。	
	予習復習の内容	自身の出店店舗を考えておく。	
11回	授業内容	出店計画 事業計画書	
	学習成果	出店計画に基づき、事業計画書を作成できる。	
	予習復習の内容	出店計画を基に、財務諸表を考えておく。	
	授業内容	販売促進	
12回	学習成果	販売計画を作成できる。	
	予習復習の内容	出店計画を基に、販売計画を考えておく。	
13回	授業内容	メニュープランニング プランニングの流れ	
	学習成果	メニュー作成に必要な事項を関連付けすることができる。	
	予習復習の内容	パワーポイントでの講義をまとめておく。	
	授業内容	メニュープランニング 事例	
14回	学習成果	事例を参考に、メニュー作成ができる。	
	予習復習の内容	自身が経営する店舗のメニューを考えておく。	
15回	授業内容	店舗経営	
	学習成果	自身が経営する店舗を総合的にプロデュースできる。	
	予習復習の内容	店舗経営できるよう計画書を作成しておく。	
		レポート提出(マーケティングの重要性について)	
		小テスト(損益計算)	
		小テスト(貸借対照表)	
		小テスト(損益分岐点)	
		レポート提出(店舗計画書)	

科目名	調理方法と調理機器				担当者	深 見 信 也 ・ 吉 田 正							
	選択	2	単位	授業回数		30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
区分				授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。授業の内容に関する質問等は授業終了後に教室で受ける。												
専門的 学習成果	①	フードコーディネーター資格取得に関する専門知識を理解し、その内容を説明できる。											
	②	基本調理技法、知識を体験する事で習得し、実践できる。											
	③	季節の基本調理方法の実践より 栄養のバランス 食の大切さを習得し、実践できる。											
	④	調理機器と調理器具の必要な知識と技能を習得し 実践につながる操作ができる。											
汎用的 学習成果	(1)	食に関連した業界全般の職業的自立に繋がる知識 基礎技術を習得し活用できる（専門的学習成果①②③④に関連）											
	(2)	食品業界に必要な商品開発 自己表現、他者理解 問題解決能力を有し協働することができる。専門的学習成果②③④に関連											
	(3)	フードコーディネーターの専門的知識、技能を習得活用する事で、食業界の課題解決に向け行動ができる。（専門的学習成果①②③④に関連）											
授業概要	フードコーディネーターとして資格取得し活躍する為に 多くの食材に触れ調理技法を体験し理解を深めて行く必要がある。フードコーディネーターとして商品開発、店舗開発やメニュープランニングを行う上で、基礎調理技法を知り体験することは、非常に重要な事である。授業では調理機器、器具の取り扱いや調理手順、準備 季節感、栄養、デザイン 仕上げ構成まで基礎調理を習得し、食文化に貢献できる実践力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	10	15回目の授業後半に筆記試験を行い、講義内容の理解について評価を行う。									
		平常点	10	授業態度、関心、意欲を評価を行う。									
実習作品 提出	80	毎回の実習作品試験評価を行う。											
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) 専門的学習成果①②③④により評価する。 (2) 専門的学習成果②③④により評価する。 (3) 専門的学習成果①②③④による評価する。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名					
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2025』						柴田書店					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級 資格取得に必修。調理実習が中心の授業なので 重要な事は実習内容を忘れない内に実習調理を自宅で繰り返し作成し行い復習、調理準備から手順 盛り付けデザイン、仕上げ味覚表現まで調理の理解を深め能力を身につける事を求める。各回ごと1時間程度。 ②前回 調理実習の正確な分量をレポート提出フィードバック、実習調理の理解を深め自らの考察をしっかりと記述する事を求める。 予習として 料理のデザイン、色調、立体感などに興味を持ち専門誌を絶えず観る様にする事を求める。												

授業計画				学習成果の評価			
1・2回	授業内容	ガイダンス、基本的な器具、調理技法、切り方、出しの説明		前澤、深見	試験での点数評価		
	学習成果	実際に器具に触れ、業種による技法、基礎知識 季節感、料理の成り立ちを活用できる。					
3・4回	予習復習の内容	予習復習として、フードコーディネーター教本を読み理解を深めること。					
	授業内容	和食 出しのとり方（親子丼、お吸い物）		前澤、深見	和食の出しなどの味覚、仕上げのデザイン		
5・6回	学習成果	和食出しの栄養バランスの習得、調理機器の習得、調理技術の習得 説明できる。					
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					
7・8回	授業内容	洋食 魚3枚おろし（鮭の香草パン粉焼き、スープ）		前澤、深見	洋食の魚料理の味覚、仕上げのデザイン		
	学習成果	魚の卸し方の習得、栄養バランスの習得、調理技術の習得 説明できる。					
9・10回	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					
	授業内容	中華 炒め煮（エビのチリソース煮、レタスチャーハン）		前澤、深見	中華の炒め物の味覚、仕上げのデザイン		
11・12回	学習成果	中華調理技法の習得、調理機器の習得、調理技術の習得 説明できる。					
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					
13・14回	授業内容	和食 煮物（鶏肉と里芋の煮物、出し巻き玉子）		前澤、深見	和食の煮物の味覚、仕上げのデザイン		
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明できる。					
15・16回	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					
	授業内容	洋食 蒸し焼き（帆立と海老のグラタン、サラダ）		前澤、深見	洋食の蒸し焼きの味覚、仕上げのデザイン		
17・18回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。					
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					
19・20回	授業内容	中華 揚げ物（鶏肉のユースリチ、スープ）		前澤、深見	中華の揚げ物味覚、仕上げのデザイン		
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。					
21・22回	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					
	授業内容	和食 揚げ物（海鮮と野菜の天ぷら、お吸い物）		前澤、深見	和食の揚げ物の味覚、仕上げのデザイン		
23・24回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。					
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					
25・26回	授業内容	洋食 衣包み焼き（豚肉のパン粉焼き、サラダ）		前澤、深見	洋食の包み焼きの味覚、仕上げのデザイン		
	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。					
27・28回	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					
	授業内容	中華 包み物（焼き餃子、スープ）		前澤、深見	中華の包み物の味覚、仕上げのデザイン		
29・30回	学習成果	調理技法の習得、栄養バランスの習得、調理機器、調理技術の習得 説明ができる。					
	予習復習の内容	専門誌等の参考による表現の理解、自宅での再現調理の実施理解を深める。					

科目名	テーブルコーディネート				担当者	梅津裕子							
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期	
教員との連絡方法 質問等の受付方法	umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。												
専門的 学習成果	①	テーブルコーディネートの基本的理論について理解し、その内容を説明できる。											
	②	テーブルセッティングについての知識と基礎的な技能を習得し、実践できる。											
	③	テーブルフラワーについての知識と基礎的な技能を習得し、実践できる。											
	④	テーブルコーディネートについて習得した知識や技能を活用し、コーディネートを実践できる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたテーブルコーディネートに関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(2)	テーブルコーディネート作品の制作や発表を通して、自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果④に関連)											
	(3)	テーブルコーディネートの作品制作を通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。(専門的学習成果④に関連)											
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要なテーブルコーディネートに関する知識と技能の習得を目的とする。具体的には、食空間のあり方やテーブルコーディネートの全体の組み立て、料理と器の関係、テーブルの構成、テーブルアイテムとして食器、カトラリー、グラス、クロス、フィギュア類、テーブルに飾る花等、テーブルウェアやテーブルコーディネートに関する知識を習得するとともに、実際にテーブルフラワーやテーブルコーディネートの作品制作に取り組むことにより食空間演出の実践力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		筆記試験	40	テーブルコーディネートの基本的理論の理解について学期の途中で筆記試験を行い評価する。									
		作品制作・発表	20	テーマに基づいたテーブルコーディネート作品の制作・発表の内容により評価する。									
		提出物	10	作品紹介シートについてその内容・形式により評価する。									
	平常点	30	演習や実習への取り組み・意欲・態度により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名					
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2025』						柴田書店					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。実習費として5,300円徴収する。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に1時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。作品制作や発表会に向けて必要な準備を行うこと。事後学習として、授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②筆記試験は答案を返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより、結果のフィードバックを行う。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、食空間とテーブルコーディネート	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
	授業内容	テーブルセッティングの基本 テーブルクロスのかげ方・ナブキンの折り方	
2回	学習成果	テーブルクロスのかげ方とナブキンの折り方について習得し、実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルセッティングについて理解を深める。	
3回	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (1) テーブルコーディネートとは	
	学習成果	テーブルコーディネートについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルコーディネートについて理解を深める。	
	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (2) 食空間の構成	
4回	学習成果	食空間の構成について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食空間の構成について理解を深める。	
5回	授業内容	テーブルアイテム制作/テーブルマット	
	学習成果	説明に基づきテーブルマットを制作できる。	
	予習復習の内容	制作したテーブルマットを実際に使ってみる。	
	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (3) テーブルリネン、テーブル装飾品	
6回	学習成果	テーブルリネン、テーブル装飾品について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルリネン、テーブル装飾品について理解を深める。	
7回	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (4) テーブルに飾る花	
	学習成果	テーブルに飾る花について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルに飾る花について理解を深める。	
	授業内容	テーブルコーディネートの基本的理論 (5) 食器、グラス	
8回	学習成果	食器、グラスについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、食器やグラスについて理解を深める。	
9回	授業内容	テーブルフラワー実習 (1) ラウンド	
	学習成果	ラウンドのテーブルフラワーを制作できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、ラウンドのテーブルフラワー制作について理解を深める。	
	授業内容	テーブルフラワー実習 (2) フリースタイル	
10回	学習成果	フリースタイルのテーブルフラワーを制作できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、フリースタイルのテーブルフラワー制作について理解を深める。	
11回	授業内容	テーブルセッティングの実際	
	学習成果	テーブルセッティングを実践できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルセッティングについて理解を深める。	
	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (1) プランニング	
12回	学習成果	作品制作に向けて計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
13回	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (2) 発表会	
	学習成果	テーブルコーディネートに取り組み、制作した作品について発表できる。	
	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (3) 発表会	
14回	学習成果	テーブルコーディネートに取り組み、制作した作品について発表できる。	
	予習復習の内容	作品制作及び発表会に向けて必要な準備を行う。	
15回	授業内容	テーブルコーディネート作品制作 (4) まとめ	
	学習成果	制作したテーブルコーディネート作品を他者に紹介できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、テーブルコーディネートについて理解を深める。	
		作品紹介シートの作成	

科目名	栄養学 A				担当者	梅 津 裕 子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	umetsu.yuko@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	からだの仕組みと食物の取り込みについて理解し、その概要を説明できる。										
	②	栄養素の種類とその働きについて理解し、その概要を説明できる。										
	③	からだの働きを支えるエネルギーや栄養摂取の適量について理解し、その概要を説明できる。										
	④	栄養と健康における課題について理解し、改善点を示すことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた栄養学に関する学習を通して、食に関連した社会的・職業的自立に繋がる知識を習得し活用することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	栄養と健康における課題や改善点の把握を通して、社会人として必要な論理的思考を高め課題解決に向けて行動できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	フードコーディネーター資格取得のために必要な栄養学に関する知識の習得を目的とする。近年のように複雑多様化した社会に生きるためには、食物の摂取から生命、健康の維持増進、疾病の予防、治療といった広範囲にわたる栄養学的知識が必要となっている。本授業では栄養学の成り立ち、からだの仕組みと食物の取り込み、栄養素の種類とその働き、非栄養素の栄養効果、からだの働きを支えるエネルギー、栄養摂取の適量等について学び、理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	全講義内容の理解について定期試験期間に筆記試験を行い評価する。								
		レポート										
		小テスト	10	各回の講義内容の理解について学期の途中で小テストを行い評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	30	授業への取り組み・意欲・態度により評価する。									
	汎用的学習成果 (1) (2) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本フードコーディネーター協会編	『新・フードコーディネーター教本2025』				柴田書店						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①フードコーディネーター3級の資格取得に必修。授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に4時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。小テストのための準備を行うこと。事後学習として、各回の学習内容とそれに関連する事項を調べノートにまとめること。小テスト及び授業の内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テストは返却するとともに、問題・解答についての解説を行うことにより結果のフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、栄養学とフードコーディネーター	ワークシートへの取り組み
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	栄養学の成り立ち	小テスト 7回目授業の後半に2-6回目までの講義内容の理解について小テストを実施する。
	学習成果	栄養学の成り立ちについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養学の成り立ちについて理解を深める。	
3回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み (1) からだの構成単位、からだの働き	
	学習成果	からだの構成単位、からだの働きについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、からだの構成単位、からだの働きについて理解を深める。	
4回	授業内容	からだの仕組みと食物の取り込み (2) 消化と吸収	
	学習成果	消化と吸収について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、消化と吸収について理解を深める。	
5回	授業内容	栄養素の種類とその働き (1) 熱量素 糖質	
	学習成果	熱量素 糖質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 糖質について理解を深める。	
6回	授業内容	栄養素の種類とその働き (2) 熱量素 脂質	
	学習成果	熱量素 脂質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 脂質について理解を深める。	
7回	授業内容	栄養素の種類とその働き (3) 熱量素 タンパク質	小テスト 12回目授業の後半に7-11回目までの講義内容の理解について小テストを実施する。
	学習成果	熱量素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、熱量素 タンパク質について理解を深める。	
8回	授業内容	栄養素の種類とその働き (4) 構成素 タンパク質	
	学習成果	構成素 タンパク質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 タンパク質について理解を深める。	
9回	授業内容	栄養素の種類とその働き (5) 構成素 無機質	
	学習成果	構成素 無機質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、構成素 無機質について理解を深める。	
10回	授業内容	栄養素の種類とその働き (6) 調節素 ビタミン	
	学習成果	調節素 ビタミンについて、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 ビタミンについて理解を深める。	
11回	授業内容	栄養素の種類とその働き (7) 調節素 無機質	
	学習成果	調節素 無機質について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、調節素 無機質について理解を深める。	
12回	授業内容	非栄養素の栄養効果 食物繊維	定期試験 定期試験期間に全講義内容の理解について筆記試験を実施する。
	学習成果	非栄養素の栄養効果 食物繊維について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、非栄養素の栄養効果 食物繊維について理解を深める。	
13回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー(1) エネルギー生成とその消費	
	学習成果	エネルギー生成とその消費について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、エネルギー生成とその消費について理解を深める。	
14回	授業内容	からだの働きを支えるエネルギー(2) 消費エネルギーの求め方	
	学習成果	消費エネルギーの求め方について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、消費エネルギーの求め方について理解を深める。	
15回	授業内容	栄養摂取の適量	
	学習成果	栄養摂取の適量について、学習した内容を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、栄養摂取の適量について理解を深める。	

科目名	製菓衛生師試験対策講座Ⅱ				担当者	イワマツ 岩松 秀夫 ・ ヨシダ 吉田 正 ・ サガラ 相良 奈津						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後に対応する。										
専門的 学習成果	①	製菓衛生師としての食品衛生を理解し、その内容を説明できる										
	②	製菓衛生師としての公衆衛生を理解し、その内容を説明できる										
	③	製菓衛生師としての食品や栄養、法令に関する内容を理解し、その内容を説明できる										
	④	製菓衛生師としての製菓理論を理解し、その内容を説明できる										
	⑤	製菓衛生師として必要とされる職務知識・技能を理解し実践できる										
汎用的 学習成果	(1)	製菓衛生師養成課程を学ぶことを通して、製菓衛生師としての職業自立につなげることができる（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(2)	製菓衛生師として必要とされる実務能力を習得することによって、社会人としてその技能を活用することができる（専門的学習成果①②③④⑤に関連）										
	(3)	製菓衛生師としてふさわしい態度・人柄を理解し、身につけることによって他者理解ができコミュニケーション能力を養うことができる（専門的学習成果⑤に関連）										
授業概要	製菓衛生師試験合格のために必要な基礎知識と技能の習得を目的とする。具体的には製菓衛生師として必要とされる、食品衛生、公衆衛生、食品学、栄養学、衛生法規、衛生管理、製菓理論を製菓衛生師ユニットで学び、試験対策講座として、各都道府県の過去問題や、宮城県での製菓衛生師試験の傾向などをふまえて講座を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	毎回出される過去問題をきちんと解いてくる。								
		模擬試験	10	検定直前に模擬試験を行い、採点し評価する。								
	平常点	60	授業への取り組み・態度・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (2) は専門的学習成果①～⑤で評価を行う (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う											
テキスト 等	著者・編者名	書名		出版社名								
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『これで合格 製菓衛生師試験問題集』										
参考書 参考文献	著者・編者名	書名		出版社名								
	全国製菓衛生師養成施設協会編	『新訂製菓衛生師教本』										
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2年生前期集中講義である。岩松秀夫、吉田正、相良奈津の共同授業とする。事前学習として配布される過去問題を解いて授業に臨むこと（予習、復習共に週2時間程度） ②過去問題に対しては授業内で返却し解説を行う。講義内の解答を持ってフィードバックとする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 製菓衛生師試験について	
	学習成果	製菓衛生師試験の概要を説明できる	
	予習復習の内容	製菓衛生師試験の概要を理解してくる	
	授業内容	過去問題①	
2回	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
3回	授業内容	過去問題②	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	授業内容	過去問題③	
4回	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
5回	授業内容	過去問題④	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	授業内容	過去問題⑤	
6回	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
7回	授業内容	過去問題⑥	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	授業内容	過去問題⑦	
8回	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
9回	授業内容	過去問題⑧	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	授業内容	過去問題⑨	
10回	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
11回	授業内容	過去問題⑩	
	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
	授業内容	過去問題⑪	
12回	学習成果	過去問題を解き、製菓衛生師受験の合格を目指す	
	予習復習の内容	事前に配布される過去問題を解いてくる	
13回	授業内容	模擬試験①今年行われた一番身近な試験の問題を解く	
	学習成果	合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
	授業内容	模擬試験②昨年の宮城県の試験問題を解く	
14回	学習成果	合格点（7割以上正解）に達する	
	予習復習の内容	試験内容について復習する	
15回	授業内容	受験準備	
	学習成果	受験に備え適切な準備を整えることができる	
	予習復習の内容	受験に必要な準備を整える	

科目名	製菓技術 I				担当者	ヨシダ 吉田 正・加藤 信樹・高橋 義弘・渡辺 靖美						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
			授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp										
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を活用できる。										
	⑤	造形菓子の取り組みから芸術性の観点をもち菓子製作ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択を行うことができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要		国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。 更にコンテスト出場に向けた高度なマジバン細工を習得して菓子の芸術的要素を表現できる。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ・ドゥミセック）の実技試験を実施する。								
	汎用的 学習成果	レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
		汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④にて評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる。（復習として週2時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジバン細工の応用 1) テーマに基づいたマジバン作製	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。自身で作製したケーキ・菓子を記録し、レポートとして提出する。
	学習成果	マジバン造形 人形と動物を作製できる。	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	マジバン細工の応用 2) テーマに基づいたマジバン作製	
5・6回	学習成果	マジバン造形 人形と動物を作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
7・8回	授業内容	マジバン細工の表現方法 1) コンテスト出場への取り組み	
	学習成果	土台とカバーリングを作製できる。	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	マジバン細工の表現方法 2) コンテスト出場への取り組み	
11・12回	学習成果	デザイン構成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
13・14回	授業内容	イタリア菓子の技法	
	学習成果	ティラミスとパンナコッタを作製できる。	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ドイツ菓子の技法	
17・18回	学習成果	ザッハトルテとリンツァートルテを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
19・20回	授業内容	フランス菓子 1) アントルメの応用 ショコラムースとベリームース	
	学習成果	5工程で構成される現代フランス菓子2品を作製できる。	
21・22回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 コーヒーとヌガー	
23・24回	学習成果	ガトーガフェノアとタルトレットフロランティーズを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 シュー生地	
	学習成果	プロフィットロールとバリプレストを作製できる。	
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	糖化の技法	
29・30回	学習成果	パートドフリユイとキャラメルムーを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
27・28回	授業内容	ケーキサレとケーキシュクレ	
	学習成果	野菜を使用したケーキサレとキャラメルショコラマフィンを作製できる。	
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) ゲル化剤の活用方法	
27・28回	学習成果	杏仁豆腐とレモンゼリーを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
25・26回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) ゲル化剤の活用方法	
	学習成果	マンゴープリンとオレンジヨーグルトを作製できる。	
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アニバーサリーケーキ	
29・30回	学習成果	マリアージュマドレーヌとル・レ・オ・ティバールを作製できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	
27・28回	授業内容	課題作製	
	学習成果	各自で設定した課題で菓子を製作できる。	
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる。	

科目名	製菓技術Ⅱ				担当者	ヨシダ 正・加藤 信樹・高橋 義弘・渡辺 靖美						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
			授業時間数	60	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@sewa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	洋菓子の種類、使用材料について理解し、その内容を十分に説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が十分に実践できる。										
	③	洋菓子分野の専門的技術を駆使した菓子製作を完成できる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を十分に活用できる。										
	⑤	造形菓子の取り組みから芸術性の観点をもち菓子製作を完成できる。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択を適切に行うことができる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を活用できる。（専門的学習成果①②③④に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要		国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。 洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。 また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。 更にコンテスト出場に向けたマジバン細工を習得して菓子の芸術性要素を表現できる。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	洋菓子製造に必要な専門的技法（アントルメ・ドゥミセック）の実技試験を実施する。								
	汎用的 学習成果	レポート	30	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
		汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④にて評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅰからの続き。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる。（復習として週2時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノートは点検後返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	マジバン細工の応用 1) テーマに基づいたマジバン作製	
	学習成果	マジバン造形 人形と動物を完成できる。	
3・4回	授業内容	マジバン細工の応用 2) テーマに基づいたマジバン作製	
	学習成果	マジバン造形 人形と動物を完成できる。	
5・6回	授業内容	マジバン細工の表現方法 1) コンテスト出場への取り組み	
	学習成果	土台製作とカバーリングを完成できる。	
7・8回	授業内容	マジバン細工の表現方法 2) コンテスト出場への取り組み	
	学習成果	デザイン構成を完成できる。	
9・10回	授業内容	イタリア菓子の技法	
	学習成果	ティラミスとパンナコッタを完成できる。	
11・12回	授業内容	ドイツ菓子の技法	
	学習成果	ザッハトルテとリンツァートルテを完成できる。	
13・14回	授業内容	フランス菓子 1) アントルメの応用 ショコラムースとベリームース	
	学習成果	5工程以上で構成される現代フランス菓子2品を完成できる。	
15・16回	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 コーヒーとヌガー	
	学習成果	ガトーカフェノアとタルトレットフロランティーズを完成できる。	
17・18回	授業内容	フランス菓子 2) アントルメの応用 シュー生地	
	学習成果	プロフィットロールとバリプレストを完成できる。	
19・20回	授業内容	糖化の技法	
	学習成果	パートドフリユイとキャラメルムーを完成できる。	
21・22回	授業内容	ケーキサレとケーキシュクレ	
	学習成果	野菜を使用したケーキサレとキャラメルショコラマフィンを完成できる。	
23・24回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) ゲル化剤の活用方法	
	学習成果	杏仁豆腐とレモンゼリーを完成できる。	
25・26回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) ゲル化剤の活用方法	
	学習成果	マンゴープリンとオレンジヨーグルトを完成できる。	
27・28回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アニバーサリーケーキ	
	学習成果	マリアージュマドレーヌとル・レ・オ・ティベールを完成できる。	
29・30回	授業内容	課題作製	
	学習成果	各自で設定した課題で菓子を完成できる。	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	

科目名	製菓技術Ⅲ				担当者	ヨシダ・相良・高橋・加藤・堤田						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子・パンの種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子・パン分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する										
	⑥	学内販売を通じて職業的自立について必要なことを習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④⑥に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③⑥に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④⑥に関連）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けた高度なマジバン細工を習得して菓子の芸術性要素を表現できる。又、製造した菓子・パン類を学内での販売を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学内販売の企画・製造・販売の実施。								
		レポート	30	学内販売の企画・製造・販売についてのレポート。								
		ノート提出	20	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④⑥にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③⑥にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④⑤⑥にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④⑥にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキ・パンの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。（事前学習として週1時間程度）授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる（復習として週2時間程度） 授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノート・レポートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス・マジバン細工コンテスト・学内展示に向けて	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	コンテスト作品用土台焼き・カバーリング用マジバン練り	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
3・4回	授業内容	マジバン細工の表現方法 1) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	カバーリングとスプレー着色	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
5・6回	授業内容	マジバン細工の表現方法 2) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗った作品製作	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
7・8回	授業内容	マジバン細工の表現方法 3) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗った作品製作	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
9・10回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) アントルメの応用①	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
11・12回	授業内容	学内イベントで販売を目的とした菓子と技法 1) 学園祭	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子の生地とクリーム類の生地	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) アントルメの応用②	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
15・16回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アントルメの応用③	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
17・18回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 4) アントルメの応用④	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
19・20回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 5) アントルメの応用⑤	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
21・22回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 2) キャリアフェスティバル	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・練り生地・気泡生地・堅果生地	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
23・24回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 6) アントルメの応用⑥	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
25・26回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 3) クリスマス	
	学習成果	クリスマスイベントで販売するケーキ類の製造	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
27・28回	授業内容	製パン店のパンと技法	
	学習成果	パンの製造について	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 4) 製パン	
	学習成果	高級食パンの技法を学び製造する	
予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる		

科目名	製菓技術Ⅳ				担当者	ヨシダ 吉田・相良・高橋・加藤・堤田						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	60							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp											
専門的 学習成果	①	洋菓子・パンの種類、使用材料について理解し、その内容を説明できる。										
	②	菓子製造に使用する食材の特性を理解して安心安全な商品製造が実践できる。										
	③	洋菓子・パン分野の専門的技術を駆使した菓子製作ができる。										
	④	国家試験（製菓衛生師）に必要な製菓技術を習得する。										
	⑤	造形菓子の取り組みから菓子製作の芸術性を習得する										
	⑥	学内販売を通じて職業的自立について必要なことを習得する。										
汎用的 学習成果	(1)	食に携わる意義と使命を理解し、職業選択につなげる（専門的学習成果①②③④⑥に関連）										
	(2)	洋菓子の文化と歴史を学ぶことで製造過程の際、自己表現と問題解決ができる。（専門的学習成果①③⑥に関連）										
	(3)	製菓分野において社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得する。（専門的学習成果①②③④⑤⑥に関連）										
	(4)	グループワークを実践することで他者との協同・協働ができる（専門的学習成果②③④⑥に関連）										
授業概要	国家資格である「製菓衛生師」取得に向け、洋菓子分野に関する知識と技能について学習する。洋菓子製造に欠かせない食材の特性を理解して、より専門的洋菓子実習で活用していく技法を習得する。この授業ではフランス菓子以外にドイツ菓子、イタリア菓子についての知識と技術も習得する。また、パティシエとして食を提供することから、職業人としての質の向上の意義と必要性を理解する。更にコンテスト出場に向けた高度なマジバン細工を習得して菓子の芸術性要素を表現できる。又、製造した菓子・パン類を学内での販売を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	学内販売の企画・製造・販売の実施。								
		レポート	30	学内販売の企画・製造・販売についてのレポート。								
		ノート提出	20	授業毎に示されるレシピと製法についてまとめる。								
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④⑥にて評価を行う (2) は専門的学習成果①③⑥にて評価を行う (3) は専門的学習成果①②③④⑤⑥にて評価を行う (4) は専門的学習成果②③④⑥にて評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	日本菓子教育センター	『製菓衛生師全書』										
	日本菓子教育センター	『洋菓子教本』										
	全国製菓衛生師養成施設協会	『製菓衛生師教本 上・下』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名			出版社名							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2コマ連続で授業を行う。製菓技術Ⅱへと続く。 授業計画に沿って制作する菓子・ケーキ・パンの内容をテキストを利用して事前に確認しておく。 (事前学習として週1時間程度) 授業後は実習で作製した菓子・ケーキのレシピと製法をまとめる (復習として週2時間程度) 授業で使用する食材等の入荷状況により授業回数が入れ替わる事もある。 ②課題として提出されたノート・レポートは点検後返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス・マジバン細工コンテスト・学内展示に向けて	毎授業で作製したケーキ・菓子について実習終了後に評価・総評を行う。また、自身で作製したケーキ・菓子を写真に撮り、提出用ノートに張り付ける。
	学習成果	コンテスト作品用土台焼き・カバーリング用マジバン練り・デザインチェック	
3・4回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	マジバン細工の表現方法 1) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
5・6回	学習成果	カバーリングとスプレー着色	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
7・8回	授業内容	マジバン細工の表現方法 2) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
	学習成果	デザイン構成の乗った作品製作	
9・10回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	マジバン細工の表現方法 3) コンテスト出場・学内展示への取り組み	
11・12回	学習成果	デザイン構成の乗った作品製作	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
13・14回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 1) アントルメの応用①	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
15・16回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	学内イベントで販売を目的とした菓子と技法 1) 学園祭	
17・18回	学習成果	オープンで焼き上げる菓子の生地とクリーム類の生地	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
19・20回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 2) アントルメの応用②	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
21・22回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 3) アントルメの応用③	
23・24回	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
25・26回	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 4) アントルメの応用④	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
27・28回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 5) アントルメの応用⑤	
29・30回	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 2) キャリアフェスティバル	
	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・練り生地・気泡生地・堅果生地	
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	ケーキ店の菓子と技法 6) アントルメの応用⑥	
29・30回	学習成果	オープンで焼き上げる菓子・デザート菓子・クリーム類	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 3) クリスマス	
	学習成果	クリスマスイベントで販売するケーキ類の製造	
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
	授業内容	製パン店のパンと技法	
29・30回	学習成果	パンの製造について	
	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	
29・30回	授業内容	学内イベントで販売する焼き菓子の製造 4) 製パン	
	学習成果	高級食パンの技法を学び製造する	
29・30回	予習復習の内容	授業で示された配合とその製法についてノートにまとめる	

科目名	製菓学外実習Ⅰ				担当者	ヨシダ 正						
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	① 職業人として社会に貢献できる専門知識と技術を習得する。											
	② グループで協力しながら作業する事により、他者とのコミュニケーションを図れるようにする。											
	③ 企画・生産・流通・販売までの流れを理解して実践できる。											
	④ ビジネスマネジメント能力を身に付ける。											
汎用的 学習成果	(1) 食に関連した職業的・社会的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)											
	(2) 協働作業の実践により自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果②に関連)											
	(3) ビジネスの一連の流れを実践することにより、習得した知識や技術を活用して、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①③④に関連)											
授業概要	製菓衛生師養成課程で学習した専門知識と技術を基に地域のイベントに出店して活動する。イベント出店の際は企画から運営のすべてを手掛け、販売する商品については開発と製造を行う。イベント出店に先立ち、学内授業ではマーケティングとマネジメント能力の必要性を学習し、フードビジネス全般のスキルを身につけ実践できる能力を養う。また、イベント出店の際には社会人との交流が多くなりコミュニケーション力を磨く。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	フードマネジメントとマーケティングの理解を評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		製品発表	25	テーマに基づいた製品提案の内容により評価する。								
製品製作	25	企画に基づいた製品製作の内容により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果②にて評価を行う。 (3) は専門的学習成果①③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 2コマ連続授業。 校外での活動があるため、授業時間が変則的になる場合がある。事前学習として出店計画と商品製作時間に40時間程度必要となる。また事後学習として報告書作成に15時間程度必要とする。 ②課題として提出された製品は点検後に返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	ガイダンス フードビジネスとは	
	学習成果	授業の概要を理解し説明できる	
	予習復習の内容	シラバスを読み授業内容を理解する	
	授業内容	マーケティングの基礎	
3・4回	学習成果	マーケティングのプロセスを理解できる	マーケティングについてのレポートを提出する
	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
5・6回	授業内容	マーケティングの実践	
	学習成果	商品のスパイラル分析を理解する	
	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
	授業内容	市場調査 (1) 繁盛店の実態	
7・8回	学習成果	食分野の繁盛店を調査し、その実態を分析する	市場調査に向いた際のレポートを提出する
	予習復習の内容	インターネット等を利用して仙台市内の食の繁盛店を調べる	
9・10回	授業内容	市場調査 (2) 地域イベント	
	学習成果	地域のイベントに向き、マーケティングの観点から調査する	
	予習復習の内容	仙台市内で行われている食にまつわる地域イベントを調べる	
	授業内容	商品開発 (1) 流行と傾向	
11・12回	学習成果	トレンド食を取り入れた製品を構築できる	試作商品の提出 1回目
	予習復習の内容	流行している食について調べる	
13・14回	授業内容	商品開発 (2) 食シーンから発想する	試作商品の提出 2回目
	学習成果	季節の食材を取り入れた製品を構築できる	
	予習復習の内容	身近にある食の季節商品を調べる	
	授業内容	商品化する製品のプレゼンテーション	
15・16回	学習成果	レシピ調整と売価・原価計算が完成できる	完成した商品のプレゼンテーション
	予習復習の内容	製造に向けて原材料の調達方法を考える	
17・18回	授業内容	地域イベントへの出店準備 (1) 店舗運営の方法	イベント出店の企画書作成
	学習成果	6w 1hを理解して計画を立てることができる	
	予習復習の内容	グループ内で役割分担を決め出店準備をする	
	授業内容	地域イベントへの出店準備 (2) 商品製造の方法	
19・20回	学習成果	目標数値の決定ができる	
	予習復習の内容	目標数値を達成できるように計画を立てる	
21・22回	授業内容	地域イベントでの活動	一日ごとの日計表を作成する
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動	
23・24回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
25・26回	授業内容	地域イベントでの活動	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動	
27・28回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
29・30回	授業内容	イベント出店の検証と課題 まとめ	出店したイベントについての検証と課題をレポートにまとめ提出する
	学習成果	PCDA サイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
	予習復習の内容	学習内容を振り返りフードビジネスについての理解を深める	

科目名	製菓学外実習Ⅱ				担当者	ヨシダ 正						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又はEメールで行う。 tadashi.yoshida@seiwai.ac.jp										
専門的 学習成果	①	職業人として社会に貢献できる専門知識と技術を習得する。										
	②	グループで協力しながら作業する事により、他者とのコミュニケーションを図れるようにする。										
	③	企画・生産・流通・販売までの流れを理解して実践できる。										
	④	ビジネスマネジメント能力を身に付ける。										
汎用的 学習成果	(1)	食に関連した職業的・社会的自立につなげることができる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	協働作業の実践により自己表現と他者理解ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	ビジネスの一連の流れを実践することにより、習得した知識や技術を活用して、地域社会に貢献できる。(専門的学習成果①③④に関連)										
授業概要	製菓衛生師養成課程で学習した専門知識と技術を基に地域のイベントに出店して活動する。イベントでは企画から運営のすべてを手掛け、販売する商品については製品開発と製造を行う。イベント出店に先立ち、学内授業ではマーケティングの活用方法とマネジメント能力の実践方法を学習し、フードビジネス全般のスキルを身につけ実践できる能力を養う。また、PDCAサイクルを取り込み、より高度な出店スタイルを構築する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	フードマネジメントとマーケティングの理解を評価する。								
		平常点	30	授業の態度・関心・意欲を評価する。								
		製品発表	25	テーマに基づいた製品提案の内容により評価する。								
製品製作	25	企画に基づいた製品製作の内容により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②③④にて評価を行う。 (2)は専門的学習成果②にて評価を行う。 (3)は専門的学習成果①③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2コマ連続授業。 前期授業「製菓学外実習Ⅰ」で学習したビジネスマネジメントを理解していることが望ましい。 校外での活動があるため、授業時間が変動的になる場合がある。事前学習として出店計画と商品製作時間に40時間程度必要となる。また事後学習として報告書作成に15時間程度必要とする。 ②課題として提出された製品は点検後に返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 出店計画	
	学習成果	授業の概要を理解し説明できる	
	予習復習の内容	シラバスを読み授業内容を理解する	
	授業内容	マーケティングの活用	
2回	学習成果	セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの理解	
	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
	授業内容	マーケティングの効率	
	学習成果	マーケティングミックスを理解して実践につなげる	
3回	予習復習の内容	授業内容を振り返りマーケティングの理解を深める	
	授業内容	商品開発 (1) 味を設計する	
4回	学習成果	年代で変化する嗜好と欲求を理解する	
	予習復習の内容	世代別での食のターゲティングを調べておく	
5回	授業内容	商品開発 (2) ネーミング・パッケージ	
	学習成果	商品に付加価値をつける方法を理解する	
	予習復習の内容	ブランド品の魅力を調べておく	
	授業内容	商品化する製品のプレゼンテーション	
6回	学習成果	レシピ調整と売価・原価計算が完成できる	
	予習復習の内容	製造に向けて原材料の調達方法を考える	
7回	授業内容	地域イベントへの出店準備 商品製造の方法	
	学習成果	目標数値の決定ができる	
	予習復習の内容	目標数値を達成できるように計画を立てる	
	授業内容	地域イベントでの活動 (1)	
8回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
9回	授業内容	地域イベントでの活動 (2)	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動 (3)	
10回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
11回	授業内容	イベント出店の検証と課題 (1) 改善計画の構築	
	学習成果	PDCAサイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
	予習復習の内容	出店を振り返り次回出店の問題点と課題を見つけ改善方法を探る	
	授業内容	地域イベントでの活動 (4)	
12回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
13回	授業内容	地域イベントでの活動 (5)	
	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
	授業内容	地域イベントでの活動 (6)	
14回	学習成果	ビジネスマネジメントの実践	
	予習復習の内容	営業開始前と営業終了後にミーティングを行い、改善点を見直す	
15回	授業内容	イベント出店の検証と課題 (2) まとめ	
	学習成果	PDCAサイクルの理解を深め店舗運営の実践につなげる	
	予習復習の内容	学習内容を振り返りフードビジネスについての理解を深める	
		2回出店したイベントについての検証と課題をレポートにまとめ提出する	

科目名	インターンシップ				担当者	ヨシダマサ						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	1年	開講期	集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	研究室への訪問、又はEメールで行う。 Tadashi.yoshida@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	企業・施設での業務活動の実際について理解する。										
	②	ビジネスマナーの理解と実践ができる。										
	③	企業・施設で基本的な業務が行えるようになる。										
	④	将来の職業について考え、志望先の業界の仕組み、仕事内容を理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	社会人としての職業自立につなげることができる。(専門学習①②③④に関連)										
	(2)	企業研修を行うことで、自己表現と他者理解ができる。(専門学習①②③④に関連)										
	(3)	企業研修を行うことで、問題解決に向けて行動できる。(専門学習①②③④に関連)										
授業概要	業界研究及び企業研究を行い研修先を自ら選定し、7日間以上の実務研修を実施する。実務研修を通して働く意義と目的を見出す。実務研修に先立ち、学内授業においてビジネスマナーと社会人としての心得を理解し実践できる能力を身に付けた後、研修にあたる。企業の業務内容を体験することから、職業選択の際に活用できる。 ※原則として研修時期については1年次の春休み期間を利用して行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	企業研究の理解度により評価する。								
		実習報告書	40	研修先での業務日報報告書を研修終了後担当教員に提出する。内容により評価する。								
		企業評価	40	研修企業先から後日、評価が示される。								
汎用的 学習成果	平常点	10	出席状況、授業内容の理解度により評価する。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『マナーの基本と常識』				専門教育出版						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①出席及び課題の達成度が不十分である場合は、企業・施設での研修を認めないので注意すること。 事前学習として研修先の企業調査と訪問(15時間程度)を必要とする。 ②業務日報報告書は担当教員が点検後、返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス 研修企業・業界調査	希望する研修先を選定する。選定するにあたり企業研究を行う。希望先を調査用紙に記入し後日提出する。提出日時は1回目授業時に連絡する。
	学習成果	授業内容を理解し、研修の意義と目的を理解する	
2回	予習復習の内容	希望する研修先を選定する。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	ビジネスマナー (1) エチケットとマナー	
3回	学習成果	ビジネスとしての態度とお辞儀を理解し実践できる	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
4回	授業内容	ビジネスマナー(2) 話し方・聞き方	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	敬語での話し方、電話対応について理解し実践できる	
5回	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	ビジネスマナー(3) ビジネス文書の基本	
6回	学習成果	企業先に提出するプロフィールとお礼状をビジネス書式で書ける	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
7回	授業内容	ビジネスマナーの実践 (1) 電話・メール	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	アポイントの取り方を理解して実践できる。	
8回	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	ビジネスマナーの実践 (2) 企業訪問	
9回	学習成果	企業担当者との応対を理解して実践できる。	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	学習内容の振り返りをする。	
10回	授業内容	研修前事前指導	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	企業研修にむけたビジネスマナー全般を理解して実践できる。	
11回	予習復習の内容	研修内容の確認と目標を設定する	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 1日目	
12回	学習成果	研修先からの報告	授業内にて小テストを実施する。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
13回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 2日目	授業内にて小テストを実施する。
	学習成果	研修先からの報告	
14回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	授業内にて小テストを実施する。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 3日目	
15回	学習成果	研修先からの報告	報告書の提出。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
16回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 4日目	報告書の提出。
	学習成果	研修先からの報告	
17回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	報告書の提出。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 5日目	
18回	学習成果	研修先からの報告	報告書の提出。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
19回	授業内容	企業研修(インターンシップ) 6日目	報告書の提出。
	学習成果	研修先からの報告	
20回	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	報告書の提出。
	授業内容	企業研修(インターンシップ) 7日目	
21回	学習成果	研修先からの報告	報告書の提出。
	予習復習の内容	業務日報の作成をする。	
22回	授業内容	研修報告とまとめ	報告書の提出。
	学習成果	報告書の研修レポートを作成する。	
23回	予習復習の内容	担当教員への報告	報告書の提出。
	授業内容	研修報告とまとめ	

科目名	観光事業論				担当者	大森 信治郎						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に講師室にて受け付ける。										
専門的 学習成果	①	観光概念や歴史、基本となる関連用語や関連分野の概要について説明することができ、発展的に応用することができる。										
	②	マーケティングマネジメントの基本を理解し、観光の分野に援用して説明することができる。										
	③	観光事業の各分野の概要を理解し、各分野の特徴、現況、展望について説明することができる。										
	④	観光事業を取り巻くグローバルな状況と、地域にとっての役割について理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	観光及び観光産業の基礎を習得することによって、自身の社会生活と社会全般がより豊かになるための一助となる。(専門的学習成果①～④に関連)										
	(2)	観光領域の職業人としての専門的な知識を身に付け、観光のビジネスの領域で活躍できる。(専門的学習成果②～④に関連)										
	(3)	21世紀最大の産業に成長しつつある観光産業の、日本における発展に貢献できる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	本講義では、観光事業を大きく三領域(三段階)に分け知識を習得する。第一段階(計3回)は 観光の基礎的な知識の習得である。1年次の「観光概論」と一部重複する部分もあるが、既履修者は復習を兼ねて受講して頂きたい。「概念」「歴史」「関連用語」などについてである。第二段階(計4回)はマーケティングの基礎知識である。経営全般や観光事業を理解するにあたって避けて通れないマーケティングの知識は、将来様々な分野で活躍できる職業人として理解しておくべき知識である。第三段階が観光の分野の各事業領域についての学習である。観光は広い裾野を持つ「21世紀最大」と言われる産業分野であり、その領域も多岐にわたる。旅行業、交通、宿泊、飲食、小売業、その他の関連サービスなどの諸事業、さらに地域の視点から今後の観光のあり方を考察する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合(%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	65	学習内容について、選択式の問題を課し、評価を行う。								
		レポート	20	各ステップごとに3回程度、レポートを課し、評価を行う。								
		小テスト										
	平常点	15	受講態度、学習に対する意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②～④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	高橋一夫 編著		『1からの観光事業』				碩学社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	前田勇 編著		『新現代観光総論』				学文社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①毎回の授業で習得した知識を復習し、次の授業及びレポートに備える。事前、事後学習には4時間を要する。 ②レポートは、次回の授業までに評価の結果を付けて返却するので、それに基づいて復習を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	「観光」の基礎を学ぶⅠ。観光の「概念」「構成」「構成要素」	おじいさんおばあさんに理解できるように説明するレポートを課す。	
	学習成果	観光の基礎的知識を身に付け、現代観光の特徴を説明できる。		
予習復習の内容	自分の体験に照らして、観光について説明してみる。			
2回	授業内容	観光の基礎を学ぶⅡ。観光の「歴史」		
	学習成果	古代ギリシャ以降の観光の世界史、奈良時代以降の観光の日本史歴史について、概観を把握し説明できる。		
予習復習の内容	身近な人文観光資源の成り立ちから、観光の歴史について考えてみる。			
3回	授業内容	観光の基礎を学ぶⅢ。観光の関連概念「経済」「地域」「余暇」「インバウンド」		
	学習成果	観光の影響、効果について、関連の概念を用いて概説できる。		
予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
4回	授業内容	観光のマーケティングⅠ。マーケティングの基礎Ⅰ 定義と歴史。		レポートの回収
	学習成果	事業論の基礎として「マーケティング」の概要を説明できる。		
予習復習の内容	マーケットの意味を理解し、興味ある業界を取り上げ、市場というものについて考える。			
5回	授業内容	マーケティングの基礎Ⅱ 市場調査と商品開発	前回レポートの講評	
	学習成果	マーケティング リサーチとそれに基づいた商品開発の必要性について説明できる。		
予習復習の内容	自らの発想で商品開発について考え、それについてレポートを作成する。			
6回	授業内容	マーケティングの基礎Ⅲ 商品のライフサイクル、価格政策		
	学習成果	前回のレポートを、ライフサイクル論、価格政策の面から再考し自己評価できる。		
予習復習の内容	最近のメディア報道と学習したこととの関連性について考える。			
7回	授業内容	観光事業のマーケティング・マネジメント		
	学習成果	これまでに学んだ観光分野の知識に基づき、観光マネジメントの特性を説明できる。		
予習復習の内容	観光に関する新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
8回	授業内容	観光事業Ⅰ 旅行業		
	学習成果	旅行業の歴史、業種特性、市場構造、展望について、事例を取り上げて説明できる。		
予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
9回	授業内容	観光事業Ⅱ 宿泊業		
	学習成果	宿泊業の歴史、業種特性、市場構造、展望について、事例を取り上げて説明できる。		
予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
10回	授業内容	観光事業Ⅲ 交通業		
	学習成果	交通業の歴史、業種特性、市場構造、展望について、事例を取り上げて説明できる。		
予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
11回	授業内容	観光事業Ⅳ テーマパーク		
	学習成果	テーマパークの歴史、業種特性、市場構造、展望について、事例を取り上げて説明できる。		
予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
12回	授業内容	観光事業Ⅴ 小売業と食		
	学習成果	お土産や郷土料理などについての実際の事例を取り上げて説明できる。	自分が就いてみたい観光事業の業種についてのレポートを課す。	
予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
13回	授業内容	観光事業Ⅵ 地域づくり	レポートの回収	
	学習成果	地域づくりと観光の歴史・展望について事例に基づいて説明できる。		
予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
14回	授業内容	観光事業Ⅶ ディスティネーション・マーケティングと地域ブランド	前回レポートの講評	
	学習成果	DMOや地域のブランド力について事例に基づいて説明できる。		
予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			
15回	授業内容	観光事業の未来 インバウンド、観光公害、交流人口、国際理解	期末試験によって15回全般の評価を行う。	
	学習成果	観光事業の今後の展望について、学習したキーワードに基づいて説明できる。		
予習復習の内容	新聞・テレビなどのメディア報道に注目し、学習したこととの関連性について考える。			

科目名	観光ガイドトレーニング				担当者	尾 形 和 悦												
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回		授業形態		講義		学年	2年	開講期		後期		
				授業時間数	30	時間												
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に受け付ける																
専門的 学習成果	①	時刻表にある地図を使用して、時刻表を読み取ることができる。																
	②	観光素材について説明することができる。																
	③	宿泊施設の選択のアドバイスができる。																
	④	国内旅行の日程表の作成ができる。																
	⑤	旅行会社カウンターでの接客ができる。																
	⑥	添乗員の業務内容の理解ができる。																
	⑦	旅行会社の営業の仕組みが理解できる。																
汎用的 学習成果	(1)	時刻表を読み取ることで、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)																
	(2)	観光を理解することによって自己表現、他者理解ができる。(専門的学習成果①②③④⑤に関連)																
	(3)	時刻表などの読み取りを理解し、習得した専門知識や技能を活用し問題解決に向け行動できる。(専門的学習成果④⑤⑥⑦に関連)																
授業概要	旅行会社のプランナーとして、JRや航空機等を利用して、顧客に最適な旅行プランの作成、併せて宿泊、定期観光バス、レンタカーなどの素材を利用して付加価値付与の方法を学習する。また旅行会社の添乗員として、顧客に同行する添乗員の接客サービスの流れ、旅行会社でのカウンター及びアウトセールの基本を接客と接客サービスに必要な共通ポイントを学習する。																	
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準														
	専門的 学習成果	定期試験																
		レポート	10	旅行プラン作成														
		平常点	10	受講態度														
		小テスト	30	7回実施(各回10問)														
筆記試験	50	これまでの学習内容についての学習理解をはかる。(15回目授業時)																
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (3)は専門的学習成果④⑤⑥⑦で評価を行う。																	
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名									
			『JR時刻表』2025年 9月号						交通新聞社									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名									
			授業計画のテーマに基づき、関係資料を適時配布する															
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①予習・復習を各2時間程度行うこと。 ②フィードバックとして、理解度確認テストを回収後、回答・解説を行う。																

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション / 旅行会社の業務内容及び観光ビジネスの概要	ワーク課題提出(テーマ・条件に合った国内ツアープランを作成)第3回目に案内し、第5回目に提出。	
	学習成果	観光に関する仕事について論ずることができる。		
	予習復習の内容	JR時刻表の目次に書かれている項目から、時刻表に取られている内容を把握する。		
2回	授業内容	国内旅行の基礎知識①-JR時刻表を読み取る(JR時刻表活用)		
	学習成果	JR時刻表にある地図から乗車区間の時刻を読み取ることができる。		
	予習復習の内容	JR時刻表の地図を利用して、自分の行きたい観光地への列車時刻を調べる。		
3回	授業内容	国内旅行の基礎知識②-JR時刻表を読み取る(JR時刻表活用)		
	学習成果	JR時刻表に掲載されている観光素材を読み取ることができる。		
	予習復習の内容	JR時刻表にある地図を利用して、自分が行きたい観光地への移動方法をシミュレーションする。		
4回	授業内容	国内旅行の基礎知識③-旅行日程表作成(JR利用)(JR時刻表活用)		
	学習成果	列車を利用した旅行日程表が作成できる。		
	予習復習の内容	JR時刻表にある駅構内図を利用して、列車乗り換えの時間を調べる。		
5回	授業内容	国内旅行の基礎知識④-旅行日程表作成(航空機+公共交通機関利用)		
	学習成果	航空機を利用した日程表を作成できる。		
	予習復習の内容	JR時刻表にある地図を利用して、自分が行きたい観光地への航空機プランをたてる。		
6回	授業内容	海外旅行の基礎知識-仙台空港発着路線(運航会社時刻表利用)	小テスト(所要時間の求め方)授業後半30分に実施。	
	学習成果	仙台空港発着の海外路線と時差のある国間の所要時間を説明できる。		
	予習復習の内容	Google Map等を利用して、仙台空港発着便の行先を確認する。		
7回	授業内容	国内添乗業務の基礎知識①-添乗員の役目、責任		小テスト(授業で説明した業界用語について)説明した次の回に実施。
	学習成果	添乗ガイド業務について述べることができる。		
	予習復習の内容	これまで参加した(修学)旅行の添乗員の仕事内容をレポートにまとめておく。		
8回	授業内容	国内添乗業務の基礎知識②-接客の技術、知識		
	学習成果	貸切バス、航空機を利用した添乗における接客ポイントを説明できる。		
	予習復習の内容	交通機関の遅延等によるコース変更発生時の提案を提案してみる。		
9回	授業内容	海外添乗業務の基礎知識①-出入国時のルーティーン		
	学習成果	C.I.Q.について説明し、EDカード等の記入のアドバイスができる。		
	予習復習の内容	日本帰国時の通関、検疫手続きについて調べておく。		
10回	授業内容	海外添乗業務②-準備、必要書類の把握		
	学習成果	添乗中に使用する書類の説明、変更内容を英語で述べるができる。		
	予習復習の内容	海外ホテルの部屋タイプを調べておく。		
11回	授業内容	旅行案内業務①-カウンター業務の基本		
	学習成果	カウンター業務を分類できる。		
	予習復習の内容	旅行会社のカウンターを訪ね、どんなサービスを展開しているか調べておく。		
12回	授業内容	旅行案内業務②-カウンター業務の接客		
	学習成果	接客ポイントを説明することができる。		
	予習復習の内容	旅行会社を訪れるお客さんは、旅行会社に何を求めるのか推察してみる。		
13回	授業内容	旅行案内業務③-営業セールスの基本		
	学習成果	アウトセールの必要な話法を一般化できる。		
	予習復習の内容	飛び込みセールス(新規開拓)とルートセールスを理解しておく。		
14回	授業内容	旅行案内業務④-営業セールスの販売ポイント		
	学習成果	団体セールス業務を区別し、対応することができる。		
	予習復習の内容	手配旅行と企画型手配旅行の違いを調べておく。		
15回	授業内容	旅行案内業務⑤-接客サービスポイント	筆記試験 これまでの学習内容について学習理解をはかる。	
	学習成果	接客サービスのポイントを述べるができる。		
	予習復習の内容	この授業の内容全体について整理、確認しておく。		

科目名	ブライダル実務				担当者	山 川 奈 美					
区 分	選択	2	単位	授業回数 15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業中・授業前後の時間に直接。または Classroom、Eメール (yamakawa.na@m.seiwa.ac.jp) にて行う。										
専門的 学習成果	①	挙式・披露宴で求められる行動を実践できる。									
	②	ブライダル関連商品の説明ができる。									
	③	オリジナルウエディングを考え、実践できる。									
汎用的 学習成果	(1)	身のこなし方を学び、好感の持てるマナーを実践できる。(専門的学習成果①③)									
	(2)	幅広いブライダル関連商品の知識を習得することで、社会人としてのコミュニケーション能力を養うことができる。(専門的学習成果①②③)									
授業概要	1年後期「ブライダル概論」で学んだことを活かし、履修学生の発案・実演による「オリジナルウエディング」を本学オープンキャンパス（予定）にて発表する。習った知識を実際に形にすることで、知識を定着させる。 新郎新婦、司会、音響、照明、装花、ブーケ、ブートニア、アテンドなど役割分担をし、チームワークの大切さを学び、コミュニケーション能力を高め、社会人マナーの向上にもつなげていく。 また、準備や費用、様々な要因を考えながら実践するので、希望を形にできた時の達成感と共に、机上では感じにくい「ブライダルマーケット」の部分を理解することができる。 適宜 Google ワークスペース等を使用し、快適な学習環境作りを目指す。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準							
	専門的 学習成果	定期試験									
		レポート	20	オリジナルウエディングでの自身の役割、取り組みを述べ、更に全体を見通した感想をまとめたものを評価する。							
		平常点	80	オリジナルウエディングを作り上げていく過程を評価する。							
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①③で評価を行う (2) は専門的学習成果①②③で評価を行う										
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名			
	(一財) 日本ホテル 教育センター編	『ブライダル総論』						(一財) 日本ホテル 教育センター			
	BIA (公社) 日本 ブライダル文化 振興 協会	『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』						BIA (公社) 日本 ブライダル文化振興協会			
		『ゼクシィ』									
		『Hotel Wedding』 などブライダル関連雑誌									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①オリジナルウエディングの実施に向けて各々が自身の役割をしっかりと認識し、他のメンバーと協力して作り上げていく。役割を全うするために婚礼関連情報を雑誌やインターネットを通して、情報収集し、研究する。(30時間) 授業で不足する部分を SNS などを使って情報交換や意見交換をする。(30時間) ②レポートは後期開講後に返却し、フィードバックします。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、オリジナルウエディングのテーマ、内容の検討	グループワークへの取り組み 役割への責任感をみる
	学習成果	ブライダル関連の知識を活かしてプランニングする	
	予習復習 の 内 容	オリジナルリティを發揮できる内容を考えてくる	
	授業内容	オリジナルウエディングの各係・パート分担	
2回	学習成果	仕事の内容を理解し、係を分担することができる	
	予習復習 の 内 容	それぞれの役割を細かく分析してくる	
3回	授業内容	オリジナルウエディングの各パートの作業内容の確認	
	学習成果	2回目講義の内容をパートで共有、相談し、確定させる	
	予習復習 の 内 容	文章にまとめたり、工夫して全員が共有できるようにする	
4回	授業内容	オリジナルウエディングの準備・制作①	
	学習成果	必要な物資や知識は何かなど考えながら担当係ごとに準備を進める (協力する)	
	予習復習 の 内 容	買い物や文書化することなどは復習時間に使う	
	授業内容	オリジナルウエディングの準備・制作②	
5回	学習成果	必要な物資や知識は何かなど考えながら担当係ごとに準備を進める	
	予習復習 の 内 容	各自で全体通した流れをイメージトレーニングしてみる	
6回	授業内容	オリジナルウエディングの準備・制作③	
	学習成果	必要な物資や知識は何かなど考えながら担当係ごとに準備を進める	
	予習復習 の 内 容	各自で全体通した流れをイメージトレーニングしてみる	
	授業内容	オリジナルウエディングの準備・制作④	
7回	学習成果	通し練習前にできる限り、考えられる限りのことをまとめシミュレーションする	
	予習復習 の 内 容	各自で全体通した流れをイメージトレーニングしてみる	
8回	授業内容	オリジナルウエディング 通し練習①	
	学習成果	4回分の授業の内容をしっかりと形にして表現してみる	
	予習復習 の 内 容	問題点を考え、改善するためにアイデアをまとめておく	
	授業内容	オリジナルウエディング 反省・調整	
9回	学習成果	全員で問題点を考え、改善してよりよいオリジナルウエディングを目指す	
	予習復習 の 内 容	次の授業までに改善点をまとめ、すぐに実行できるように準備しておく	
10回	授業内容	オリジナルウエディング 通し練習②	
	学習成果	声を出す、実際に動く、動線の確認、など現場でしかできないことを学ぶ	
	予習復習 の 内 容	各パートごとに反省をまとめ、次回に活かす	
	授業内容	オリジナルウエディング 装飾・装花レクチャー	
11回	学習成果	どのように何を飾るのが効果的かを考え、実行する	
	予習復習 の 内 容	1年の知識を復習しつつ、全体の装飾イメージを考えてくる	
12回	授業内容	オリジナルウエディング 装花制作	
	学習成果	大きな装花やブーケなどを作成 担当に分けても一斉に作ることで全員が別のものも作れるようにする	
	予習復習 の 内 容	自分の作ったもの以外も作れるように復習する	
13回	授業内容	オリジナルウエディング リハーサル	
	学習成果	本番同様の緊張感の中でいかに平常心で実行できるか、を体験する	
	予習復習 の 内 容	衣装なども着けるので、保管やケアの大切さを学ぶ	
	授業内容	オリジナルウエディング リハーサル、本番	
14回	学習成果	役取り通りにできるかどうか、しっかりと検証し、実行する	
	予習復習 の 内 容	後片付けまでして完了であることを学ぶ	
15回	授業内容	オリジナルウエディング レポートによるまとめ	レポート提出
	学習成果	自身の役割と全体像をしっかりと検証する 良いところ悪いところ、両方から学ぶ	
	予習復習 の 内 容	オリジナルウエディングの反省点をまとめる	

科目名	ゲストサービス演習				担当者	狩 野 猛						
区 分	選 択	1	単 位	授業回数	15	回	授 業 形 態	演 習	学 年	2 年	開 講 期	前 期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業中・授業前後の時間以外はオフィスアワー。										
専門的 学習成果	①	ホスピタリティマインド豊かな社会人として基礎的マナーを身につけることができる。										
	②	接客サービスの対応の基本を身につけることができる。										
	③	接客マナーの基本を習得できる。										
	④	「サービスマインド」と「セールスマインド」を理解することができる										
汎用的 学習成果	(1)	接客での「もてなす心」「思いやり」の大切さを理解できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	接客対応の基本を理解できる。(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(3)	社会人としての挨拶・返事・お辞儀の仕方の大切さを身につけることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	ビジネスの世界では「人・物・金・情報」が大切だといわれている。企業や店が成り立つのはこの四つの要素がうまくかみ合っており、お客様に満足していただけるからである。特に人によるサービスという目に見えない商品によりお客様に満足していただくゲストサービスの基礎を学び、実務訓練を通して接客業務の基本である「ホスピタリティマインド」豊かな基礎的マナーを身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	80	第15回目の授業後半に筆記試験を行い講義内容の理解について評価を行う。								
	平常点	20	実技への取り組み、授業態度について評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	キャリア総研	『接客サービス基本テキスト』				日本能率協会						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを使用し授業を進めるため、必ずテキストを準備のうえ受講すること。予習・復習等の時間外学習を週に1～2時間程度行うこと。事前学習として、テキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業の内容について振り返りを行い、疑問なところがあれば調べるなどして学習内容の理解を深めること。 ②授業の最後にその都度小テスト(理解度チェック)を行い、問題・解答についての解説を行うことにより、結果のフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	接客サービスの基本を理解し概要を説明できる。	
	予習復習の内容	ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	接客の基本はお客様満足	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	CS(顧客満足)の大切さを理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「お客様満足」とは何か理解を深める。	
3回	授業内容	真の接客をめざす	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	接客の心得と、接客に求められていることを理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、真の「接客とは何か」ということについて理解を深める。	
4回	授業内容	就業中のマナーと接客時のマナー	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	仕事の基本と就業中のマナーについて理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、就業中のマナーと接客時のマナーについて理解を深める。	
5回	授業内容	好印象を与えるポイント	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	身ぶりや表情、立ち居振る舞いの大切さを理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、良い印象を与えるにはどうすれば良いか考える。	
6回	授業内容	接客の言葉遣い	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	少しの心配りから感じの良い言葉遣いができる。	
	予習復習の内容	接客10大用語をマスターすることと、正しい敬語の使い方を考える。	
7回	授業内容	感じの良い話し方と聞き方	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	良い人間関係を生むための話し方が理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、相手に感じよく話すことについて理解を深める。	
8回	授業内容	接客対応の基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	接客サービスの流れに沿った対応ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、さまざまなお客様の対応について理解を深める。	
9回	授業内容	セールストークの基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	状況に応じたセールストークについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、状況に応じたセールストークの理解を深める。	
10回	授業内容	電話対応の基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	感じの良い電話の受け方とかけ方ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、友人同士での電話で理解を深める。	
11回	授業内容	ユニバーサルサービスの基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	障害を持ったお客様やお年寄りに対するの対応について理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、少しの思いやりと気配りでできることを理解する。	
12回	授業内容	クレームへの対応の基本	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	クレームへの対応の態度と言葉づかいについて理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、クレームの解決の仕方の理解を深める。	
13回	授業内容	お客さま心理の理解	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	基本的欲求と購買心理について理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、心理的ステップを理解する。	
14回	授業内容	顧客満足	授業の後半に理解度チェック
	学習成果	「顧客」とは、「顧客満足」とは何か、何故大切なかが理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、顧客について理解する。	
15回	授業内容	コスト感覚とお金の動き	筆記試験を実施
	学習成果	仕事とお金の動き(売り上げ・コスト・利益)について理解できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返ると同時に、自分の仕事の結果について理解を深める。	

科目名	ブライダルフラワービジネスⅡ				担当者	山 川 奈 美						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30 <th>時間</th>	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		毎授業毎に配布する小テストにて質問等を受付ける。もしくは授業中や授業後に直接。(内容によるので必要に応じて個別にメール可、アドレス: yamakawa.na@seiwa.ac.jp)										
専門的 学習成果	①	1年生で習得した知識・技術を確認し、更に発展させることができる。										
	②	ブライダルフラワービジネス検定2級レベルの知識を身につけ、応用することができる。										
	③	フラワーデザインとブライダルの関わりを知り、プランニングまでを行うことができる。										
	④	ブライダルの装花に関する知識を用いて、他者に説明することができる。										
	⑤	商業ラッピング検定3級受検レベルの技術を持って作業を行うことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	1年生で習得した知識を更に向上させ、ブライダルに関する装花について説明したり、実際にプランニングができる(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(2)	ブライダルフラワービジネス検定2級レベルの知識を身につけ、フラワーデザインに関する専門的な説明をすることができる(専門的学習成果①②③④に関連)										
	(3)	商業ラッピング検定3級受検に向けて技術を高め、サービス業に使われる技術を応用することができる(専門的学習成果⑤に関連)										
授業概要		1年生での知識、技術を発展させ、ブライダルにおけるフラワーデザインの分野を具体的に学習する。グループ作業を通じて実際に会場の装花を作成し、実技試験ではブーケを作成する。会場内装花やブーケを作成することによって、イメージが作りやすくなったところで、プランニング(チャペル装飾、ブーケ、会場装飾など)を行う。単位取得者にはブライダルフラワービジネス2級の検定の受検資格付与。ブライダルフラワービジネス検定は3、2級を授業内で受検可。(2級は3級取得者のみ受検可) 商業ラッピング検定は希望者多数で校内受検可。(詳細は授業で説明) 机上の学習だけでなく、個々のプレゼン能力やグループ作業を通じた協働の学習にも配慮する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		筆記試験	40	講義内容全般、各講義内容に基づいた小テストから出題する筆記試験を第14回目の講義内で行う。(60分)								
		作品評価	40	講義内で2回練習したラウンドのブーケを、3回目で実技試験を行う。(60分、予定では第10回の講義)								
平常点	20	講義中の態度、取り組み姿勢(準備物含む)、小テストの理解度・提出状況、などにより総合的に評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)、(2)、(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①、②、③、④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①、②、③、④により評価を行う。 (3)は専門的学習成果⑤により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
	商業ラッピング協会テキスト委員会	『ラッピングテキスト3級』		(社) 商業ラッピング協会								
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
	栗林 登	『全国フラワーデザイン検定テキスト』		NPO 法人フラワーデザイン普及協会								
		ブライダル関連雑誌(ゼクシィ、ヴァンサンカンウェディングなど)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①ブライダルフラワービジネスⅠを履修した学生が受講できるものなので、1年時の内容を復習して準備しておく。引き続き刃物を扱う授業なので注意が必要。花代、資材、テキスト類の費用別途あり。(1年生履修時に使用したものがあればそのまま使用 紛失したものは再度購入) 授業計画に従って、予習復習を計4時間程行うこと。予習は基本的にテキストを読むこと、講義内容はしっかり聴き、その都度行う小テストにて理解を確認する。小テストは返却するので必ず事後学習(復習)に努めること。小テストは事後学習用に配布する(次回講義にて回収)。 ②フィードバックとして全体評価をみながら小テストの解説を行う。小テストには質疑応答の場を設けるので積極的に活用し、疑問や不明なことをそのままにしないようにする。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	1年生時の復習 ラッピング(復習、続き)		小テスト(各回共に、講義内容に関して)
	学習成果	前年度の学習をまとめて復習し、今年度の学習へとつなげて知識を発展させることができる		
	予習復習の内容	前年度の小テスト見直し ラッピングテキストを読む		
2回	授業内容	ラッピング(斜め包み、リボンのかけ方、蝶結び)		小テスト
	学習成果	基本のラッピングをきちんと行い、必要に応じたラッピングを施すことができる		
	予習復習の内容	テキストの読み込み ラッピングの苦手な箇所を練習		
3回	授業内容	ラッピング(斜め包み、リボンの復習、のしなど)		小テスト
	学習成果	のしなどの基本知識を用いて、商品を提案することができる		
	予習復習の内容	テキストの読み込み ラッピングの苦手な箇所を練習 チャペルの装飾(テキスト)復習		
4回	授業内容	チャペルの装飾(装花含む) 会場の装花、ブーケなど		小テスト
	学習成果	チャペルの装花に関連した流れで、全体を意識した内容を花の視点から論じることができる		
	予習復習の内容	チャペルについて(1年時)テキストの先の内容も話に合わせて取り入れるので先まで読み込む		
5回	授業内容	ドレスの形や色、それに合わせるブーケについて		小テスト
	学習成果	どんなドレスにどんなブーケを合わせるよいか、基本概念を念頭にお客様に提案できる		
	予習復習の内容	テキストはもちろん、雑誌などでドレスのコーディネートを見つけてくる		
6回	授業内容	(実技) キャンドルとケーキの装花を作成する(グループ作業)		小テスト
	学習成果	実際の会場装花を順番に作成することにより、大きさや配置などが予測でき、コーディネートに応用することができる		
	予習復習の内容	会場全体のテキスト部分をしっかり読み込んでくる		
7回	授業内容	(実技) メインテーブルと卓上の装花を作成する(グループ作業)		小テスト
	学習成果	第6回と併せて、更にコーディネートへと応用できる		
	予習復習の内容	会場全体のテキスト部分をしっかり読み込んでくる		
8回	授業内容	(実技) ラウンドブーケの作成(1回目)		小テスト
	学習成果	最もボリュームなブーケを作成することができる		
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する		
9回	授業内容	(実技) ラウンドブーケの作成(2回目)		小テスト
	学習成果	実技試験のために復習、再確認、質問などより完成度をあげることができる		
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する		
10回	授業内容	(実技) ラウンドブーケの作成 実技試験		小テスト
	学習成果	時間内に作品を仕上げることができる		
	予習復習の内容	家に持ち帰り、練習する ブーケとドレスのマッチングをシミュレーションする		
11回	授業内容	(実技) 季節を感じるアレンジメントとしてクリスマスのアレンジメントを作成		小テスト
	学習成果	フラワーデザインにおいても重要なクリスマスをテーマに商業的な視点で議論できる		
	予習復習の内容	クリスマスだけでなく、季節を取り入れた場合を考えてみる 会場コーディネートのシミュレーション		
12回	授業内容	実際の結婚式を想定して、プランニングする(レポート提出)		第13回の講義までに、花に着目した結婚式のコーディネートレポートにまとめて提出 詳細は講義内で説明
	学習成果	自分の理想の結婚式を花目線と考えることにより、お客様へ対し提案することができる		
	予習復習の内容	雑誌などを利用し、自分の理想を形にする 休み明けに試験前の質問ができるよう1年時も含めて復習		
13回	授業内容	(実技) コサージュの作成		小テスト
	学習成果	ワイヤリングの技術を知り、どのような仕組みで作られているのかを説明することができる		
	予習復習の内容	フラワーデザインの歴史を復習 コサージュとブートニアの違い 学科試験のための復習		
14回	授業内容	学科試験(60分)		学科試験(小テストの内容とを講義内容全般から)
	学習成果	今までの学習内容を総括し、基礎からブライダルまで説明することができる		
	予習復習の内容	1年生の範囲も含めて小テストを中心に全てを復習する		
15回	授業内容	検定試験(希望者のみ)、学科試験・実技試験 再試験		2つの試験の成績次第でレポート提出あり(内容は必要に応じて対応するため未定)
	学習成果	ブライダルフラワービジネス2又は3級の資格を取得できる 1回目の試験で不合格者のみ学科、実技共に再試験を受けることができる		
	予習復習の内容	学科試験の結果を発表するので全員出席 不合格の場合に備え、復習しておく		

科目名	スポーツ社会学				担当者	高 岡 大 学						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	望ましいスポーツのあり方について説明できる。										
	②	現代スポーツの諸問題について説明できる。										
	③	スポーツ指導や運営に興味を持ち、意欲的に取組むことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたスポーツ社会学に関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	スポーツ社会学を学ぶことでスポーツをめぐる現状と今後の課題を思考し、自身とこれからのスポーツの関わりに活かすことができる（専門的学習成果①②③④関連）。										
	(3)	スポーツ社会学に関わる専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。										
授業概要	スポーツと社会との関係から、スポーツの意義、役割を解説する。スポーツの多様性、スポーツ振興のあり方について解説する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		筆記試験	60	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
		小テスト	30	授業で実施する。60%以上の得点を合格点とする。								
		平常点	10	授業への意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	日本スポーツ協会		『リファレンスブック』						日本スポーツ協会			
	日本スポーツ協会		『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』						日本スポーツ協会			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	スポーツの価値について	
	学習成果	スポーツ社会学の概要について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	
2回	授業内容	社会におけるスポーツの価値について	
	学習成果	スポーツの概念とスポーツの歴史の発展について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
3回	授業内容	文化としてのスポーツ	
	学習成果	スポーツの文化的特性、スポーツ文化の内容、スポーツマンシップとフェアプレーについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
4回	授業内容	スポーツ宣言日本とオリンピックにおけるスポーツの意義と価値	
	学習成果	現代社会とスポーツ、スポーツの産業化、地域生活とスポーツについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
5回	授業内容	スポーツの価値を守るスポーツ権	
	学習成果	グローバルゼーションと日本のスポーツ、諸外国と日本のスポーツプロモーションについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
6回	授業内容	スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス 暴力・ハラスメントの根絶	
	学習成果	現代の諸問題とジュニア期のスポーツと運動発達について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
7回	授業内容	スポーツのインテグリティ	
	学習成果	望ましいジュニア期のスポーツ指導について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
8回	授業内容	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任	
	学習成果	目指すジュニアスポーツ指導員像について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
9回	授業内容	スポーツ仲裁、スポーツ倫理	
	学習成果	運動と老化、運動プログラムについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
10回	授業内容	性的マイノリティ、多様な文化背景とスポーツ	
	学習成果	体格と身体組成など女性の体力の特徴について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
11回	授業内容	女性とスポーツ	
	学習成果	妊娠・出産・育児とスポーツなど、女性のライフスタイルとスポーツ関係について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
12回	授業内容	スポーツ組織のマネジメント	
	学習成果	スポーツ行動における性差など、女性の心理的特徴について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
13回	授業内容	スポーツ組織の特性	
	学習成果	女性の特徴に応じたスポーツプログラムについて理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
14回	授業内容	障害者とスポーツ	
	学習成果	障害者のスポーツの現状と課題について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
15回	授業内容	スポーツをめぐる現状と今後の課題	
	学習成果	これまでの学習内容について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。	
			1回～14回目の内容について筆記試験を実施する

科目名	運動障害と救急法				担当者	佐々木 秀 将 ・ 橋 本 実						
区 分	選択	3	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	運動に関連する外傷、障害について理解し、説明できる。										
	②	発育発達段階における外傷、障害について理解し、説明できる。										
	③	各外傷、障害についての応急処置を学び、実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた運動障害と救急法学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する(専門的学習成果①②③に関連)。										
	(2)	運動障害の概要を学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる(専門的学習成果①②③関連)。										
	(3)	運動障害と救急法に関する運動プログラムの作成、指導に関する専門的知識を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる(専門的な学習成果①②③に関連)。										
授業概要	運動は、長期的には生活習慣病を予防する大きな効果がある反面、無理をすると重大事態に至る危険性がある。運動に関わる代表的な外傷、障害、疾患の対処法を学び、固定法、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用法を学び、実践できるようになる。具体的には、傷害評価、意識障害、頭頸部外傷、熱中症、発熱、けいれん、胸痛、腹痛などの基本的な理解や対処法について解説し、外傷の応急処置、テーピング、および心肺蘇生法を実際に習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		筆記試験	50	運動障害と救急法の基本的な理解について学期の途中で筆記試験を行い評価する。								
		レポート	30	9回実施し、内容を理解できているかを観点に評価を行う。								
	平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (3)は専門的学習成果①～③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』					日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』					日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』					南江堂					
	日本フィットネス協会	『GPIのためのフィットネス基礎理論』					日本フィットネス協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 理論と実技を行うので、各自A4サイズのファイルと運動の出来る服装・シューズを各自準備すること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後にコメントを記入し返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1・2回	授業内容	スポーツと健康 運動中止の判定方法、メディカルチェックについて	レポート「内科的な急性障害、慢性障害と処置方法」3回目で配布し、7回目で回収する。
	学習成果	運動中止の判定方法を理解し、説明できる。	
3・4回	授業内容	内科的な急性障害 突然死、熱中症について	
	学習成果	熱中症に対する基本的な応急処置を学び、実践できる。	
5・6回	授業内容	過換気症候群、運動誘発性喘息、運動時胸腹部痛、運動誘発アナフィラキシーについて	
	学習成果	過換気症候群に対する基本的な応急処置を学び、実践できる。	
7・8回	授業内容	内科的な慢性障害 貧血、オーバートレーニング症候群	レポート「救急蘇生法について」7回目で配布し、13回目で回収する。
	学習成果	内科的な慢性障害である貧血、オーバートレーニング症候群の予防、改善法を学び、説明できる。	
9・10回	授業内容	救急蘇生法	
	学習成果	成人、子どもの救急蘇生法の内容を学び、実践できる。	
11・12回	授業内容	女性アスリートの障害、スポーツによる精神障害 ジュニア期のスポーツ医学	
	学習成果	女性アスリートの障害、スポーツによる精神障害の内容を学び、説明できる。	
13・14回	授業内容	創傷処置法、止血法、ファーストエイド、搬送法	レポート「RICE処置、固定法について」13回目で配布し、19回目で回収する。
	学習成果	創傷に対する基本的な応急処置を学び、止血法を実践できる。	
15・16回	授業内容	整形外科的障害と外科的救急処置 RICE処置、固定法	
	学習成果	RICE処置、三角巾、包帯を使用した固定法を学び、実践できる。	
17・18回	授業内容	頭頸部傷害、肩関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	頭頸部傷害の内容や基本的な応急処置を学び、脳震盪チェックを実践できる。	
19・20回	授業内容	手関節周辺、肘関節周辺のスポーツ障害とテーピング	レポート「スポーツ障害とテーピングについて」19回目で配布し、29回目で回収する。
	学習成果	上肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
21・22回	授業内容	体幹部、腰部周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	上肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
23・24回	授業内容	膝関節周辺、股関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	下肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
25・26回	授業内容	足関節周辺のスポーツ障害とテーピング	
	学習成果	下肢のスポーツ障害の内容を理解し、予防、改善のためのテーピングを実践できる。	
27・28回	授業内容	アンチ・ドーピング	
	学習成果	アンチ・ドーピングについて理解し、説明できる。	
29・30回	授業内容	まとめ 実技試験・筆記試験	
	学習成果	テーピング法を習得し、運動障害と救急法の重点的な内容を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	

科目名	運動処方演習				担当者	高 岡 章 ・ 及 川 佳 澄						
区 分	選択	3	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法	takama.akira@seiwa.ac.jp											
質問等の受付方法	オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	有酸素性および無酸素性体力を表す指標とその測定法を理解させ、それらのフィールド・テストについての測定ができる。										
	②	体脂肪量の測定原理および測定方法（皮脂厚法、生体電気インピーダンス法など）を理解し、測定ができる。										
	③	新体力テストの各項目と体力要素との関連を理解し、実際に測定・評価ができる。										
	④	体力テストの結果評価方法（基本的な統計量（統計値）、体力プロフィールの作成方法など）を理解し、健康・体力づくりやトレーニングに活用できる。										
	⑤	健康増進のための運動効果と運動不足が健康に与える影響を理解し、説明できる。										
	⑥	トレーニングの原則と効果について各原則の重要性を説明し、特にオーバーロードの原則に則ったプログラムについて理解し、説明できる。										
	⑦	健康づくりのための運動プログラム作成上のポイント（身体活動ピラミッド）について説明し、運動強度、時間、頻度の観点から理解し、説明できる。										
	⑧	有酸素性作業能力、筋力、平衡性、柔軟性の向上が日常生活にどのような影響を与えるのかを理解し、説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた健康づくりと運動プログラムに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。										
	(2)	身体の仕組みを学ぶことで適切な生活習慣、体力トレーニングの方法を思考し、自身の生活の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。										
	(3)	健康づくりに関する運動プログラムの作成、指導に関する専門的知識を身に付け、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦⑧に関連）。										
授業概要	ジュニアスポーツ指導で基礎体力や競技能力を向上させたり、健康づくりのための運動指導を効果的に行ったりするためには指導対象者の体力や運動能力を十分に理解した上で指導を行う必要がある。本科目では、体力や運動能力の特徴、体力測定の基本的な考え方について学ぶとともに、体力や運動能力の測定方法の実際について学習する。新体力テストの正しい実施方法を習得し、得られた測定結果を分析、評価し、運動・スポーツ指導での活用の仕方について習得する。さらに個々の健康や体力の維持・向上を目的とした運動プログラムを作成するに当たり、様々な学問的分野から身体の機能を考慮した上で実際の動きを観察し、その時に最善のアドバイスや運動を提供できる知識を身に付けるものとする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	70	内容を理解できているかを観点に評価を行う。								
		平常点	30	授業への意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～⑧で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名					書名	出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名					書名	出版社名					
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』				日本スポーツ協会						
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』				日本スポーツ協会						
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂						
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会						
	日本フィットネス協会	『ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会						
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会						
日本フィットネス協会	『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説を行う。											

			授業計画	学習成果の評価
1・2回	授業内容	体脂肪率の測定方法 形態計測	レポート「体力プロフィールの作成」 2回目に配布、12回目に回収	
	学習成果	体脂肪率の測定方法、形態計測について理解し、説明できる。		
3・4回	予習復習の内容	体脂肪率の測定方法について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	新体力テスト 成人を対象とした測定	
	授業内容	成人を対象とした新体力テストの測定方法について理解し、説明できる。		
5・6回	予習復習の内容	新体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	新体力テスト 高齢者を対象とした測定	
	授業内容	高齢者を対象とした新体力テストの測定方法について理解し、説明できる。		
7・8回	予習復習の内容	新体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	新体力テストの総合評価 基本的な統計法 トレーニングプログラムの作成	
	授業内容	体力テストの基本的な統計法について理解し、説明できる。		
9・10回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	無酸素性作業能力を表す指標と測定法、幼児、高齢者を対象とした各種体力測定	
	授業内容	無酸素性作業能力の測定や幼児、高齢者を対象とした各種体力測定について理解し、説明できる。		
	学習成果	無酸素性作業能力の測定や幼児、高齢者を対象とした各種体力測定について理解し、説明できる。		
11・12回	予習復習の内容	高齢者体力テストについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	有酸素性作業能力の測定（運動負荷試験による最大酸素摂取量の測定）	
	授業内容	運動負荷試験による最大酸素摂取量の測定法を理解し、説明できる。		
13・14回	予習復習の内容	最大酸素摂取量の測定について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	健康づくりのための運動指針2006、2013 エネルギー消費量の測定原理と測定方法	
	授業内容	健康づくりのための運動指針2006、2013について理解し説明できる。		
15・16回	予習復習の内容	健康づくりのための運動指針2006、2013について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	健康づくりのためのトレーニングの原則 筋力・瞬発力の測定、評価	
	授業内容	筋力・瞬発力の測定方法や健康づくりのためのトレーニングの原則について理解し説明できる。		
17・18回	予習復習の内容	健康づくりのためのトレーニングの原則について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	運動プログラム作成上のポイント 健康づくり運動の強度測定	
	授業内容	運動プログラム作成上のポイントについて理解し、説明できる。		
19・20回	予習復習の内容	運動プログラム作成上のポイントについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	健康づくりと運動プログラム作成の基礎 血圧・肺活量の測定	
	授業内容	健康づくりと運動プログラム作成の基礎について理解し、説明できる。		
21・22回	予習復習の内容	健康づくりと運動プログラム作成の基礎について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	ウォーミングアップとクーリングダウン 全身反応時間の測定	
	授業内容	ウォーミングアップとクーリングダウンについて理解し、説明できる。		
23・24回	予習復習の内容	ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	有酸素性運動とその効果	
	授業内容	有酸素運動とその効果について理解し、説明できる。		
25・26回	予習復習の内容	有酸素運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	レジスタンス運動とその効果	
	授業内容	レジスタンス運動とその効果について理解し、説明できる。		
27・28回	予習復習の内容	レジスタンス運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	ストレッチングの効果と柔軟性の測定、評価と改善方法	
	授業内容	柔軟性の測定、評価と改善方法について理解し、説明できる。		
29・30回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深める。	年齢区分に適したトレーニングとコーチング トレーニングの効果	
	授業内容	年齢区分に適したトレーニング内容とその効果について説明できる。		
	予習復習の内容	有酸素運動とその効果について調べておく。学習内容を振り返り、理解を深める。	レポート「柔軟性、アライメントの測定評価とトレーニング方法」 27回目に配布、30回目に回収	

科目名	トレーニング実技					担当者	高 間 章					
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30							
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	発達、成熟の過程での身体活動・運動の重要性を説明できる。										
	②	メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームといった健康問題に対して身体活動・運動の有効性を説明できる。										
	③	アيسブレイクやコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。										
	④	見学を通して健康づくりの現場の理解を深め、施設の概要や運動の内容を説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けた健康づくりの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	健康づくりに関わる団体、企業の理解を深めて、自身の進路活動の問題解決に活かすことができる（専門的学習成果④に関連）。										
	(3)	健康づくりの指導法を理解し、専門的知識や技能を身につけ、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④に関連）。										
授業概要	人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活、高齢者の健康について講義を行う。また健康支援・介護予防の指導に必要な知識と指導技術、特にアيسブレイクやコミュニケーションスキルについて、講義、実技、実習の学習形態を通して教授する。学内の健康づくり教室やフィットネスクラブ、デイサービスセンターの見学体験を通じて健康づくりの現場の理解を深めて、現代社会の健康問題の考察や自身の将来の職業選択に役立てる。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。								
		実習評価	40	実習先の指導者からの評価シートをもとに評価を行う。								
		平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』					日本スポーツ協会					
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』					日本スポーツ協会					
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』					南江堂					
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』					日本フィットネス協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	授業計画とトレーニングの運営について		レポート課題「アيسブレイク、コミュニケーションゲームの指導案」第5回で配布、第7回で回収
	学習成果	適切なトレーニング機器や環境、リスクマネジメントを理解し、実践できる。		
予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。			
2回	授業内容	上肢の機能解剖とトレーニング		
	学習成果	上肢の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、上肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。			
3回	授業内容	上肢の機能解剖とトレーニング		
	学習成果	上肢の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、上肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。			
4回	授業内容	脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニング		
	学習成果	脊柱と胸郭の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。			
5回	授業内容	脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニング		
	学習成果	脊柱と胸郭の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、脊柱と胸郭の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。			
6回	授業内容	下肢の機能解剖とトレーニング		
	学習成果	下肢の機能解剖（主に骨・関節）を理解し、トレーニングを実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、下肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。			
7回	授業内容	下肢の機能解剖とトレーニング		レポート「実習報告書」第6回で配布、第9回で提出
	学習成果	下肢の機能解剖（主に筋肉・神経）を理解し、トレーニングを実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、下肢の機能解剖とトレーニングについて理解を深める。			
8回	授業内容	バイオメカニクスの基礎理論とスポーツ動作		
	学習成果	バイオメカニクスの基礎理論を理解し、身体活動・トレーニングに応用、実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、バイオメカニクスの基礎理論の理解を深める。			
9回	授業内容	スポーツ動作とトレーニング動作のバイオメカニクス		
	学習成果	トレーニング動作のバイオメカニクス理論を理解し、実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、トレーニング動作のバイオメカニクス理論の理解を深める。			
10回	授業内容	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際		
	学習成果	ウォーミングアップとクールダウンの目的と方法を正しく理解し実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ウォーミングアップとクールダウンの理解を深める。			
11回	授業内容	筋力トレーニングの実際 プログラミングとコーチング		
	学習成果	マシン、フリーウエイト等を利用した筋力アップのためのトレーニングを理解し、実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、筋力を高める方法の理解を深める。			
12回	授業内容	パワー向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング		
	学習成果	パワー向上のためのトレーニングを理解し、実践できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、パワーを高める方法の理解を深める。			
13回	授業内容	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング		レポート「実習報告書」第12回で配布、第15回で提出
	学習成果	フィットネスクラブを見学し、運動プログラムやレッスン内容を理解し説明できる。		
予習復習の内容	事前に実習の適切な準備を行い、学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。			
14回	授業内容	スピード向上トレーニングの実際 プログラミングとコーチング		
	学習成果	実習での学習内容を振り返り、実習レポートを作成する。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、次回の実習の準備を行う。			
15回	授業内容	指導実践		
	学習成果	実習を振り返り、実習レポートを発表できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、ジュニアスポーツについて理解を深める。			

科目名	コーチング実習Ⅲ（健康スポーツ）					担当者	濱谷 祐子・高間 章					
区分	選択	2	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	安全で効果的な運動プログラムを作成する。										
	②	健康スポーツ指導の理論、指導者の心構えを習得する。										
	③	健康スポーツ指導に必要なエアロビックエクササイズの指導法を習得する。										
	④	履修者や地域の方への実技指導を通してコミュニケーション能力を向上させる。										
	⑤	4泳法と補助法を習得し、実践できる。										
	⑥	水中ウォーキング、水中レジスタンストレーニングなどの水中運動を体験し、そのプログラミング法を習得する。										
	⑦	水の特性と水泳・水中運動の効果を理解する。										
汎用的 学習成果	(1)	健康スポーツに関する学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）。										
	(2)	グループで協力して健康スポーツ指導を経験することから、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果③④に関連）。										
	(3)	健康スポーツ指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から、地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果①②③④⑤⑥⑦に関連）。										
授業概要	健康体力づくりの運動であるフィットネスエクササイズについて理解し、安全で効果的な運動プログラムを構成する。水泳・水中運動、エアロビックダンスプログラム、筋力トレーニング、ストレッチングの指導法、指導上の理論、安全管理、指導者としての心構えなどを習得する。学んだことを活かして授業で高齢者に健康づくり運動の指導を実践し、指導力を身につける。さらに健康運動実践指導者、GFIの資格を取得できる実技指導能力を養成する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		平常点	50	取組・意欲・態度により評価する								
		実技試験	25	指導法の試験や、地域の方へのフィットネス指導の内容から評価する								
	レポート	25	授業の感想カードの内容により評価する									
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果①～⑦で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名						出版社名				
	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』						日本スポーツ協会				
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』						日本スポーツ協会				
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』						南江堂				
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』						日本フィットネス協会				
	日本フィットネス協会	『ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会				
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会				
日本フィットネス協会	『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』						日本フィットネス協会					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。②毎回の授業で記入する感想カードの提出後は担当教員が確認して、フィードバックを行う。											

	授業計画		学習成果の評価		授業計画		学習成果の評価	
	授業内容	授業の概要と進め方の説明、フィットネス指導資格の理解	授業内容から学んだことや気づいたことを感想シートに記入し、提出する。	授業内容	授業の概要と進め方の説明、資格試験の練習計画	授業内容から学んだことや気づいたことを感想シートに記入し、提出する。		
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、フィットネス指導資格の理解	授業内容から学んだことや気づいたことを感想シートに記入し、提出する。	16回	授業内容	授業の概要と進め方の説明、資格試験の練習計画	授業内容から学んだことや気づいたことを感想シートに記入し、提出する。	
	学習成果	授業の概要と進め方について理解し、指導資格について説明できる。			学習成果	後期の授業の概要と進め方について理解し、指導資格について説明できる。		
	予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。		
2回	授業内容	水中レジスタンストレーニングの理論 健康運動実践指導者試験		17回	授業内容	介護予防体操指導の実践方法について		
	学習成果	水中レジスタンストレーニングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。			学習成果	介護予防体操の指導法を習得する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
3回	授業内容	水中レジスタンストレーニングの実際 健康運動実践指導者試験		18回	授業内容	介護予防体操の指導練習		
	学習成果	水中レジスタンストレーニングの各種目の動作の指導方法を理解し、習得する。			学習成果	介護予防体操を練習し、指導法を習得する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
4回	授業内容	水中ウォーキングの理論 健康運動実践指導者試験		19回	授業内容	介護予防体操の指導実践		
	学習成果	水中ウォーキングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。			学習成果	地域向けの健康教室を開催し、介護予防体操の指導実践を行う。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	健康教室の準備を行い、指導を振り返り、反省点をまとめる。		
5回	授業内容	水中ウォーキングの実際 健康運動実践指導者試験		20回	授業内容	レジスタンストレーニングの理論 健康運動実践指導者試験		
	学習成果	水中ウォーキングの指導方法を理解し、習得する。			学習成果	レジスタンストレーニングの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
6回	授業内容	水中エアロビックの理論と実際		21回	授業内容	レジスタンストレーニングの試験内容を理解し、適切な指導方法を理解し、習得する。		
	学習成果	水中エアロビックの基本動作や効果について説明できる。			学習成果	レジスタンストレーニングの各種目の動作の指導方法を理解し、習得する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
7回	授業内容	水泳の浮き身、呼吸、キックの基本		22回	授業内容	エアロビックダンスの理論 健康運動実践指導者試験		
	学習成果	浮き身や呼吸方法、キックの基本動作について説明できる。			学習成果	エアロビックダンスの試験内容を理解し、適切な指導内容を理解する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種技術を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
8回	授業内容	クロール 基本的な練習方法		23回	授業内容	エアロビックダンスの実際 健康運動実践指導者試験		
	学習成果	クロールの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	エアロビックダンスの指導方法を理解し、習得する。		
	予習復習の内容	クロールの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
9回	授業内容	背泳ぎ 基本的な練習方法		24回	授業内容	ファンシリアーショナルスキル		
	学習成果	背泳ぎの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	グループに対してファンシリアーショナルスキルを実践し、適切な指導法を習得する。		
	予習復習の内容	背泳ぎの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
10回	授業内容	平泳ぎ 基本的な練習方法		25回	授業内容	指導者のセルフマネジメント		
	学習成果	平泳ぎの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	指導者に必要なセルフマネジメントを理解し説明できる。		
	予習復習の内容	平泳ぎの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、セルフマネジメント法を習得する。		
11回	授業内容	バタフライ 基本的な練習方法		26回	授業内容	エアロビックダンスのプログラミング		
	学習成果	バタフライの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	メインエクササイズのアップ、キープ、ダウンの強度調節を理解し、プログラミングを習得する。		
	予習復習の内容	バタフライの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
12回	授業内容	安全管理・着衣泳・実技試験		27回	授業内容	エアロビックダンスのプログラミングの実際 プログラム作成		
	学習成果	クロールの特性や練習方法を説明できる。			学習成果	運動強度を上げる3分間のプログラムを作成する。		
	予習復習の内容	クロールの泳法について理解を深める。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
13回	授業内容	介護予防体操指導の実践方法について ストレッチング運動とレジスタンス運動		28回	授業内容	エアロビックダンス指導の実際 キューイング指導		
	学習成果	介護予防体操の指導法を習得する。			学習成果	見本となる適切な動作を身につけ、作成したプログラムを多様なキューイングを使用して指導する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
14回	授業内容	介護予防体操の指導練習 ストレッチング運動とレジスタンス運動		29回	授業内容	エアロビックダンス指導の実際 指導の循環		
	学習成果	介護予防体操を練習し、指導法を習得する。			学習成果	参加者を観察し、指導の循環を用いて、適切な指導法を習得する。		
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。			予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導法を習得する。		
15回	授業内容	介護予防体操の指導実践 ストレッチング運動とレジスタンス運動		30回	授業内容	エアロビックダンス指導の評価		
	学習成果	地域向けの健康教室を開催し、介護予防体操の指導実践を行う。			学習成果	エアロビックダンス指導を振り返り、修正して再指導を行い、適切な指導法を習得する。		
	予習復習の内容	健康教室の準備を行い、指導を振り返り、反省点をまとめる。			予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。		

科目名	コーチング実習Ⅳ（ダンス）				担当者	及 川 佳 澄 ・ 高 間 章						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	ダンス運動の特性を理解し、ダンスの基礎的な動作を習得する。										
	②	ダンス指導を通してコミュニケーション能力を高める。										
	③	ダンス指導に必要な知識、技術を習得し、ダンスを指導できる。										
	④	ダンスの振付を習得し、グループで協力して学内で発表する。										
汎用的 学習成果	(1)	ダンスの学習を通して、運動に関する社会的・職業的自立に繋がる知識と技術を習得する（専門的学習成果①②③④に関連）。										
	(2)	グループで協力してダンス創作し、指導する経験から、コミュニケーション能力を高めることができる（専門的学習成果②③関連）。										
	(3)	ダンス指導の専門的知識、技術を習得し、指導する経験から地域社会のスポーツ指導に活かすことができる（専門的な学習成果②③に関連）。										
授業概要	この授業では現代的なリズムのダンスを中心に、「踊る」「創る」「見る」活動を体験し、楽しみながらダンスの基礎的能力の習得をはかることを目的とする。対象やテーマから表したいイメージをとらえ、作品を創作したりして踊ることができる。友達や子ども達の良い動きのポイントを理解して、表現や動きを評価することができると共に、互いの違いやよさを認めることができる。授業では地域の子ども達にダンスを指導する経験を、子ども達と地域や学内のイベントで発表を行う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	4回実施し、理解の程度を評価する。								
		実技試験	40	友達や子ども達への指導実践から評価する。								
	汎用的 学習成果	平常点	20	授業への意欲・態度により評価する。								
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』				日本スポーツ協会						
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト』				日本スポーツ協会						
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』				南江堂						
	日本フィットネス協会	『GFIのためのフィットネス基礎理論』				日本フィットネス協会						
	日本フィットネス協会	『GFIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会						
	日本フィットネス協会	『SEBI・SEIのためのストレッチングエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会						
	日本フィットネス協会	『REBI・REIのためのレジスタンスエクササイズ指導理論』				日本フィットネス協会						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	授業の概要と進め方の説明		ダンス指導の指導案の作成、指導の反省カードを担当教員に提出する。
	学習成果	ダンス指導を中心に授業展開することを理解し、進め方や分担といった指導計画を作成する。		
予習復習の内容	シラバスを読んで授業概要を理解しておく。学習内容を振り返り、理解を深める。			
2回	授業内容	ダンス指導 1・2フレーズ		
	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。		
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。			
3回	授業内容	ダンス指導 3・4フレーズ		
	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。		
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。			
4回	授業内容	ダンス指導 5・6フレーズ		
	学習成果	地域の児童に対してダンス指導を行う。		
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。			
5回	授業内容	ダンス指導 リハーサル指導		
	学習成果	地域イベントのリハーサル指導を行う。		
予習復習の内容	振付を習得し、ダンス指導に備える。学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。			
6回	授業内容	地域イベントでの発表		
	学習成果	児童と協力して地域イベントでダンス発表を行う。		
予習復習の内容	ダンス指導の反省をまとめる。振付を習得し、ダンス指導に備える。			
7回	授業内容	ダンス発表会の反省 学内イベントに向けての練習 1・2フレーズ メンタリング		
	学習成果	発表会を振り返り、学内イベントに向けての発表練習を行う。		
予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。			
8回	授業内容	学内イベントに向けての練習 3・4フレーズ 時代をリードするコーチング		ダンス発表について、代表者、衣装担当、練習指導担当、リハーサル担当者に役割を分担し、役割毎に計画書を作成し、担当教員に提出する。
	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。		
予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。			
9回	授業内容	学内イベントに向けての練習 5・6フレーズ 時代をリードするコーチング		
	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。		
予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。			
10回	授業内容	学内ダンス発表会に向けての児童練習指導		
	学習成果	学内発表会での共同発表を希望する児童に対してダンス指導を行う。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、指導の反省をまとめる。			
11回	授業内容	学内イベントに向けての最終練習 チームビルディング		
	学習成果	学内発表会に向けて担当教員が振付したダンスを練習し、習得する。		
予習復習の内容	ダンス練習を行い、振付を習得する。発表会の準備を行う。			
12回	授業内容	学内発表会 リハーサル		
	学習成果	学内で児童と一緒にダンス発表を行う。		
予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。			
13回	授業内容	学内発表会		
	学習成果	学内で児童と一緒にダンス発表を行う。		
予習復習の内容	発表会の感想をまとめる。ダンス練習を行い、振付を習得する。			
14回	授業内容	学内発表会の振り返り		ダンス指導を振り返り、最終レポートを作成し、提出する。
	学習成果	授業内でこれまでの指導を振り返り、反省点や改善点をまとめる。		
予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。			
15回	授業内容	学内発表会の振り返り		
	学習成果	授業内でこれまでの指導を振り返り、反省点や改善点をまとめる。		
予習復習の内容	これまでの授業内容全体について整理・確認しておくこと。			

科目名	スポーツ資格検定対策講座				担当者	高 間 章						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2年	開講期	後期集中
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		takama.akira@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。授業内容に関する質問等は毎回授業の前後で教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	これまでに学んできた知識を活用し、スポーツに関わる必要な問題に取り組むことができる。										
	②	スポーツ資格検定において活用できる知識を習得することができる。										
	③	様々な分野の問題に取り組むことで、知識技術を向上させることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	具体的な問題演習を通して、進路に向けた目標を明確にすることで、社会的・職業的自立に向けての意識が向上する。(専門的学習成果①②③に関連)。										
	(2)	ジュニア育成や生涯の健康づくりに必要とされる知識の理解を深めることができる。(専門的学習成果③に関連)。										
授業概要	当科目はスポーツ資格取得に必要な知識、用語の理解を習得することが目的のため、生涯スポーツ、健康スポーツユニットの授業を履修した者、またはスポーツ理論を理解する意欲が高いものが受講対象となる。スポーツ系の資格や検定で必要とされる知識を健康運動実践指導者の資格試験内容に沿って解説し、受講者の希望する資格と関連して展開する。授業内容は各章の説明と具体的な問題演習、解答解説を行う。出題内容の理解を通して効果的な試験対策を進める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	65	毎回の授業の最初に実施し、各回5%程度を配点する。前回の授業内容についての理解の程度を評価する。								
		まとめテスト	35	第15回目に筆記試験を行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名			出版社名							
	著者・編集者名	書名			出版社名							
参考書 参考文献	日本スポーツ協会	『リファレンスブック』			日本スポーツ協会							
	日本スポーツ協会	『公認ジュニアスポーツ指導員 専門科目テキスト』			日本スポーツ協会							
	健康・体力づくり事業財団	『健康運動実践指導者養成用テキスト』			南江堂							
	日本フィットネス協会	『GFTのためのフィットネス基礎理論』			日本フィットネス協会							
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、予習・復習等の時間外学習を週に2時間程度行うこと。事前学習としてテキストや資料をよく読むこと。事後学習として、授業内容について振り返りを行い、疑問や課題等について調べるなど学習内容の理解を深めること。 ②レポートに対するフィードバックは実施後に評価を示し、解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、スポーツ系資格試験で必要とされる一般知識について	
	学習成果	講義の進め方を踏まえて、スポーツ系資格試験における一般知識の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、内容を理解する。授業内容の理解を深める。	
	授業内容	健康づくり施策概論	
2回	学習成果	健康づくり施策概論の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
3回	授業内容	運動生理学 運動の発現と筋収縮の仕組みの理解	
	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	運動生理学 呼吸循環系の機能とトレーニングによる適応	
4回	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
5回	授業内容	運動生理学 発育発達と体力・基本的動作スキル	
	学習成果	運動生理学の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	機能的解剖学	
6回	学習成果	機能的解剖学の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
7回	授業内容	栄養摂取と運動	
	学習成果	栄養摂取と運動の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	体力測定と評価	
8回	学習成果	体力測定と評価の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
9回	授業内容	健康づくりと運動プログラム	
	学習成果	健康づくりと運動プログラムの分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	運動指導の心理学的基礎	
10回	学習成果	運動指導の心理学的基礎の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
11回	授業内容	健康づくり運動の実際 ウォームアップとクールダウン、ジョギング・ウォーキング	
	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	健康づくり運動の実際 ストレッチング、レジスタンスエクササイズ	
12回	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
13回	授業内容	健康づくり運動の実際 エアロビックス、水泳・水中運動	
	学習成果	健康づくり運動の実際の分野を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
	授業内容	模擬問題と解説	
14回	学習成果	模擬問題の内容を確認し、問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	
15回	授業内容	まとめテスト・解説	
	学習成果	まとめテストの問題に取り組み解答する事ができる	
	予習復習の内容	配布したプリントの基本事項ならびに例題を確認する。	

科目名	IT パスポート試験実践講座				担当者	水 野 篤						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール											
専門的 学習成果	①	情報処理系の資格試験の全体像と IT パスポートの位置づけについて説明できる。										
	②	IT パスポートの全体像を踏まえ、試験の意図・範囲・レベルについて説明できる。										
	③	最新の動向を踏まえ、IT パスポート試験問題の正答率を資格取得レベルに到達させる。										
汎用的 学習成果	(1)	デジタルリテラシーに関する幅広い知識を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	ストラテジ系の学びを通じて、企業等組織のステークホルダーに資する知見を獲得する。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	マネジメント系の学びを通じて、プロジェクトおよびオペレーションの効率的・効果的運営に貢献することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(4)	テクノロジー系の学びを通じて、IT とネットワークの知見を獲得し Society5.0の構築に資することができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	パーソナルコンピュータをはじめとして、タブレット端末やスマートフォン、更にはテレビ・家電製品等、ネットワークへの接続を前提とした IoT の社会化が急速に展開し、さらには、ビッグデータ、AI の駆使が促進されている。IT は人間社会の常識・哲学に衝撃を与えシンギュラリティという概念が議論される時代となった。本授業は、こうした時代の IT リテラシーの基礎をカバーした IT パスポート試験合格レベルを目指すものである。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回テストを実施し、各回分12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①2年次学生の、夏休みに行う集中講義である。オンラインを介した資料配布、小テスト、実力査定アンケートを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノート PC などを持ち込んでください。 ②小テストは原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。受講者全体の中に占める自身のポジションを確認し、かつ、誤った記憶や理解を正し、資格取得へ向上する姿勢を身に着けることを期待しています。 ③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待されますが、集中授業のため授業と授業の間に行うことは難しいことが予想されます。そのため、事前課題、事後学習を入念に行うこと。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	IT パスポート試験の概略	
	学習成果	IT パスポート試験設立の歴史的経緯・設立の意義を説明できる。	
	予習復習の内容	IT とインターネットの歴史を調べ、試験範囲に含まれる用語・概念の理解・記憶に努める。	
2回	授業内容	ストラテジ系①	
	学習成果	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。	
	予習復習の内容	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。	
3回	授業内容	ストラテジ系②	
	学習成果	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。	
	予習復習の内容	企業と法務、経営戦略、システム戦略の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。	
4回	授業内容	マネジメント系①	
	学習成果	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。	
	予習復習の内容	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。	
5回	授業内容	マネジメント系②	
	学習成果	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。	
	予習復習の内容	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。	
6回	授業内容	テクノロジー系①	
	学習成果	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の違いを指摘できる。	
	予習復習の内容	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶に努める。	
7回	授業内容	テクノロジー系②	
	学習成果	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類を的確に認識できる。	
	予習復習の内容	基礎理論、コンピューターシステム、技術要素の主要な基礎概念・用語類の理解・記憶の定着に努める。	
8回	授業内容	IT パスポート試験総合	
	学習成果	ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の基礎概念・用語類を的確に認識できる。	
	予習復習の内容	ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の基礎概念・用語類の的確な理解・記憶の定着に努める。	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	小論文応用				担当者	永野篤						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期集中
				授業時間数	16							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール										
専門的 学習成果	①	適切・妥当な小論文を作成する志向を身に付け、評価・検討することができる。										
	②	適切・妥当な小論文に求められる、観点について意識し、評価・検討することができる。										
	③	一定時間内に、適切・妥当な小論文を構成する知見・姿勢・技術を発揮することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	論理的文章に関する技術を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	小論文に必要な観点の重要性を踏まえ、論旨を展開し、自らの見解を述べ、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	一定時間内に小論文を構成し、適切な語彙・文体により表現する姿勢を発揮し、実務に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	既存の考え方を批判なく受容し、それらを自らの思考の結果として表明するのではなく、データを直視し、論理を構成し、まとまりのある見解に構成していく志向・姿勢をもつことは、社会を構成する一員としての重要な責任である。授業では、思考力とその表現の一つである文章化を、各自の認知傾向、文体力、論理性を踏まえ、一定時間に、小論文という形式で表現することを行っていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回の文章作成により、各回12.5%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①2年次学生の、夏休みを行う集中講義である。オンラインを介した資料配布等を行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持ち込んでください。 ②文章作成の準備は予復習時に行い、文章作成は原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。 ③予復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待されますが、集中授業のため授業と授業の間にすることは難しいことが予想されます。そのため、事前事後の学習を入念に行うこと。 ④紙または電子形式による辞書を携帯すること。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	適切な小論文とは何か？		課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	適切な小論文に期待されていることは何かを理解し、適切にアプローチするマインドと技術を身に付ける。		
	予習復習の内容	複数の小論文を読み、比較検討し、評価を行う。		
2回	授業内容	小論文を作成する①300文字		課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	300文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。		
	予習復習の内容	300文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。		
3回	授業内容	小論文を作成する②300文字		課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	300文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。		
	予習復習の内容	300文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。		
4回	授業内容	小論文を作成する③500文字		課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	500文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。		
	予習復習の内容	500文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。		
5回	授業内容	小論文を作成する④500文字		課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	500文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。		
	予習復習の内容	500文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。		
6回	授業内容	小論文を作成する⑤700文字		課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	700文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討ができる。		
	予習復習の内容	700文字程度の小論文を作成するための事前検討を行う。		
7回	授業内容	小論文を作成する⑥700文字		課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	700文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成し評価できる。		
	予習復習の内容	700文字程度の小論文を作成するための事前執筆を行う。		
8回	授業内容	小論文を作成する⑦1000文字		課題に基づいた文章作成を行う。
	学習成果	1000文字程度の小論文を、適切な単語・センテンス・文体で構成するための検討・作成ができる。		
	予習復習の内容	1000文字程度の小論文を作成するための事前検討・執筆準備を行う。		
9回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
10回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
11回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
12回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
13回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
14回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
15回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			

科目名	宅建士対策講座Ⅱ（法令上の制限・その他）				担当者	宮 城 伸 彦						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	e-mail: miyagi.no@seiwa.ac.jp（学籍番号、氏名必須） Classroom については初回の授業時に案内する。											
専門的 学習成果	①	宅建関連法令の基礎的な学習スキルと幅広い教養を身につけ、社会生活にいかすことができる。										
	②	宅建関連法令を学び、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を修得し、実践につなげることができる。										
	③	社会への貢献をめざして、自己啓発を続け、自他を慈しみ協働することができる。										
	④	過去問や応用問題を解くことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	宅地建物取引士試験に必要な知識と技能を修得し、実践につなげることができる。										
	(2)	宅地建物取引士試験に必要な知識と技能を修得し、賃貸不動産経営管理士試験や管理業務主任者試験に応用できる。										
授業概要	宅地建物取引士試験に合格するために必要となる様々な法令の基礎知識を吸収し、あわせて実践力も養う。本試験に合格するためのインプットの基礎固めとアウトプットの過去問演習を効率的に行っていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	72	授業内にて小テストを実施。12回実施し、各回6%の評価を行う。								
		まとめテスト	28	まとめのテストを最終回に実施し、28%で評価を行う。								
汎用的 学習成果	(1) (2) は専門的学習成果①・②・③・④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		レジュメ対応（講師オリジナルレジュメを配布）										
		過去問（講師作成の本試験過去問のレジュメを配布）										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①あらかじめ次回講義にどのような内容に触れるのかテキストで確認しておく。また、講義後には必ず該当範囲の復習をし、過去問を検討する時間を作る。 ②授業で取り扱った内容を小テストで出題するため自己管理できるが、重要問題を取り扱うため小テスト後に解説も行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 宅建士試験の概要	確認テスト①
	学習成果	宅建士試験の概要と準備。対策について理解できる。	
	予習復習の内容	インターネットなどを通して宅建試験の概要について確認する。	
	授業内容	都市計画法①	
2回	学習成果	都市計画法について理解できる。	
	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	都市計画法②	
	学習成果	都市計画法について理解できる。	
3回	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	建築基準法①	確認テスト②
4回	学習成果	建築基準法について理解できる。	
	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	建築基準法②	確認テスト③
	学習成果	建築基準法について理解できる。	
5回	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	国土利用計画法・農地法	確認テスト④
6回	学習成果	国土利用計画法・農地法について理解できる。	
	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	土地区画整理法	確認テスト⑤
	学習成果	土地区画整理法について理解できる。	
7回	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	宅地造成等規制法	確認テスト⑥
8回	学習成果	宅地造成等規制法について理解できる。	
	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	不動産鑑定評価	確認テスト⑦
	学習成果	不動産鑑定評価について理解できる。	
9回	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	地価公示法	確認テスト⑧
10回	学習成果	地価公示法について理解できる。	
	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	不動産に課する税金①	確認テスト⑨
	学習成果	不動産に課する税金①について理解できる。	
11回	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	不動産に課する税金②	確認テスト⑩
12回	学習成果	不動産に課する税金②について理解できる。	
	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	住宅金融支援機構・広告規制	確認テスト⑪
	学習成果	住宅金融支援機構・広告規制について理解できる。	
13回	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
	授業内容	統計・土地・建物	確認テスト⑫
14回	学習成果	統計・土地・建物について理解できる。	
	予習復習の内容	過去問の復習・検討	
15回	授業内容	まとめテスト	まとめテスト
	学習成果	法令・その他について理解できる。	
	予習復習の内容	これまでの学習内容を振り返る。まとめテストの復習・検討。	

科目名	病院実習				担当者	丸山 稜 ・ 加藤 淳子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業の前後に教室で受け付ける。また、Eメールで随時受け付ける。オフィスアワーと研究室の場所、講師控室の場所、オフィシャルなEメールアドレスは初回授業の時に伝える。											
専門的 学習成果	①	医療機関での実習を通して医事接遇、医療事務の一日の流れを実践できる。										
	②	医療事務で学んだ知識を実習を通して立体的に説明できる。										
	③	実習体験を通して医療機関への探求活動にいかす事ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	受付から会計までの一連の流れを確認し、医療機関で行われている業務に必要な技術を身につける。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	医療事務員に必要な知識と技術、接遇などを現場で触れる事により、より一層知識と技術を高める事ができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	実習を通して医療事務職への職業意識を深める事ができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	医療機関で1週間程度の実習を行うために、事前に実習意欲を高めより多くの知識や技術を身につける事を目的とする。具体的には、医療保険制度、公費負担制度、受付業務、会計業務、会話のポイントなど実習先ですべき事を確認する。最終的に実習を通して医療従事者と患者様との関わりやコミュニケーションの必要性を理解し、医療事務の業務内容を立体的に把握する事で、医療事務員としての知識と技術を高め、職業的自立に活かせるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	実習報告書から理解度や取り組みの姿勢を判断し評価する。								
		実習先評価票	25	実習受入機関による実習期間中の取り組みの姿勢の評価。								
	平常点	25	15回の講義の受講の態度、関心、意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3)は専門的学習成果②③により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		プリント配布										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業の進行に合わせて、これまでに学んだ知識を総動員してその日の当該部分のポイントを確認準備した上で授業に臨む。授業内容の振り返りを行い、配布されたプリント類の完成や知識の定着を行うこと。講義全体を把握した上で、1週間程度の実習(事後学習)に臨む。 ②プリント類の小問題の解答解説を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、医療機関について	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて実習の意欲を高める。	
	授業内容	医療保険制度の仕組みと流れ	
2回	学習成果	医療保険制度の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、医療保険制度について理解を深める。	
	授業内容	公費負担医療制度について	
	学習成果	公費負担医療制度の概要を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、公費負担医療制度について理解を深める。	
	授業内容	医療に携わる者としての心得	
4回	学習成果	医療従事者の心得を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、病院実習に向けての心得について理解を深める。	
	授業内容	会計業務について	
	学習成果	診療費の会計業務の算定が出来る。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、会計業務の算定について理解を深める。	
	授業内容	DPC制度について	
6回	学習成果	出来高払いの請求の他に、DPC制度を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、DPC制度について理解を深める。	
	授業内容	電子カルテについて	
	学習成果	紙カルテと電子カルテのそれぞれの特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、電子カルテの理解を深める。	
	授業内容	言葉遣い、態度、接遇マナーの確認	
8回	学習成果	正しい言葉遣いや、態度、マナーの技術を身につける。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
	授業内容	実習日誌の書き方のポイント	
	学習成果	考察の仕方など日誌を記入するためのポイントを説明できる。	
9回	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実習日誌の記入の仕方について理解を深める。	
	授業内容	正しい敬語の使い方	
10回	学習成果	尊敬語、謙譲語、丁寧語について説明ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
	授業内容	身だしなみについて	
	学習成果	身だしなみのポイントについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
	授業内容	話を聞くためのポイント	
12回	学習成果	話をしっかり聞く時の姿勢などのポイントについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
	授業内容	話をする時のポイント	
	学習成果	話をする時の内容や順序などのポイントについて説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実践できるように理解を深める。	
	授業内容	指示、報告、連絡と相談について	
14回	学習成果	指示、報告、連絡と相談の大切さを学び説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、報告連絡相談の重要性の理解を深める。	
	授業内容	実習前最終確認	
	学習成果	実習への意欲、知識、持参物など説明できる。	
15回	予習復習の内容	これまでの学習内容を振り返り、実習に向け理解を深める。	

科目名	問題解決学と発想法				担当者	水 野 篤						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。											
専門的 学習成果	①	課題を構造的に整理し問題点を明確にできる。										
	②	多角的な視点から解決策を発想することができる。										
	③	論理的思考を用いて解決案を検討できる。										
	④	思考の過程を言語化し他者に説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	課題を自ら発見し解決に向けて行動できる。										
	(2)	状況に応じて柔軟に考え方を切り替えできる。										
	(3)	他者と協働しながら課題解決に取り組める。										
	(4)	考えた内容を整理し分かりやすく伝えられる。										
授業概要	本授業では、身近な課題や社会的な問題を題材に、問題解決のための考え方と発想法を学ぶ。具体的には、KJ法を用いた情報の可視化や発想法、ロジカルシンキングによる課題構造の分析、解決策の検討方法を段階的に習得する。また、近年のAI技術が問題解決や意思決定にどのように活用されているかにも触れ、人間の思考との違いや役割について考察する。授業では講義と演習を組み合わせ、自ら考え、他者と共有しながら、実践的に課題解決力を高めることを目的とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	15	毎回、小テストを実施する。[15回、各15問]								
	汎用的 学習成果	小レポート	85	毎回、小レポートが課される。[15回]								
		(1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (4) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	川喜田二郎	『発想法』				中央公論（新書）						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	① 問題解決は特別な才能ではなく、課題を整理し考え方を工夫することで誰でも高めることができる能力である。本授業では、身近な出来事や社会的課題を題材に、KJ法による発想の整理やロジカルシンキングを用いた分析を通して、問題を構造的に捉える力を養う。あわせてAIの活用にも触れ、人間の思考との違いや役割を意識しながら、自ら考える姿勢をもって授業に臨んでほしい。 ② 授業では、発想法や論理的思考の基本を段階的に学習し、演習やグループワークを通して理解を深めていく。事前学習として、配布資料や指定された内容に目を通し、課題やテーマの概要を把握してから授業に参加すること（予習：週1時間程度）。事後学習としては、授業内で行った思考過程や成果を振り返り、自分なりの考えを整理すること（復習：週2～3時間程度）。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	問題解決学と発想法の全体像を理解する。	小テスト 小レポート
	学習成果	問題解決の基本的な考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	配布資料を読み授業の流れを整理する。	
	授業内容	身近な課題を題材に問題点を整理する。	小テスト 小レポート
2回	学習成果	課題と問題の違いを理解できる。	
	予習復習の内容	日常の事例を振り返り整理する。	
	授業内容	情報を集め分類する方法を学習する。	小テスト 小レポート
	学習成果	情報を整理し要点を抽出できる。	
	予習復習の内容	資料を確認し情報整理を復習する。	
	授業内容	KJ法を用いた発想と整理を行う。	小テスト 小レポート
4回	学習成果	考えを可視化して整理できる。	
	予習復習の内容	演習内容を振り返り整理する。	
5回	授業内容	ロジカルシンキングの基本を学ぶ。	小テスト 小レポート
	学習成果	論理的に考える手順を理解できる。	
	予習復習の内容	例題を用いて考え方を復習する。	
6回	授業内容	問題構造を分解し分析する。	小テスト 小レポート
	学習成果	問題の構造を図で説明できる。	
	予習復習の内容	分析結果を整理し振り返る。	
7回	授業内容	解決策を多角的に発想する。	小テスト 小レポート
	学習成果	複数の解決策を考えることができる。	
	予習復習の内容	発想した案を整理し比較する。	
8回	授業内容	解決策を評価し選択する。	小テスト 小レポート
	学習成果	妥当な解決策を選ぶことができる。	
	予習復習の内容	選択理由を整理し復習する。	
9回	授業内容	グループで課題解決に取り組む。	小テスト 小レポート
	学習成果	他者の意見を取り入れて考えられる。	
	予習復習の内容	話し合い内容を振り返る。	
10回	授業内容	AIを活用した問題解決事例を学ぶ。	小テスト 小レポート
	学習成果	AIと人の思考の違いを理解できる。	
	予習復習の内容	事例を読み内容を整理する。	
11回	授業内容	AIと人の役割分担を考える。	小テスト 小レポート
	学習成果	AI活用の可能性を説明できる。	
	予習復習の内容	考察内容を振り返り整理する。	
12回	授業内容	問題解決の過程をまとめる。	小テスト 小レポート
	学習成果	思考の流れを言語化できる。	
	予習復習の内容	まとめ資料を作成し復習する。	
13回	授業内容	課題解決の発表を行う。	小テスト 小レポート
	学習成果	自分の考えを分かりやすく伝えられる。	
	予習復習の内容	発表内容を振り返る。	
14回	授業内容	学習内容を社会課題に結びつける。	小テスト 小レポート
	学習成果	学んだ考え方を応用できる。	
	予習復習の内容	身近な事例を振り返る。	
15回	授業内容	授業全体を総合的に整理する。	小テスト 小レポート
	学習成果	問題解決の考え方を説明できる。	
	予習復習の内容	全体を振り返り理解をまとめる。	

科目名	日本語と英語で学ぶ簿記会計の原理				担当者	ナガノ野篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期集中
				授業時間数	15	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	企業活動における簿記・会計の意義について述べることができる。										
	②	財務諸表のメカニズムについて日本語と英語の概念を通じて複合的に理解し説明できる。										
	③	現代社会において国際社会に求められる会計知識について英語を通じての最低限の知見を得ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日本語と英語を通じて簿記・会計を学ぶことにより、国際的・社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	日本語と英語を通じて簿記・会計を学ぶことにより、国際的な文化の違い、現象理解の相違を知り、国際人・職業人としての実践につなげることができる。(専門的学習成果③)										
授業概要	近代において、簿記・会計は西洋社会から輸入された仕組み、概念である。そのため、用語の日本語訳を通じてそのメカニズムを日本語ネイティブが直観的理解をすることには困難が生じている。本授業は、こうした課題を克服するために日本人にも比較的馴染みやすい英単語・概念を用いて、簿記・会計のしくみについて深い理解を行うことを目指している。簿記上の取引における簡単な仕分けから、貸借対照表、損益計算書、そして国際基準に基づいて作成された実際の財務諸表を検討することで、今日的な企業会計の実相についての学びを深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	90	6回実施し、各回15%を配点とする。1～2回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	10	授業内容へのフィードバック、疑問点の解決、貢献・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	大津広一、我妻ゆみ		『会計プロフェッショナルの英単語100 世界の一流企業はこう語る』						ダイヤモンド社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①簿記検定Ⅰまたは簿記会計学の受講および授業内容への適切な理解があること、或いは日商簿記3級合格レベル知見を持っていることを前提に授業は行われる。(予習：週1時間程度)事後学習としては、テキスト並びに指定された範囲の演習問題を解くこと。(復習：週3時間程度)電卓は必ず持参すること。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い、添削して返却する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	英語で会計を学ぶ意義を知る	
	学習成果	借方、貸方、会計の5つの要素について英語で理解し説明できる	
2回	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
	授業内容	貸借対照表(バランスシート)の借方の会計英単語を学ぶ	
3回	学習成果	流動資産および固定資産にかかる用語について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4回	授業内容	貸借対照表(バランスシート)の貸方の会計英単語を学ぶ	
	学習成果	流動負債、固定負債、純資産にかかる用語について理解を深める	
5回	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
	授業内容	損益計算書(プロフィット&ロス・ステイメント)の会計英単語を学ぶ(1)	
6回	学習成果	売上、費用、利益にかかる基本的用語について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
7回	授業内容	損益計算書(プロフィット&ロス・ステイメント)の会計英単語を学ぶ(2)	
	学習成果	持分法による投資利益・損失、構造改革費用、減損損失な発展的内容について理解を深める	
8回	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
	授業内容	数字にまつわる表現を整理する	
9回	学習成果	Sales, Revenue, Profit, Profit, Income, Margin, Earnings, Return, Cost, Expense, Expenditure, Assets, Equityについて整理する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
10回	授業内容	数字にまつわる表現を整理する	
	学習成果	長い数値の読み方、小数点読み方、分数の読み方、加減乗除の読み方、四捨五入の読み方、累乗の読み方、単利 vs 複利、プラス、マイナスの正しい表現について整理する	
11回	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
	授業内容	企業活動における重要な表現と決算書類に関する知識を学ぶ	
12回	学習成果	ステークホルダー、主要な業界、管理会計、財務諸表の各種呼び方、単体・連結、決算期のチェック、インターネットによる決算書類の入手方法について学ぶ	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
13回	授業内容		
	学習成果		
14回	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	学習成果		
	予習復習の内容		